

21

161

司法省藏版

英國刑事訴訟手續 第貳卷

明治十六年三月印行

No 11168

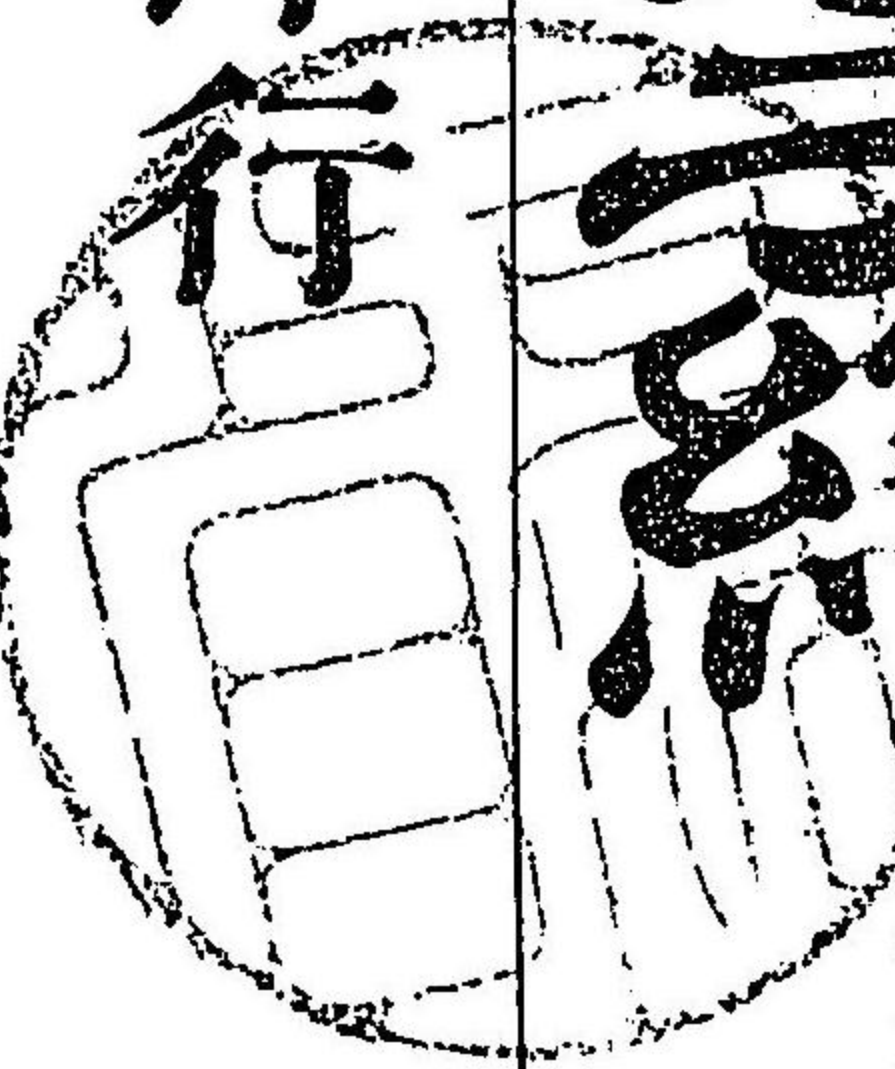
司法部藏版



英事公續
國事公續

第貳卷

明
六年三月印行



英國刑事訴訟手續第二卷目次

第一編

第一部

第五章 訊問、裁判、新訊問、誤審令狀等

第一節 訊問

第二節 陪審官ノ斷定及裁判

第三節 新訊問

第四節 刑事留置事件審理裁判所

第五節 誤審令狀

第二部 證據總論

第一章 證明スヘキ告白

第二章 爭點ニ於ル事項ヲ證明スル方法

一 一
八三 一
一一一
一一三
一三七
一七九
一七九
二四一

二

第一節 自認及自白

二五二

第二節 認定

二八五

第三節 書記シタル證據

二九三

第一項 記錄

二九三

第二項 記錄類似ノ物件

三〇八

第三項 私ノ性質ノ書記シタル證書類

三五二

第四節 口演ノ證據

三六三

第一項 口演ノ證據ヲ認取スヘキ場合

三六三

第二項 證人ノ不合格

三六八

第三項 證人ノ信用

三八五

第四項 必要ナル證人ノ員數

四一四

第五項 證人ニ對スル令狀

四一七

第六項 證人ノ諸費

四二八

第七項 證人ノ吟味

四四三

三

目次終

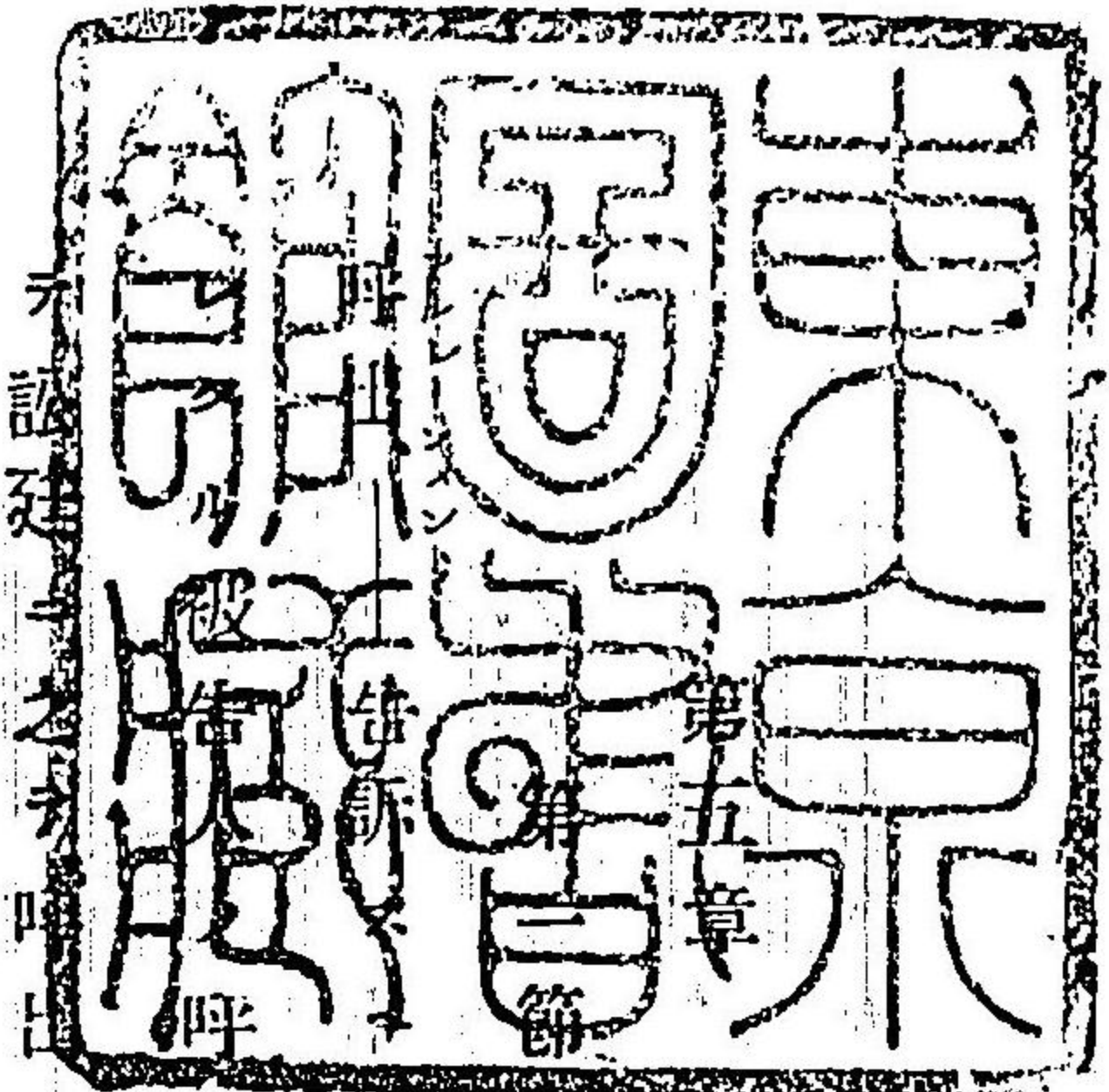
英國刑事訴訟手續第二卷

英國 アーチボールド 編纂

出浦 力雄 直譯

訊問、裁判、新訊問、誤審令狀等

訊問



タル罪ニ付テ罪アル者カ罪アラサル者カテ被告人ニ尋問スル事はナ
 リ従前ハ被告人ヲシテ告訴狀中ニ指名サレクル人ニ相違ナキヲ一
 層充分ニ表スルニ爲ニ其手ヲ舉サシムルノ習行ナリシト雖モ此式ハ
 一 決シテ必要缺ク可ラサルモノニアラスシテ現今ハ不用ニ属シタリ而

二
テ被告人が如何ノ方法ヲ以テ訊問セラレヘキ乎テ之ニ尋問スル古式
モ亦廢止サレタリ被告人ハ逃走ノ懼レアルコアラサル以上ハ手鎖、足
械或ハ他ノ檢束ヲ施スヲナクシテ訟廷ニ引出サレサル可ラス且事物
ノ自然ニ背カサル仁慈及柔和ヲ以テ總テ取扱ハレサル可ラス且被告
人ノ罪狀即チ其現況ノ不幸ノ感覺ヨリ發生スルモノコアラサル他ノ
恐懼又ハ不安心ヲ之ニ懷カシメサルカ如クニ取扱ハレサル可ラス會
テレイヤ、^(人)ノ事件ニ於テ呼出ノ時ト訊問ノ時トニ區別カ爲サレ而
テ被告人カ其呼出中手鎖ノ儘訟廷ニ在ルヘク強テ爲サレタリキ然レ
^(是)此事件ノ處辨方ハ總テ習慣法ノ註釋家ノ定説ニ違ヘリヤ、ミルロア
^(若)云ク被告人カ重罪ニ付テ刑ニ處セラレ、以前ニ手鎖ヲ施サレ又
ハ苦痛ヲ被ラセラル、事ハ一弊害ナリト又ブリトン氏云ク若シ犯罪
人カ答辨等ヲ爲ス爲ニ訟廷ニ出ツレハ其犯罪人ハ手鎖其他ノ檢束ヨ

三
リ生スル苦痛ノ爲ニ何レノ正當ナル狀態ヲ失ハス亦其自由ナル意思
ヲ以テ答辨スルヲ妨ケラレサルヘキカ爲ニ其手鎖又ハ檢束ヲ解クヘ
シト從前ハ若シ被告人カ最前ノ放免ヲ答辨スルヲ欲シタリセハ其被
告人ハ告訴狀ノ讀聽セテ之ヲ書取リ得而テ辨論中ニ之ヲ端正ニ陳述
シ得ノカ爲メニ徐々ニ爲サレノヲ請求スルノ權利アル者タリキ是
レ被告人ハ反逆又ハ重罪ノ事件ニ於テハ習慣法ニ由テ告訴狀ノ謄本
ヲ得ル權利ナキヲ以テナリ然レ^(是)現今ハ最前ノ放免ノ答辨ニ於テ被
告人ハ告訴サレタル罪ニ付テ會テ正當ニ放免セラレタリトノ事ヨリ
他ノ事情ヲ陳述スルハ^(若)井クトリヤ女帝即位第十四年及第十五
年ノ條例法第百章第二十八條ニ由テ不緊要トナサレタリ且被告人ノ代
言人カ被告人ノ辨護ノ爲メ告訴狀ヲ緊要ト思量スル場合ニ於テハ總
テ恩惠トシテ告訴狀ノ全部又ハ被告人ニ於テ檢査スルヲ緊要トスヘキ

四

カ如キ部分ノ謄寫ヲ許可スルハ裁判所ニ於テ尋常ノ手續ナリ若シ被告
人カ同罪ノ爲ニ告訴狀并審問書ヲ以テ告訴サレタレハ其被告人ハ
兩通ニ付テ同時ニ呼出サレ而テ訊問セラレ、一ヲ得テ而テ數名ノ被
告人カ同一ノ告訴狀ヲ以テ告訴サレタル場合ニ於テハ其數名ハ悉ク
同時ニ呼出サレサル可ラサルナリ「被告人ニ告訴狀カ讀聽セラレタル
ヤ否告訴書記又ハ裁判所ノ官吏ハ被告人ニ向テ「何ト汝ハ云フ乎汝ハ
罪アル者ナル乎或ハ罪アラサル者ナル乎」ノ問ヲ發シテ答ヲ請求ス若
シ被告人カ有罪ヲ答辨シ而テ判事ノ満足スル如ク其被告人ハ其答辨
ノ成果ヲ正シク會得スル_一顯著ナレハ其被告人ノ自狀カ記錄ニ登載
サレ而テ即時刑ノ言渡カ爲サレ又ハ裁判ヲ受クル爲ニ再ヒ出廷セシ
メラル、爲ニ訟廷ヨリ退ケラル、ナリ被告人カ管轄ニ對シ又ハ錯誤
ニ對シテ答辨シ又ハ特別ニ答辨シ(即チ拒否)或ハ止訴答辨ヲ以テ法律

五

上ノ爭點ヲ舉ル場合ノ手續ハ既ニ充分ニ説明サレタリ(第四章ニ於テ)
若シ被告人カ促サレタル時答ヲ爲サス又ハ直接ニ答ヲ爲サ、レハ裁
判所ハ既ニ第四章第六節ニ述ヘタル如ク相當ノ官吏ニ無罪ノ答辨ヲ
記入スルヲ命令スル_一ヲ得(第四世ヨ一シ帝即位第七年及第八年ノ條
例法第二十八章第二條)然レモ從前ハ重罪ノ事件ニ於テ頑固ニ沈黙ス
ルノ結果ハ物品ノ沒収及ペーン、フォルト、エト、ジュール(強キ若キ苦痛ト
云フ義ニシテ被
告人答辨セサレハ獄内ノ暗室ニ入レ裸體ニシテ臥サシメ脊上ニ重キ
鐵板ヲ乗セ置キ食物ハ其室ノ入口ニ置キ容易ニ之ヲ得ル能ハサラシ
メテ苦痛セシメ其答辨ヲ爲スカ死(ナリキ而テ第三世ヨ一シ帝即位
第十三年ノ條例法第二十章ニ由テ裁判ハ有罪ノ答辨ニ於ルカ如クナ
リキ被告人カ惡意ヲ以テ沈黙スルヤ又ハ否ラサルヤノ疑ヒアル場合
ニ於テハ裁判所ハ即時陪審官ヲ徵集シ而テ宣誓セシメ被告人カ惡意
ヲ以テ沈黙スルヤ又ハ神罰ニ由テ然ルヤヲ訊問スルヲ指令スル_一ヲ

六

得而テ斯ノ如キ陪審官ハ其時裁判所ニ出席シタル何レノ十二名ヲ以テ組織スルヲ得斯ノ如キ場合ニ於テ陪審官ニ對シテ施行サレヘキ宣誓ハ左ノ如キ式タルヲ得

汝ハ重罪ヲ以テ告訴サレテ今訟廷ニ在ル被告人何某ハ惡意ヲ以テ沈黙スル乎又ハ神罰ニ由テ然ル乎宜ク且正實ニ訊問シ而テ證據ニ隨テ正實ノ斷定ヲ下スヘシ故ニ汝ヲ助ヨ上帝ヨ

若シ人カ神罰ニ由テ沈黙シタリト見出カレタルハ裁判所ハ其裁量ヲ以テ被告人ヲシテ告訴ヲ了解シ而テ其答辨ヲ爲シ得サシムルニ充分タルヘキカ如キ方略ヲ用ユヘシ而テ若シ此方略ニ行ハレ難シト見出サルレハ無罪ノ答辨カ記入サレ而テ訊問ハ前進セサル可ラスナリル^(人)ノ事件ニ於テ答辨セシメ能ハサリシ聾者ノ場合及シヨーンズ^(人)ノ事件ニ於テ聾啞者ノ場合ヲ見ルヘシダケリヤ女帝即位第三年及

第四年ノ條例法第五十四章第三條ニ由テ擴張サレタル第三世ジョーイ帝即位第三十九年及第四十年ノ條例法第九十四章第二條ニ制定シテ云ク若シ何レノ罪ノ爲ニ告訴サレタル何レノ人カ狂人ニシテ而テ斯ノ如キ人ハ斯ノ如キ告訴狀ヲ以テ訊問サレ能ハサルカ爲ニ訊問ノ爲メ正當ニ徵集サレタル陪審官ニ於テ狂人ナリト其呼出ノ上見出サレタレハ何レノ斯ノ如キ人ノ呼出サレタルヘキ裁判所ニ於テハ斯ノ如キ發見^(陪審官)ヲ記録ニ登載スルヲ指令シ而テ之ニ由テ斯ノ如キ人ヲ女帝陛下ノ勅命アルニ至ルマテ嚴重ニ監守サレヘキヲ命令スルハ正當ナルヘシト凡ソ答辨スルヲ拒ム被告人ハ正氣ナル乎又ハ否ヲサル乎ヲ訊問スル陪審官ニ施行サレヘキ宣誓ノ式ハ左ノ如シ

七

汝ハ輕罪ノ爲ニ告訴サレタル被告人何某ハ狂氣ナル乎又ハ否ヲサル乎ヲ我國君女帝陛下ノ爲ニ及陛下ニ代リテ勉テ審問シ而テ正實

ナル申告ヲ爲シ而テ汝ノ最モ善ク了解スル處ニ隨テ斷定ヲ下スヘシ故ニ汝ヲ助ケヨ上帝ヨ

女帝ノ面前ニ於テ女帝ニ對シテ背逆ノ言語ヲ用キタルカ爲ニシインズベシテ裁判所ノ訟廷ニ於テ訊問サレタルグロイド(名)ノ事件ニ於テ陪審官ハ之ニ關スル何レノ證據ナクシテ只其被告人ノ呼出サレタル時訊問中ノ其舉動ノミヨリ其精神ノ有様ニ付テ意見ヲ定ムルヲ得ト認ラレタリ然レモ尋常ノ狀況ニ依レハ判事ニ於テ被告人ノ當時(犯罪時)ノ精神ノ有様ニ關スル證據ヲ要スルハ通例ナリ被告人カ聾啞ニシテ亦狂氣ナリト見ヘシ場合ニ於テ判事オルダトソンハ三個ノ異ナル爭論點ヲ陪審官ニ附シ各個ニ付テ別々ニ宣誓スルヲ之ニ指令セリ即チ第一被告人ハ惡意ヲ以テ又ハ神罰ニ由テ沈黙スル乎第二被告人ハ答辨スルヲ能スル乎第三其被告人ハ正氣ナル乎又ハ否ヲサル乎是ナ

リ而テ第三ノ點ニ付テ其被告人ハ其故障ヲ爲サント欲スル陪審員ニ對シテ忌避ヲ爲スニ適當ノ辨護ヲ爲シ且證據ノ詳細ヲ了解スル爲ニ訊問上ノ手續ヲ會得スルニ足レル才能ヲ有スルモノナル乎テ審問スルヲ陪審官ハ指令セラレタリキ千八百五十二年五月十二日中央刑事裁判所ニ於テ其母ヲ謀殺シタル爲ニ告訴サレ而テ呼出ノ上無罪ナリト云シホウエイ(名)ノ場合ニ於テ判事プラットハ被告代言人ノ請願ニ由テ該被告人ハ告訴狀ニ對シ答辨スルニ適當ナル精神ノ有様ナル乎テ審問スル爲ニ宣誓スヘキテ陪審官ニ指令シタリキ而テ該被告人ハ其告訴サレシ罪ノ性質ヲ了解スルカ如シト雖モ有罪ノ答辨無罪ノ答辨ノ區別ヲ了解スル能ハサルカ如シトノ事カ證據上顯ハレタルヲ以テ陪審官ハ博識ナル判事ノ忠告ニ依リ該被告人ハ精神不確實ニシテ答辨スル能ハサル者ナリトノ斷定ヲ回報シタリキ被告人カ假令

～其告訴サレシ罪ヲ犯セシトキハ全ク正氣タリ得シト雖モ其呼出ノ
 時ニ於テ狂氣ト見出サレシ場合ニ於テハ其被告人ハ其罪ノ爲ニ呼出
 サレサルヘシ如何トナレハ其被告人ハ適當ナル注意ヲ以テ告訴狀ニ
 對シ答辨スルヲ能ク又ハ辨護ノ爲ニ緊要ナル事ヲ爲スヲ能スル爲ニ
 充分ナル感覺ヲ有スルモノニアラザレハナリトノ事ハ往昔ヨリノ法
 律ナリキ〔正氣ナラザル人ノ訊問上ノ手續ニ付テハ第一章第二節中ノ
 上議院ノ下問ニ對スル回答ノ部ヲ見ルヘシ〕被告人ハ告訴狀ニ對シテ
 答辨スルニ足レル正氣ノモノナル乎又ハ否ラサル乎ヲ審問スル爲ニ
 陪審官カ官吏ノ審問ノ性質ヲ以テ宣誓スル場合ニ於テハ裁判所ハ該
 官ノ發見ヲ記録ニ登載スヘキヲ指令ス而テ左ニ記載スルハ發見ノ記
 録ノ書式ナリ

ミツドルセクス郡——女帝ヨリ何某(被告)ニ對ス——此被告人ハコ

ユーゲート(地名)ノ女帝陛下ノ監獄ノ看守人ノ監守中ニアルヲ保身令
 狀ノ權ヲ以テ此裁判所ニ引致サレタルヲ以テ該令狀及之ニ對シテ
 爲サレタル回報書カ呈出サル、事カ命令サレタリ而テ該被告人ハ
 我國君女帝陛下ニ付テ及關シテ或ル侮辱及背逆ノ言語ヲ談話シ及
 刷行シタル或ル輕罪ノ爲ニ此裁判所ニ於テ該被告人ニ對シテ見出
 サレタル告訴狀ニ由テ今此ノ裁判所ニ呼出サレタリ而テ該被告人
 ハ該告訴狀ヲ以テ告訴サレタル説示部ニ付テ罪アル者ナル乎又ハ
 否ラサル乎ニ此裁判所ニ於テ問ハレタリ之ニ付テ該被告人ハ該告
 訴狀ニ對シテ答辨スルヲ拒ム而テ該被告人ハ該告訴狀ニ由テ訊問
 サレ能ハサル如クニ狂氣タルヲ得ル事カ此裁判所ニ顯著ナルヲ以
 テ是故ニ女帝陛下ノ檢事長スル、ウヰリヤム、アサートン、ナイト(爵)ノ
 請願ニ依リ陪審官カ此資格ヲ以テ我國君女帝陛下ノ爲ニ及代リテ

該被告人ハ狂氣ナル乎又ハ否ヲサル乎ヲ訊問及審問スル爲ニ直ニ
 此裁判所ニ來ル事カ命令サレタリ而テ直ニ之ニ付テ陪審官カ該ニ
 ヲドルセシメ郡ノ郡長ニ於テ徵集サレ而テ回報サレテ此裁判所ニ
 來リ而テ上文所陳ノ説示部ニ關シ及涉リテ選マレ且訊問シ及正實
 ナ陳述スルヲ宣誓シタルヲ以テ其宣誓ノ上該被告人ハ狂人ナリト
 云フ而テ該檢事長ハ我國君女帝陛下ノ爲ニ及代リテ此裁判所ニ請
 願ス該陪審官ノ發見カ記録セラル、トテ是ニ付テ該陪審官ノ該發
 見カ記録サル、事及該被告人カ説示部ニ於テ女帝陛下ノ勅命カ知
 ラルヘキニ至ルマテ該監獄ニ嚴重ニ監守サル、事カ該裁判所ニ於
 テ命令サレタリ而テ該被告人ハ今此裁判所ニ於テ女帝陛下ノ勅命
 カ知ラレヘキニ至ルマテ嚴重ニ監守サル、爲ニ該監獄ノ看守人ノ
 監守ニ再ヒ附セラレタリ、 檢事長ノ請願ニ於テ、 裁判所ニ由

テ

告訴狀カ第四世ヨシヲ帝即位第七年及ヒ第八年ノ條例法第二十八
 章第十一條ニ從ヒ重罪ノ爲ノ最前ノ決罪ノ一告訴ヲ含有スル場合ニ
 於テ被告人ヲ呼出スノ方法ハ最前ノ決罪ノ爲ノ告示ヲ以テ陪審官ニ
 委託スルノ時ヲ解釋スルガサトトリア女帝即位第十四年及第十五
 年ノ條例法第十九章第九條ニ由テ變セラレサルナリ而テ裁判所ニ於テ
 ハ先ツ全体ノ告訴狀ヲ以テ被告人ヲ呼出シ而テ後只後ノ重罪ノミヲ
 以テ陪審官ノ委託ニ之ヲ附スルニアリト説明サレタリ(第二編第五部
 ヲ見ルヘシ)

若シ被告人カ無罪ヲ答辨セハ其答辨ハ裁判所ノ官吏ニ於テボニットセ、
スリベル、パトリヤム(自ラ國ノ上ニ選ムト云フ義)ナル言語ノ畧字ナルボ、セ、ナル言語
 ナ記シ又ハ中央刑事裁判所ニ於ケルカ如クプツ(選ムト云フ義)ナル言語ヲ以

テ及裁判所ノ記録簿中ニ記入スルヲ以テ記録サル、ナリ
 重罪ノ訊問ハ被告人ノ目前ニ於ルノ外決シテ爲サレ能ハサルナリ最
 モ輕罪ノ告訴ハ假令ハ被告人カ出席セスト雖モ若シ最前答辨シタレ
 ハ訊問セラル、コト得ルカ如シト爰ニ附言スルハ緊要ナルヘシ
 被告人カ大陪審官ノ告訴狀ヲ棄却スル一種ノ犯罪ノ爲ニヴヰクトリ
 ヤ女帝即位第六年及第七年ノ第九十一章ノ殖民地逮捕條例ニ從ヒ海
 外ニ於テ逮捕サレタル場合ニ於テハ其被告人ハ他ノ犯罪ノ爲ニ呼出
 サレ及訊問セラル、コト得
 デフエンス、イン、フォルマ、ポイベリス(貧民ノ性質ニ於ル辯護ト云フ義
 セラレテ訴訟ナリ)訴訟ノ理由ヲ有スル各貧人ハ押印又ハ書記
 ノ費用ヲ拂フコトナクシテオリシナル、リツ、原令狀被告人ニ對スル總又ハサブポイナ令
 狀証人等ノ出廷等ヲ令スヲ得ヘシ且司法尙書ハ書記ニ之ヲ書記スルヲ
 總テノ令狀ヲ云フ

命シ及代言人ニ該訴訟ノ爲ニ謝金ヲ取ルコトナクシテ代言スルヲ命ス
 ヘシ且キングス、ベンチ(即チクイン)裁判所及コンモン、ベンチ裁判所ノ
 判事エクスチエツカ一裁判所ノ判事及該訴訟ノ起サレヘキ記録裁判
 所ノ總テ他ノ判事モ亦之ヲ命令スヘシトノ事カ第七世ヘンリー帝即
 位第十一年ノ條例法第十七章ニ依テ制定サレタリ此制定ハ刑事並民
 事ノ事件ニ適用ス是故ニ貧人カ總テ其負債ヲ消却スルノ後其着用ス
 ル衣服ヲ除キテハ五磅ノ金ト雖モ有セサル事ノ顯著ナル場合ニ於テ
 ハ其貧人ハクイン、ベンチ裁判所ニ於テ告訴狀ニ對シ裁判所ノ官吏
 ニ通例ノ謝金ヲ拂フコトナクシテ貧民ノ性質ヲ以テ出廷シ而テ自己ヲ
 辨護スルヲ許サル、コト得又輕罪ノ爲ニ其夫ニ告訴サレタル婦女ハ
 貧民ノ性質ヲ以テ辨護スルヲ許サレタリキ而テ偽誓ニ付テ決罪サレ
 而テ偽造罪ニ付テ法外刑ニ處セラレタル人ハ一貧人トシテ國帝ノ赦

免テ答辨スルヲ許サレタリキ重罪ノ爲ニ告訴狀カ見出サレ而テ審査令狀ヲ以テクインズ、ベンチ裁判所ニ移サレシ被告人カ貧民ノ性質ヲ以テ其裁判所ニ出廷シ而テ辨護スルヲ許サレタリキ而テ此手續ハ告訴狀カ被告人自身ノ請求ニ依テ審査令狀ヲ以テ移サレタル場合ト雖モ許可サル、ナリ被告人カ巡回裁判期ニ於テ決罪サレシ場合ナルストークス(各)事件ニ於テ誤審令狀ヲ貧民ノ性質ヲ以テ得ル許可ノ請願カ願書及誓言書ヲ以テ私局ニ於ル判事パークニ爲サレタリキ其博識ナル判事ハ假令ハ該令狀ハ許與サレ能ハストハ斷言シ難シト雖モ斯ノ如キ事情ノ誤審令狀ハ同氏ノ嘗テ知ラサル所ナリト告諭セシカ終ニ此事件ハ刑事留置事件トシテ論セラレタリキ然リト雖モ裁判所ハ何時ニテモ貧民ノ性質ヲ以テ訴ヲ爲スナ人ニ許可スルヲ得ルカ如シウヰリヤム帝及メーレー女帝即位第五年及第六年ノ條例法第二十

一章及第三世ウヰリヤム帝即位第九年及第十年ノ條例法第三十五章ニ依テ貧民ノ性質ヲ以テ訴ヘ又ハ辨護スル人ハ印紙稅ヲ免ル是故ニ貧人ハ尋常ノ場合ニ於テハ拂フヘキモノタル二十シルリングノ印紙稅ナクシテ誤審令狀ヲ得ル權利アルヘシ貧人トシテ告訴狀ニ對シテ辨護スルヲ許可サレヘキ願書ハ左ノ書式ヲ以テスルヲ得

女帝陛下ノクインズ、ベンチ裁判所ノ判事長スル、アレキサンドル、ジエームス、エドマンド、コックボルン、ハロチット(各)閣下及同裁判所ノ其他ノ判事閣下ニマテ——何某云々ノ卑キ願書ハ千八百五十七年十二月中々央刑事裁判所ノ管轄ノ爲ニ開カレタル巡回裁判期ニ於テ偽誓罪ノ告訴狀カ閣下ノ願人ニ對シテ呈出サレ其告訴狀カ其時及其場ニ於テ眞ノ狀ト大陪審官ニ見出サレタリシ事及去ルヒラレ

一裁判期ニ於テ該告訴狀カ審査令狀ヲ以テクインズ、ベンチ裁判所

ニ移サレタリシ事ヲ示ス然ルニ閣下ノ願人ハ甚タ貧窮ニシテ其着用スル衣服ヲ除キテハ世界ニ於テ五磅ノ價額ヲモ有セサルヲ以テ而テ其正當ノ負債ハ總テ消却シタルヲ以テ閣下ノ願人ヲシテ貧民ノ性質ヲ以テ該告訴ヲ辨護スルヲ得サシムル貴裁判所ノ命令ナクシテハ該告訴狀ニ對シテ自身ヲ全ク辨護シ能ハサルナリ是故ニ閣下ノ願人ハ謹テ願フ閣下カ満足シテ之ヲ該告訴狀ヲ辨護スル貧人ト認可スヘキヲ而テ閣下ノ願人ハ常ニ願フヘシ云々

上文ノ願書ヲ保證スヘキ誓言書ハ左ノ如クタルヲ得

クイソス、ベンチ裁判所ニ於テ——女帝ハ何某ニ對スル何某ノ告訴ニ付テ——上ニ指名サレタル被告人何某ナル予ハ宣誓ヲ爲シ而テ云フ予ハ予ノ着用スル衣服ヲ除キテハ世界ニ於テ五磅ノ價額ヲモ有セサルモノナリト、 宣誓ス云々

何某

此願書ハ通例私局ニ於ル判事ニ呈セラレタリ然レモ公廷ニ於テモ呈セラル、ヲ得而テ願書ノ願意カ聞届ケラルレハ辨護ノ爲メ委任サレタル辨護人及代言人ノ姓名ヲ記載スル指令書カ判事附屬ノ書記ニ於テ調製サル、ナリ此指令書ハ貧人カ何レノ事ヲ謝金ヲ拂フヲナクシテ爲サレノヲ要スル時出サレサル可ラス

裁判所ハ或ル場合ニ於テハ貧民ノ性質ヲ以テ告訴スルヲ人ニ許可スヘシト雖モ貧窮ノ普通ノ誓言書ニ由テハ之ヲ許可セサルヘシ斯ノ如キ請願ハ只前文ノ願書及誓言書ニ加フルニ代言人ノ証書ヲ以テ特別ノ理由アルモノニ限リ許可サレ能フノミ

巡回裁判期ニ於テ被告人カ辨護人ニ依テ辨護サレサル場合ニ於テ特別ノ事情ヲ以テ及通例謀殺ノ告訴ニ於テハ裁判所ハ無謝禮ニテ被告人ノ爲ニ辨護ヲ爲スヲ免許代言人ニ請求スヘシ

陪審官——被告人カ自ラ國ノ上ニ選ミタルヲ以テ次ノ手續ハ小陪審員（ロルス大陪審官ノ見出シタル告新）ヲ呼フニアリ之ハ告訴書記カ左ノ言語又ハ類似ノ言語ヲ以テ爲スナリ

我國君女帝陛下ト訟廷ニ在ル被告人トノ間ニ聯結シタル爭論ノ點ヲ訊問スル爲ニ回報サレ及徵集サレタル汝善良ノ人ヨ汝ノ姓名ニ答ヘヨ而テ汝ノ謝金ヲ保テヨ（而テ後陪審員ノ姓名ヲ呼上ル）

陪審員ノ姓名ハ假令ニ其名簿ニ記載ノ順次ニ於テ呼上ルハ一般ニ適當ナリト雖モ斯ノ如ク呼上ケサル可ラサル事ハ法律ノ點上緊要ニアラサルナリ是故ニ陪審員ノ姓名カ斯ク順次ヲ追テ呼上ケラレサルコトハ錯誤ノ理由ニアラサルナリ

第四世ジョーシ帝即位第六年ノ第五十章ナル陪審官條例ハ陪審員ノ人品ヲ解釋ス其第一條ニ制定シテ云ク英國内ノ何レノ郡ニ住居スル

年齢二十一歳ヨリ六十歳マテノ各人（後文ニ除カレタル者ノ外）下文ヲ見ルヘシ）ニシテ同郡内ニ於テ自己ノ名又ハ委託ヲ以テ土地又ハ財產ヲ有シ其土地又ハ財產ハフリーホールド（一代限リ又ハ代々所有スル方）コビーホールド（受領地ノ一種ニシテ之ヲ受領スルニ列ニ券狀ヲ受ケスルノ保持方）又ハ習慣上ノ借受物又ハ古來ノ自領地ナルニ拘ハラヌ一年ノ眞ノ入額十磅ヲ得ル者或ハ何レノ斯ノ如キ地又ハ財產ヨリ産出スル地代ニ於テ該入額ヲ得ル者或ハ斯ノ如キ土地又ハ財產ト全權ノ領地又ハ制限アル領地ヨリ出ツル又ハ自己或ハ他人ノ一生涯得ル地代ト合算シテ該入額ヲ得ル者或ハ同郡内ニ於テ二十一年又ハ以上ノ期限間又ハ一代又ハ數代ニシテ止ムヘキ何レノ期限間借受テ保持スル土地又ハ財產ニ於テ一年ノ眞ノ入額二十磅ヲ得ル者或ハ戶主タルヲ以テミッドルセクス郡ニ於テハ三十磅ヨリ少カラス何レノ他ノ郡ニ

於テハ二十磅ヨリ少カラサル救貧稅ヲ課セラル、者或ハ十五以上ノ
 歸アル家ヲ領スル者ハウエストミンスターニ於ル女帝ノ記録裁判所
 ノ何レニ於テ及三個ノカウンテ、パラチン(特別ノ刑事管轄ヲ有スル郡)ノ民事及刑
 事ノ上等裁判所ニ於テ及總テノ巡回裁判所ニ於テ聯結シタル總テノ
 爭論點ノ訊問ノ爲ニ陪審官ヲ勤ムヘキ合格ノモノニシテ義務アルモ
 ノタルヘシ(斯ノ斯キ爭論點ハ斯ク合格ノ各人カ住居スル郡ニ於テ訊
 問スヘキモノタリ)且亦治安裁判期ノ裁判所ニ於テ大陪審官ヲ勤メ及
 該治安裁判期裁判所ニ於テ聯結シ而テ斯ク合格ノ各人カ住居スル郡
 ライオング又ハジヴイシユンニ於テ訊問サレヘキ總テノ爭論點ノ訊
 問ノ爲ニ小陪審官ヲ勤ムヘキ合格ノモノニシテ義務アルモノタルヘ
 シ且ウエールスノ何レノ郡内ニ住居スル上文所陳ノ年齢内ノ各人(例
 外ノ中ニアル場合ノ外)ニシテウエールスニ於テ上文ノ人品ノ何レノ

個條ノ五分ノ三ニ合格ナル者ハ斯ク合格ノ各人カ住居スルウエール
 スノ各ノ郡ニ於テ各ノ指名サレタル裁判所ニ於テ陪審官ヲ勤ムヘキ
 合格ノモノニシテ義務アルモノタルヘシト
 別ニ治安四季裁判期ノ其内ニアルヘキ何レノ市區ノ市人タル各人ハ
 該市區ニ於テ大陪審官ヲ勤メ且亦斯ノ如キ人カ市人タルヘキ市區内
 ニ於テ訊問サレヘキ何レノ治安四季裁判期裁判所ニ於テ聯結シタル
 總テノ爭論點ノ訊問ノ爲ニ陪審官ヲモ勤ムヘキ合格ノモノニシテ義
 務アルモノタルヘシト第四世ウヰリヤム帝即位第五年及第六年ノ條
 例法第七十六章第百二十一條ニ依テ制定サレタリ
 下ニ記載サレタル人ハ第四世ジョージ帝即位第六年ノ條例法第五十
 章第二條ニ依テ陪審官ヲ勤ムルコトヲ免ルモノナリ即チ貴族、ウエスト
 ミンスターニ於ル諸裁判所ノ判事、聖職ノ僧徒、ローマンカトリック宗

ノ僧徒ニシテ法律ニ由テ要セラレタル宣誓ヲ爲シ及宣告書ニ署名シタル者、プロテスタント宗ノ異說者ノ教會ニ於テ教授シ又ハ說教スル人ニシテ其會合所チ正當ニ登簿シ其法律ニ由テ要セラレタル宣誓ヲ爲シ及宣告書ニ署名シタル者ヲ証スル治安判事ノ證書ヲ出シテ學校教員ノ職業ノ外何レノ俗業ニ從事セサル者、實地營業スル法律士及訟師、法律博士會社ノ社員及實地營業スル民法ノ代言人、實地營業シ且正當ニ毎年ノ證書ヲ得タル、アトルチー(代言)ソリサイトル(上)及プロクトル(上)現ニ職務ヲ行フ何レノ裁判所ノ官吏、檢屍官、典獄及矯正院ノ看守人、實地營業スル倫敦府ノ醫學大學校ノ校員及免許人、倫敦府、エヨンハラ府又ハダブリン府ノ外科醫學大學校ノ校員ニシテ實地營業スル外科醫、製藥會社ニ於テ保証サレ而テ實地營業スル製藥者、俸給ノ全額ヲ受ル陸軍及海軍ノ武官、デプトフオアドストロンド(名)ハル(名)又ハ、ニユ

ーカスルアポソタイン(名)ニ於ルトリコテーハウス(水先案内ノ規則ヲ標者ヲ免許シ或ハ燈臺淨會社)ヨリ免許サレタル水先案内者及此等ノ地ノ浮標又ハ燈臺事務ノ主事及五港ノ總長ヨリ免許サレタル又ハ何レノ他ノ港ニ於テ條例法又ハ官許狀ニ由テ免許サレタル水先案内者、女帝陛下ノ宮内ノ雇人、税關官吏又ハ收税官吏、郡長配下ノ官吏、上警察官及寺院區書記治安判事ハ其判事タル何レノ治安裁判期ニ於テ勤ムヘキ陪審官トシテ徵集サレサルヘシ(同章第四十八條)生レナカラニシテ女帝ノ臣民ニアラサル人ハ陪審官又ハ糾問ニ於テ勤ムヘキ合格ノモノニアラス及アラサルヘシ(例外ノ場合)後文ノ外國人タル犯人訊問ノ爲メ外國人ヲ陪審員ニ徵集スル事ニ於ルニアラサレハ)而テ何レノ反逆又ハ重罪ニ付テ刑ニ處セラレタル又ハ處セラレヘキ又ハ耻ツヘキ何レノ罪ニ付決罪サレタル人ハ自由ノ赦免ヲ得タルヘキニアラサレハ如

何ノ場合ト雖モ何レノ裁判所ニ於テ陪審官又ハ糾問ニ於テ勤ムヘキ合格ノモノニアラス又ハアラサルヘシ法外刑又ハ破宗門ヲ受ケタル者モ亦同シ(同章第三條)

市府會議員及治安判事、市府ノ事務官及市區ノ會計官モ亦市區ニ於テ徵集サレタル何レノ陪審官ヲ勤ムル合格ノモノニアラス而テ其市區ノ存在スル郡ニ於テ徵集サレタル何レノ陪審官ヲ勤ムルヲ免ル而テ別ニ治安四季裁判期裁判所ヲ有スル市區ノ市人モ總テ亦斯ノ如キ市區ノ存在スル郡ニ於テ何レノ治安一般又ハ四季裁判所ニ於テ小陪審官ヲ勤ムルヲ免ル(第四世ウヰリヤム帝即位第五年及第六年ノ條例法第七十六章第二百二十二條第一章第七節ヲ見ルヘシ)郡ニ於テ陪審官名列表準備シ陪審員トシテ合格ノ人ノ姓名ヲ回報シ陪審官簿ヲ調製シ及陪審官ヲ徵集スルノ方法ハ第四世ジョージ帝即位第六年ノ條例

法第五十章第四條六條八條十條十二條十四條二十條二十二條二十五條ニ依テ指示サレタリ

英國及ウヰールス内ノ各ノ郡、ライディング及ソグイッシュニ於ル治安書記ハ毎年七月ノ第一週ニ於テ其令狀ヲ上警察官ニ向テ發シ該官ニ於テ其各ノ管轄内ノ數寺院區ノ監督及貧民監督ニ向テ其寺院區及市内ニ住居シテ陪審官ヲ勤ムヘキ合格ノ及義務アル總テノ人ノ名列表回報スルヲ要スル命令書ヲ發スルヲ命令スルヲ要セラル、ナリ上警察官ハ該令狀ヲ受クル後十四日内ニ其命令書ヲ隨テ調製ス而テ寺院區監督及貧民監督ハ名列表ヲ調製シ其謄書ヲ九月ノ初ノ三日曜日ニ於テ寺院ノ戸ニ張出スナリ而テ九月ノ最終ノ一週ニ開カレタル特別小裁判期ニ於テ此等ノ名列表ヲ呈出セラル、ナリ其時判事ハ不合格ノ人又ハ薄弱ノ理由ニ由テ勤ムル能ハサル人ノ名ヲ削除シ或ハ何レ

ノ合格ノ人ノ漏レタル名ヲ挿入ス斯ノ如キ小裁判期ニ出席シタル判事ニ於テ正當ニ改正サレ而テ是認サレタル名列書ハ其後上警察官ニ交付セラル、ナリ該官ハ之ヲ次回ノ四季裁判期裁判所ニ呈出セサル可ラス其後該名列書ハ治安書記ニ於テ陪審官簿ニ寫シ取ラレ其陪審官簿ハ一月ノ一日ヨリ一ケ年間使用セラレシカ爲ニ該書記ヨリ郡長ニ交付セラル、ナリ(同條例法同章第四條六條八條十條十二條同條例法同章第二十條ニ制定シテ云クキングス、ベンチ裁判所及總テノ巡回裁判所三特別郡ノ上等刑事裁判所及英國內ノ治安裁判所及ウエールス内ノ總テノ治安大裁判期及裁判期裁判所ハ各々其裁判所ニ於テ何レノ爭論點ノ訊問ノ爲ニ陪審官ノ回報ノ爲又ハ何レノ斯ノ如キ爭點ヲ訊問スル爲ニ回報サレタル陪審員ノ名列書ヲ修正シ又ハ増加スル爲ニ何レノ令狀又ハ命令書ヲ發スルヲ又ハ何レノ裁定又ハ命令ヲ口

演ヲ以テ又ハ否ラスシテ爲スヲニ付テ其從來有シ及行ヒタリシト同一ノ權力及許可ヲ有シ及行フヘシ而テ各ノ斯ノ如キ令狀、命令書、裁定又ハ命令ニ對スル回報ハ陪審員カ郡ノ總体ヨリ回報セラルヘシ而テ郡内ノ何レノハンドレツド(小區)又ハ何レノ特別ノ場所ヨリ回報サレサルヘシ而テ此條例法ニ從テ合格ノモノタルベシトノ事ヲ除キ從來該裁判所ノ各ニ於テ用サレタル及習慣タル方法ヲ以テ爲サルヘシト

巡回判事カ其巡回區ニ行ントスル前ニ郡長ニ向ケ其署名捺印セル命令書ヲ發シ巡回裁判所ニ出廷スヘシ束縛サレタル總テノ人ヲシテ定メラレタル日ニ於テ該判事ノ前ニ出頭セシムヘキ事ヲ之ニ命令シ及(就中)法律ニ從テ陪審員トシテ合格ナル郡ノ總体中ノ善良正當ノ人ノ適當ナル數ヲ回報スヘキ事ヲ之ニ要求ス而テ判事ハ陪審員ヲ二組ニ

分チ第一組ハ裁判期ノ始ニ於テ其判事ノ指令スヘキ期限間而テ第二組ハ該期ノ殘餘ノ日數間刑事及民事ノ雙方ニ區別ナク勤ムルカ爲コ判事ノ指令スルチ至當ト思量スヘキ百四十四名ニ超過セサル陪審員ノ數ヲ徵集スヘキヲ郡長ニ若シ判事カ至當ト思量セハ指令スル權ヲ第四世ヨロシ帝即位第六年ノ條例法第五十章第二十二條ニ依テ附與サレタリ郡長ニ對シテ發スル判事ノ命令書書式ニ付テハナツチ一氏ノ刑法ヲ見ルヘシ該條例法ハ其他郡長カ陪審官徵集令狀及陪審員回報命令書ヲ受レハ當年ノ陪審官簿ニ記載サレタル人ノ姓名ヲ回報スヘシ而テ他ノ人ノ姓名ヲ回報スヘカラスト制定ス(第十四條)而テ尙一言スヘキハ陪審員ハ其出廷ヲ要セラル、日ノ少クモ十日前ニ徵集サレサル可ラス是ナリ(第二十五條)

刑事々件カ地方ニ於テナイサイ、プリユス(上等裁判所判事ノ前ニ於テ)於テ

訊問サレヘキ場合ニ於テハ陪審官ノ手續ヲ組成スル陪審官徵集令狀及陪審官財產差押令狀(陪審員ノ財產ヲ強迫スル令狀)カ檢事ニ於テ調製サレ之ヲ羊皮紙ニ書記シ其姓名及住所ヲ批書ス而テ其一通ニ付六シルリシストリンガス、ジュラトリスング八ペンニーノ謝金ヲ拂ヘハクインス、ペンチ裁判所ノ刑事局ニ於テ署名捺印及記入サル、ナリ該徵集令狀ハ通例市ニ於ル副郡長ノ代理人ニ依テ市ニ於テ回報サレ而テ記録ニ附添サル、ナリ該財產差押令狀ハ巡回裁判所ニ於テ回報サレ而テ其所ニ於テ記録ニ附添サル、ナリ陪審官徵集令狀ノ通例ノ書式ハ左ノ如シ

上帝ノ聖恩ニ依テ大貌列顛及愛蘭合衆帝國ノ女帝ニシテ宗教ノ保護者ナルヴヰクトリヤハヨルクシーヤ郡ノ郡長ニ宣ス、予輩ハ汝ニ命令ス汝ハ汝ノ管轄地ニ於テ何ソノ自由ノ理由ニ依テ怠ラス但シ汝カ汝ノ郡ノ總体中ノ法律ニ從テ合格ナル善良正當ノ人ニシテ

事件ノ正實カ之ニ依テ尙好ク知ラル、コトヲ得而テ舊何々所ニ於ル
 キングストンアボンハル(地名)ノホーリトリニテ一寺院區ノ傭役人
 ナル甲何某及何々ナル乙何某及何々ナル丙何某ノ又ハ此等ノ者ノ
 何レ又ハ各ノ親屬ニアラサル者十二名ヲシテ該甲某乙某及丙某又
 ハ此等ノ者ノ何レ又ハ各カ告訴サレタル或ル罪ニ付テ罪アル者ナ
 ルカ又ハ否ラサルカ(此處ニ特別答辨上ノ何レノ爭論點若シアラハ)
 ノ事實ヲ陳述ス(テ其宣誓ノ上訊問スル爲ニ何月何日ウエストミン
 ストル)刑事局登簿六ニ於ル予輩ノ前ニ來ラシムルヲ如何トナレハ
 予輩ノ爲ニ此資格ヲ以テ告訴スル予輩ノ前ノ予輩ノ裁判所ニ於ル
 予輩ノ檢屍官兼檢事ナル何某ニスノハイヤ并該甲某乙某及丙某カ
 之ニ付テ自ラ該陪審官ノ上ニ選ミタリシカ故ナリ而テ汝ハ其時其
 場所ニ該陪審員ノ姓名及此令狀ヲ持參スルヲ我教主紀元千八百六

十一年何月何日(爭論點ノ聯結シタル日)又ハ陪審官財產差押令狀ノ
 裁定以前ノ最後ノ延期ノ日、刑事局登簿六(ウエストミンストルニ
 於テスル、アレキサンドル、ジエームス、エドマンド、コックホルン、ハロ
 テット證ス)裁判所ニ依テ

陪審官財產差押令狀ノ書式ハ左ノ如シ

グロストリアヤ云々(前ノ令狀ノ如シ)予輩ハ汝ニ命令ス汝ハ汝ノ管
 轄地ニ於テ何レノ自由ノ理由ニ由テ忍ハス但シ汝ハ予輩ト舊キン
 グストンアボンハルノホーリトリニテ一寺院區ノ甲何某何々ノ乙何
 某及何々ノ丙何某トノ間ニ予輩ノ前ノ予輩ノ裁判所ニ於テ徵集サ
 レタル陪審員タル此令狀ニ添ヘラレタル名列書ニ指名サレタル數
 人(X)ノ身体ヲ汝ノ管轄地ニ於ル總テ其數人ノ土地及財產ニ依テ汝
 カ予輩ヨリ其目的ノ爲ニ他ノ命令ヲ得ルマテ其數人又ハ其數人ノ

何レカ之ニ(土地)其手ヲ下サ、ルカ爲ニ差押ユルヲ而テ命令ス汝ハ
 汝カ次回ノ何々ノ何月何日(次回)ノ裁判期中ノ或ル日、刑事局登簿七)
 ウエストミンストルニ於ル予輩ノ前ニ或ハ若シヨルク郡ニ於テ及
 爲ニ巡回裁判所ヲ開クヲ委任サレタル予輩ノ判事カ其時前詳言ス
 レハ來ル何月何日ニ於テ斯ノ如キ場合ノ爲ニ爲サレ及設ケラレタ
 ル條例法ノ制定ニ從テ該郡内ノヨルク城ニ來ラハ其判事ノ前ニ該
 甲某乙某及丙某又ハ其何レ又ハ各カ其告訴サレタル或ル重罪ニ付
 テ罪アル者ナル乎又ハ否ラサル乎(若シ何レノ爭論點カ特別答辨上
 聯結サレタレハ其事實カ此處ニ陳述サレサルヘカラス)ヲ其宣誓ノ
 上訊問シ而テ其數回ノ闕席ニ對スル其裁判ヲ聽ク爲ニ其身体ヲ出
 スヲ得ルカ爲ニ此令狀ノ結果ニ對シテ予輩ニ回答スルヲ而テ汝
 ハ此令狀ヲ其場所ニ持參スルヲ、何々証ス(前文ノ令狀ノ如シ)陪

審官徵集令狀ノ回報ノ日ニ於ルカ如ク證セラレヘキモノナリ、刑
 事局登簿七、

斷定ニ依テ補ハレタル陪審官令狀中ノ缺乏ニ付テハ第四世ヨイシ
 帝即位第七年ノ條例法第六十四章第二十一條ヲ見ルヘシ
 特別陪審官、一輕罪ノ大切ナル事件ニ於テハ記録カクインスベシ
 裁判所ニアル時ハ告訴人又ハ被告人ノ請願ニ由テ特別陪審官カ得テ
 ル、コヲ得、ウエストミンストルニ於ル皇帝陛下ノキングスベシテ裁
 判所ニ於テ及三特別郡ノ皇帝陛下ノ裁判所ノ判事ニ於テ及ウエール
 スニ於ル大裁判期裁判所ノ判事ニ於テハ此等ノ裁判所ノ各ニ於テ審
 理中ノ只反逆又ハ重罪ノ告訴狀ノミヲ除キ民事又ハ刑事ヲ論セス如
 何ノ訴訟又ハ何レノ刑事條例法上ノ何レノ訴訟ニ於ル何レノ告訴人、
 告發人、原告人又ハ請求者ノ請願或ハ何レノ被告人又ハ被請求者ノ請

願ニ依リテ該訴訟ノ何レニ於テ聯結シタル何レノ爭論點ノ訊問ノ爲
 ニ各ノ裁判所ノ相當ノ官吏ノ前ニ於テ特別陪審官ヲ選出(原告被告雙
 方ニ於テ)
例ノ數ヲ選出スルヲ云フ)スルヲ命令シ而テ該裁判所カ各通例之ヲ命
 令シタリシト同一ノ方法ヲ以テ陪審官ニ於テ訊問サレヘキヲ命令ス
 ルハ正當ナリ及正當タルヘシ及該裁判所及判事ハ各上文ニ記載サレ
 タル訴訟ノ何レニ於テ斯ノ如ク命令スルヲ此條例法ニ於テ許可サレ
 タリ而テ斯ク選出サレタル各陪審官ハ斯ノ如キ爭論點ノ訊問ノ爲ニ
 回報サレタル陪審官タルヘシトノ事カ第四世ジョージ帝即位第六年
 ノ條例法第五十章第三十條ニ依テ制定サレ而テ布告サレタリ特別陪
 審官ヲ選出スルノ通例ノ方法ニ付テハコルナル氏ノ刑事手續書ヲ見
 ルヘシ特別陪審官ニ拂ハレヘキ謝金ハ臨檢ノ場合ニ於ルニアラサレ
 ハ一ギロ一(金貨)ニ超過セサル判事ノ正當ト思量スル如キ金額ナリ(同

章第三十五條)特別陪審官ヲ請願シタル者カ該陪審官ヲ選出シタル謝
 金及該陪審官ニ於テ訴訟ヲ訊問シタルカ爲ニ生シタル費用ヲ總テ拂
 フヘシ而テ訴訟カ普通ノ陪審官ニ依テ訊問サレタリシ場合ニ於テハ
 斯ノ如キ者カ得ル權利アリタルヘキモノヨリ何レノ其他ノ又ハ他ノ
 金員ヲ裁判費用徴収上特別陪審官ノ爲ニ得サルヘシ但シ訴訟カ其前
 ニ於テ訊問サレタル判事カ斷定ノ後直チニ自署名ヲ以テ記録ノ裏面
 ニ此訴訟ハ特別陪審官ニ於テ訊問サレヘキ適當ノ事件ナリト保証シ
 タルヘキ時ハ此限ニ在ラサルナリ刑事ノ事件ニ於テハ判事ハ保證ス
 ルヲ拒ムヘシト思考サレタリキ
 特別陪審官ノ場合ニ於テ陪審官令狀ハ普通ノ陪審官ノ場合(前文)ニ於
 ルカ如ク同一ノ書式ニシテ只陪審官財産差押令狀中ニ特別陪審員ノ
 減省サレタル(即チ選出サレタル)名列書ニ於ルカ如キ姓名及記事カ(×)記号(前文

ノ式(中)ノ後ニ挿入サレ而テ此令狀ニ添ヘラレタル名列書ニ指名サレタル數人ナル言語カ削除サル、トニ於テ異ナルノミナリ

若シ充分ナル數ノ特別陪審員カ出廷セサレハ陪審員ノ缺乏又ハ闕席ノ爲ノ補缺カ檢事長ノテールズ、ド、スルカムスタンナブス(近傍ニアル人ノ同數ト云フ義ニシテ陪審員ニ欠員アレハ近邊ニアル人ヲ以テ陪審員ニ充テ其欠ヲ補フ命令書)令狀ヲ以テ裁定セラル、

トヲ得此令狀ノ書式及之ヲ得ル方法ニ付テハコルナル氏ノ刑事手續書ヲ見ルヘシ若シ特別陪審官ノ爲ニ命令カ爲サレ而ルニ訴訟關係人ハ普通ノ陪審官ノ前ニ於テ訊問ヲ受レハ斷定ハ後ニ至テ非難サレ能ハズト爰ニ記載スルヲ得

ド、メ、シ、エ、テ、ト、リ、ン、グ、エ、ー(國語ノ半ノト云フ義ニシテ六名ハ外國人ニシテ六名ハ外國人ナル陪審官ナリ)陪審官

——第三世エドワード帝即位第二十八年ノ條例法第十三章ニ制定シテ云ク市尹ノ前并何レノ他ノ行政官又ハ判事ノ前

ニ於テ外國人又ハ歸化人(商人其他ナルヲ論セス)ノ中ニ爲サレ又ハ取ラレヘキ審問及證據ノ總テノ方法ニ於テハ假令ハ國帝カ關係人ナリト雖モ審問又ハ證據ノ一半ハ斯ノ如キ審問又ハ證明カ爲ニ爲サレサル可ラサル關係人ニアラサル且關係人ト條約辨論又ハ他ノ爭論ヲ爲シタルモノニアラサル歸化人タルヘシ而テ他ノ一半ハ若シ斯ノ如キ審問又ハ證明ノ爲サレサルヘカラサル市又ハ場所ニ其要スル的外國人アラハ同シク關係人等ニアラサル外國人タルヘシ而テ若シ其要スル的外國人アラサレハ然ル時ハ該市又ハ場所ニ在ルヘキ的外國人ニシテ上文所陳ノ如ク關係人ニアラサル且關係人ト關係ナキ者カ斯ノ如キ審問又ハ證明ニ加ヘラレ而テ殘數ハ善良ナル人ニシテ關係人ノ一方ニモ亦他ノ一方ニモ疑シカラサル歸化人カ加ヘラルヘシト而テ第四世ジョージ帝即位第六年ノ條例法第五十章第四十七條

ニ制定シテ云ク此條例法中ニ包括サレタル如何ノ事ト雖モ何レノ重罪又ハ輕罪ニ付テ告訴又ハ告發サレタル何レノ外國人ノド、メシエテ
 一ト、リングエー陪審官ニ於テ訊問セラル、ノ權利ヲ剝奪スルト解釋
 サレサルヘシ然レモ斯ク告訴又ハ告發サレタル各ノ外國人ノ請願ニ
 依リ郡長又ハ他ノ行政官ハ裁判所ノ命令ヲ以テ陪審官ノ一半ノ爲ニ
 外國人ノ適當ナル數ヲ若シ訊問アルヘキ市又ハ場所ニ其要スル的ノ
 外國人アラハ回報スヘシ而テ若シアラサレハ其市又ハ場所ニ在ルヘ
 キ的ノ外國人(若シアラハ)ヲ回報スヘシ而テ外國陪審員ハフリーホー
 ル前交ニ出ツノ缺乏又ハ此條例法ニ於テ要セラレタル何レノ他ノ合格
 ノ缺乏ノ爲ニ忌避サレヘキ者ヲサレヘシ然レモ各ノ斯ノ如キ外國
 人ハ此條例法ニ於テ其合格タリシト同様ニ何レノ他ノ理由ノ爲ニ忌
 避セラル、コヲ得ト此權利ハ重罪及輕罪ノ事件ニ限ラレタリト知ル

ヘシ反逆ノ事件ニ於テハ外國人ハ忠義ノ盟約ノ背犯ノ裁判官ニハ不
 適當ナルヲ以テ此權利ハ成立セサルナリ尤モ國帝ハ一半ハ外國人タ
 ルヘキ陪審官ヲ以テ反逆ノ爲ニ訊問サレヘキヲ外國人ニ特別ニ許可
 スルコヲ得外國陪審官ハ被告人ノ從屬スルト自ラ辨スル國ノ人タラ
 サル可ラサルハ緊要ニアラサルナリ尤モ古昔ノ陪審官徵集令狀ノ裁
 定ノ二三ニハ外國人ハ其生レタル國ノ人ト見ヘシ國ノ人タラサルヘ
 カラスト命令シタリキ外國ノ婦女ニシテ英國ノ臣民ト結婚シタル者
 ハヴヰクトリヤ女帝即位第七年及第八年ノ條例法第六十六章第十六
 條ノ權ニ依テ入籍シタルモノナリ是故ニド、メシエテ一ト、リングエー
 陪審官ヲ得ル權利ナキモノナリ外國人ニ於テ此陪審官ノ利益ヲ請求
 スル爲ノ適當ナル時ハ呼出ニ於テ答辨ヲ爲ス時ニアリ而テ正式ノ手
 續ノ方法ハ記録上ニ訟廷ニアル被告人ハ外國人ナリ而テ條例法ニ從

テ陪審官ヲ請願シタリト陳述スル告示ヲ記入スルニアルヘシ其記入ノ書式ハ左ノ如シ

而テ即時上文ニ詳記サレ而テ何某ニ對シテ告訴サレタル該告訴狀中ノ說示部ニ付テ如何ニ該某ハ自ラ之ニ付テ放免スヘキ乎テ請求サレタルヲ以テ該某ハ云フ該某ハ之ニ付テ罪アルモノニアラズト而テ之ニ付テ該某ハ善惡ノ爲ニ自ラ選ム云々、而テ我女帝陛下ノ爲ニ此資格ヲ以テ告訴スル上文所陳ノ郡ノ爲ノ告訴書記ナル何某ハ同シ事ヲ爲ス、而テ之ニ付テ該何某被告ハ云フ該何某ハ外國人ナリ而テスペイン國ノセント、セバスチアンニ於テスペイン女帝ノ忠義ノ盟約ノ下ニ生レタリ而テ該何某ハ斯ノ如キ場合ノ爲ニ爲サレ及設ラレタル條例法ノ制定ニ從テ該答辨ノ爭論點ヲ訊問スル爲ニ一半ハ內國人他ノ一半ハ外國人タルヘキ云々ノ十二名ヲ此處ニ

來ラシムル我女帝陛下ノ令狀ヲ請願スト、而テ是カ許與サレタリ云々、是故ニ上文所陳ノ條例法ニ從テ郡長ガ一半ハ內國人他ノ一半ハ外國人タルヘキ云々ノ十二名ヲ云々ノ爲此處ニ來ラシムル事カ郡長ニ命令サレタリ

外國被告人ハ若シ上文ノ如キ陪審官カ回報サレサレハ至陪審官ヲ忌避スルヲ得ト云ハレタリ然レモ是ハ疑ハシキ事ナリ若シ外國被告人カ陪審官ノ宣誓シタルマテド、メロエタート、リングエー陪審官ヲ請求スルヲ怠ラハ其被告人ハ其時又ハ其後手續ニ對シテ故障ヲ爲ス能ハサルナリ

陪審員ノ忌避、——被告人ノ充分ナル數カ答辨シ而テ自ラ國ノ上ニ選タリシ時ハ告訴書記ハ被告人ニ向テ左ノ如ク演述ス

被告人ヨ汝カ今呼上ラレタルヲ聽ク善良ナル人ハ汝ノ各ノ訊問上

〔又ハ死刑ノ事件ニ於テハ汝ノ生死上我國君女帝陛下ト汝トノ間ニ
決斷ヲ爲スヘキ陪審員ナリ是故ニ若シ汝又ハ汝ノ何レカ該員又ハ
該員ノ何レチ忌避スヘケレハ汝ハ該員カ宣誓スル爲ニ聖書ニ來ル
時及該員カ宣誓シタル前ニ之ヲ忌避セサル可ラス而テ汝ハ審問セ
ラルヘシ

其後官吏ハ進ンテ陪審名列書中ヨリ十二名ノ陪審員ヲ各員ノ姓名及
住所ヲ以テ呼上ルナリ之ニ依テ而テ全陪審官出廷シタリシ後被告人
ニ於テ其訊問上決斷スル爲ニ回報サレタル陪審員ニ對シ忌避又ハ故
障ノ其權利ヲ行フノ適當ナル時アルナリ陪審官ノ全体ヲ忌避セント
企ル者ハ其數ヲ滿サンカ爲ニ補欠ヲ請求シ而テ後名列書ニ對シテ故
障スルヲ得

忌避ハ二種ノモノナリ即チ第一種ハ徵集サレタル全數ニ對シテ故障

ノ爲サレタル時ノ陪審官ノ全体アルレニ對スルモノ而テ第二種ハ各個ノ陪
審員カ對シテ故障サレタル時ノ陪審官ノ各員ボイルスニ對スルモノ是ナリ忌
避ハ復タ理由チヤレンシ、ブル、ゴサムヲ示サ、ル忌避ト理由チヤレンシ、ブル、ゴサムニ付テノ忌避詳言スレハ理由即チ
道理ニ付テノ忌避トニ區分サレタリ陪審官ノ全体及各員ニ對スル忌避
ハ二種共ニ國帝ノ資格ヲ以テ又ハ被告人ノ資格ヲ以テ爲サル、一チ
得、習慣法ニ於テハ國帝ハクオツド、ン、ボニス、ント、フロ、レイシ該陪審員等ハ國帝ノ爲ニ善良ナルモノニア
ラストトノ事ヨリ何レノ他ノ理由ヲ辨スルコトナクシテ陪審員ノ何レノ
數ヲ理由ヲ示サスマテ忌避スルコトヲ得タリシカ如シ然ルニ此權ハ第
一世エドワード帝即位第三十三年ノ條例法第四條ニ依テ殺レタリキ
而テ之ト同一ノ正條カ亦第四世ジョージ帝即位第六年ノ條例法第五
十章第二十九條ニ設ケラレタリ然レモ國帝ハ陪審官名列書カ讀過サ
レタリシマテハ忌避ノ何レノ理由ヲ示スヘキ義務ハ今尙アラサルナ

リ而テ若シ理由ヲ示サ、ル忌避カ認許サレタルハ被告人ヲ訊問スルニ足レル陪審員アラサルヘキコト明ナリ而テ陪審官名列書ハ一回呼上ラレタリシノミナラス尙讀盡サレタリシマテハ詳言スレハ裁判所ノ通例ノ手續ニ從ヒ且正當ニ望ル、コトヲ得ル事ニ從テ名列書中ニ其出席ノ得ラレヘキ陪審員ハ既ニ盡タリ而テ此故ニ國帝カ忌避ノ原因ヲ示スニアラサレハ審問ハ爲サレズニ存スヘシトノ事實カ確知セラル、ニ至ルマテハ該名列書ハ讀過サレタル(即チ書籍ノ語句ニ於テハ閱讀サレタル)トシテ思考サレ可ラサルナリ)マンセル(名)事件ニ於テ陪審官名列書ハ五十四人ノ姓名ヲ含有セリ其呼上ラレタル時十八人ハ被告人ヨリ理由ヲ示サスシテ忌避サレ十五人ハ檢事ノ請求ニ依テ被告人ノ辨護人カ故障ヲ爲シ而テ忌避ノ原因ノ示サレサル可ラサルコトヲ請願シタルヲ以テ(傍^{スタンバイ}ニ立ツ)テ命セラレタリ而テ九人カ選擇サレ而テ

宣誓スヘク爲サレタリキ是ニ因テ名列書ニハ差引キ只十二人ノミカ殘サレタリ而テ此十二人ハ當時他ノ事件ニ於ル斷定ニ付テ熟慮中ナリシヲ以テ不在ナリキ其時ダブリユー、ヂエー(檢事ノ請求ニ依テ傍ニ立ツ)テ命セラレタリシ第一ノ人)ノ姓名カ再ヒ呼ハレタリシニ檢事ハ再ヒ之カ傍ニ立ツテ命セラレヘキコトヲ請求セリ是ニ因テ被告人ノ辨護人ハ忌避ノ原因カ即時ニ示サレヘキコトヲ請願セリ恰モ此時ニシテ何レノ裁判カ爲サレシ前ニ他ノ事件ノ陪審官ヲ勤メシ十二人カ訟廷ニ來リ而テ其斷定ヲ呈シタリキ而テ檢事ハ此時此等ノ十二人カ呼上ラレタリシマテダブリユー、ヂエーハ傍ニ立ツテ命セラレヘキコトヲ請願セリ然ルニ被告人ノ辨護人ハ忌避ノ原因カ示サル、ニアラサレハダブリユー、ヂエーハ宣誓セサル可ラサルコトヲ請求セリ裁判所ハダブリユー、ヂエーカ傍ニ立ツヘキヲ命令セリ而テ陪審官ノ全數ヲ滿ス爲

コ要セラレタル三人カ該十二人中ヨリ取ラレ而テ宣誓スヘク爲サ
 レタリ尤モ被告人ノ辯護人ハ斯ノ如キ三人ハ名列書中他ノ人ト共ニ
 其適當ナル順序ヲ以テ呼上ラレヘキモノタリ而テ名列書中ダブリユ
 一、シエーノ直チニ次ニ位スル人ナルロエー、シエーカ次ニ呼上ケラレ
 ヘキモノタリト故障シタリキ誤審令狀上記録ハ總テ此等ノ事實ヲ記
 載シタルヲ以テ斯ノ如キ狀況ニ依レハ名列書ハ陪審官ノ全數ノ組織
 前裁判所ニ來リシ十二名カ呼上ラレタリシマテハ國帝ヲシテ忌避ノ
 理由ヲ定示セシムルカ如クニ讀過セラレサリシトノ事、ダブリユー、ヂ
 エーハ適當ニ二回傍ニ立ツテ命令セラレシ事及陪審官ノ數ヲ滿ス爲
 ニ要セラレタル三人ハ全名列書ヲ再ヒ其順序ヲ以テ呼上ルヲナシシ
 テ該十二人中ヨリ適當ニ呼上ラレ而テ取ラレタリシ事カ認メラレタ
 リキ

前文ニ記載サレタル「傍ニ立ツ」ナル語句ノ意ハ陪審員カ國帝ヨリ忌避
 サレタルヲ以テ其忌避ノ議ハ此陪審員ナクシテ全數ノ陪審官カ爲サ
 レ能フヤ否ノ知ル、マテ猶豫セラルヘシトノ事ヲ示スニ過キサルナ
 リ

被告人ハ告訴人カ其忌避ノ理由ヲ示スヲ促サレ能ク以前ニ故障ノ
 原因ヲ悉ク示スヘキ義務アル者ナリ示サレタル原因ニ付テハ告訴人
 モ亦被告人ノ如ク全体ニ對スル或ハ各員ニ對スル忌避ノ同一ノ權利
 ナ有ス

被告人ノ爲ノ忌避ハ理由ヲ示サ、ルモノ又ハ理由ニ付テノモノ、ニ
 種ナリ理由ヲ示サ、ル忌避ハ何レノ理由ヲ定示スルヲナク各陪審員
 ニ對シテ爲サル、モノナリ而テ裁判所ハ大反逆ノ場合ニ於テハ之ヲ
 三十五人ノ數ニ至ルマテハ許可セサル可ラス(告訴サレタル反逆ハ女

帝ノ死ヲ計リタルモノタル場合及告訴狀中ニ辨セラレタル公然ノ所爲ハ女帝ノ生命カ危クサレ又ハ其身体カ疵傷ヲ受クヘキ其生命又ハ身体ニ對スル何レノ直接ノ試計タル場合ヲ除キ(第三世ヨリシ帝即位第三十九年及第四十年ノ條例法第九十三章)此括弧中ニ記載サレタル大反逆ノ場合及謀殺其他總テ重罪ニ於テハ二十人ノ數ニ至ルマテハ許可セサル可ラズ愛蘭國ニ於テハ大反逆ニ於ルモ只二十人ノ理由ヲ示サ、ル忌避アルノミナルヲ愛ニ記載スヘシ反逆ノ懈怠罪ニ於テハ何レノ數カ許可サレヘキモノタルヤ疑ハシキカ如シ輕罪ノ場合ニ於テハ理由ヲ示サ、ル忌避ノ權利ハ完ク成立セサルナリ是レ此特許ハ原來生命ノ爲ニ習慣法ニ由テ附與サレタルヲ以テナリ最モ是ハ現今總テ重罪ノ事件ニ及ホサレタリ然レモ官吏ニ請願スレハ其官吏ニ於テハ陪審官ヲ組織スルニ足レル數ヲ殘スノ注意ヲ爲シテ告訴人

又ハ被告人ヨリ故障サレタル陪審員ノ姓名ノ正當ナル數ヲ呼上ルヲ禁スルハ通例ナリ而テ此手續ハ裁判所ニ於テ屢々是認サレタリキ重罪ノ訊問ニ於テ陪審官名列書ニシエ、チ一及ダブリユ、チ一ノ姓名ヲ含有セリ而テシエ、チ一ノ名カ呼上ラレシ時シエ、チ一タリト想像サレタル人カ進出テ故障ナク宣誓シタリキ而テ被告人カ決罪サレタリシ翌日ニ至テダブリユ、チ一カ過テシエ、チ一ノ名ニ應答シタリキ而テ實ニ陪審官ヲ勤メタリシ者ナリシ事カ發露セシ場合ニ於テ是ハ過誤訊問ニアラス但シ忌避ノ原因タルノミト判事ノ多數ニ於テ認ラレタリキ

數名ノ被告人カ反逆又ハ重罪ノ爲ニ同一ノ審問ヲ以テ訊問セラル、場合ニ於テ各被告人ハ忌避ノ全數ノ權利ヲ有ス而テ若シ此數名カ其忌避ニ連帶スルヲ拒マハ國帝ハ全名列書カ忌避ニ由テ盡サル、ヨリ

生スヘキ澁滞ヲ防カン爲コ各被告人ヲ別々ニ又ハ全數ヨリ少キ何レノ數ヲ別々ニ訊問スルノ權利ヲ有ス

理由ニ付テノ忌避ハ陪審官ノ全体ニ對スルモノ又ハ各員ニ對スルモノナリ其全体ニ對スル忌避ハ偏頗ノ忌避又ハ恩惠ノ忌避ノ二種ナリ全體ニ對スル偏頗ノ忌避ノ理由ハ左ノ場合ニアリ即チ郡長カ眞ノ告訴人又ハ被害者ナル場合或ハ陪審官回報ノ時ニ於テ郡長カ告訴人又ハ被告人ノ一方ニ眞ノ親戚ナリシ場合或ハ郡長カ告訴人又ハ被告人ノ請求又ハ一方ヨリハ他ノ一方ニ一層懇篤ナリト其信スル何レノ人ノ請求ニ由テ何レノ陪審員ヲ回報シタル場合或ハ被告人カ郡長ニ對シテ未決ノ訴訟ヲ有スル場合又ハ回報ヲ爲セシ郡長又ハ副郡長カ告訴人又ハ被告人ヨリ困難ヲ受ケタル場合或ハ郡長カ事件ニ於テ何レノ金員上ノ利害ヲ有スル場合或ハ郡長カ同一ノ訴訟ニ於テ代言人辨

護人雇人又ハ仲裁人ナル場合又ハ告訴人タル會社ノ寄進者ナル場合ナリ、官吏カ名列書ヲ以テ回報サレタル二十四名ノ特別陪審員ノ一人ヲ召喚スルヲ漏セシ事ハ郡長ニ於テノ不公平ニ對スル忌避ノ理由ニアラス亦郡長カ被告人ト異ナル宗徒ノ多分ヲ名列書中ニ回報セシ事ハ是ノミニテハ全體ニ對スル忌避ノ正當ナル理由ニアラサルナリ、刑事局ノ検屍官兼檢事ハ陪審官ヲ指名スルヲ明白ニ命セラレタル官吏ナルヲ以テ其不公平ノ理由ニ付テ全體ニ對スル忌避アル可ラス斯ノ如キ場合ニ於テハ陪審官ヲ指名スヘキヲ他ノ官吏ニ命スヘキヲ裁判所ニ請願スルヲ以テ只回復ヲ得ルノミ

郡長ノ過失モ亦全體ニ對スル偏頗忌避ノ理由タルヲ得即チ陪審官ノ全体カリヘルター(特許地)ノ副郡長ヨリ回報サレタルヲ郡長カ自己ヨリノ如ク之ヲ回報スル場合ノ如シ然レモ若シ郡長カリヘルターヨ

リ名列書ヲ回報セハ假令ハ其郡長ハ一訴訟ニ於テ其特許地ノ領主ニ對シ義務ヲ負フモノタルヘシト雖モ可ナルヘシ昔者被告人ハハンドレツト(小區區人ノ缺乏ノ爲ニ詳言スレハ若シ四名ノ陪審官ガ罪ノ犯サレタリト辨セラレタルハンドレツト區内ヨリ回報サレサリセハ全体ヲ忌避スルノ權利ヲ有シタリキ然レモ今ハ陪審官ハ郡ノ總體ヨリ取ラル、ナリ而テ此忌避ノ權利ハ消滅セリ)第四世ヨリシ帝即位第六年ノ條例法第五十章第十三條

全体ニ對スル偏頗忌避ハ著明ナル偏頗又ハ過失ニ基クモノナルヲ以テ若シ理由カ正實ニ辨セラルレハ裁判所ハ直チニ全体ヲ廢棄シ更ニ徵集令狀ヲ發スルヲ指令スヘシト云フ然レモ茲ニ亦偏頗ノ理由ノ甚タ明亮ニシテ直接ニアラサル場合ニ於テ全体ニ對シ恩惠忌避アルヲ得即チ訴訟關係人ノ一人カ郡長ノ借地人タル場合又ハ郡長及ヒ關

係人ノ一人カ共ニ同局ニ奉職スル場合又ハ關係人ノ一人ノ子女ト郡長又ハ官吏ノ子女ト親族タル場合又ハ郡長カ關係人ノ一人ニ對シテ未決ノ負債訴訟ヲ有スル場合ノ如シ

親族又ハ其他ノ理由ニ依テ全体ニ對スル忌避ノ理由ノ成立スル場合ニ於テハ故障ヲ受クヘキ關係人ハ忌避ノ爲ニ生スヘキ滯滯ヲ豫防セシカ爲ニ自ラ之ヲ裁判所ニ告知シ而テ徵集令狀カ場合ニ依リ檢屍官又ハ選舉人(郡長等ニ忌避ノ差可アル時陪審員ヲ選舉者)ニ向ケテ裁定セラレシトテ請願スルヲ得若シ他ノ關係人カ事實ヲ是認シ而テ請願ニ同意セハ徵集令狀カ直チニ斯ク裁定セラレヘシ若シ其人カ忌避ノ理由ノ成立チ否ミテ之ヲ拒マハ其人ハ後ニ至テ忌避ヲ以テ己レヲ利スル能ハサルナリ

全体ニ對スル忌避ハナイサイ、ブリユス、レコルド(審判ユス爲メナイサイ、

官ヲ以テ裁判スル裁判所^カ判事ニ送ルヘキカ爲コ書面ヲ
キ委任書ノ性質ヲ有スル命令書ヲ云フニ記載サレヘキカ爲コ書面ヲ
以テセサル可カラス而テ他ノ一方ハ之ニ對シ止訴答辨シ又ハ答辨ス
ルヲ得此忌避ノ書式ハ左ノ如シ

而テ今我女帝陛下ノ爲ニ此資格ヲ以テ告訴スル甲何某并自己ノ適
當ナル資格ヲ以テ乙何某カ本日來ル而テ之ニ付テ徵集サレタル陪
審官モ亦來ル而テ之ニ付テ該乙某ハ該陪審官名列書ノ全体ヲ忌避
ス如何トナレハ該名列書ハ現今及上文所陳ノ全体編制ノ時ニ於テ
該何々郡ノ郡長ナル何某ニ於テ制セラレ而テ回報サレタリキ其郡
長ハ該甲某ノ親戚即チ云々(親族ノ事故ヲ陳述ス)ナリト該乙某ハ云
ヘハナリ而テ是ヲ該乙某ハ証スルヲ豫備ス是ニ由テ該乙某ハ裁判
ヲ請願シ而テ該名列書ノ廢棄サレヘキヲ請願ス
故障ノ理由ハ詳ニ忌避書ニ記載サレサル可ラス如何トナレハ當ニ郡

長カ其爲サ、ル可ラサリシカ如クニ名列書ヲ公平ニ及偏頗ナク選マ
サリキ而テ其名列書ハ公平ナルモノニアラスト陳述スルノミコテハ
餘リ概言ニ過キタルトシテ効ナキモノナレハナリ對手人ハ之ニ對シ
テ忌避ノ辨セラレタル理由ヲ拒ミテ答辨シ又ハ其無効ナル事ニ對シ
テ止訴答辨スルヲ得又第二ノ場合ニ於テハ忌避ヲ爲ス一方ハ止訴
答辨ヲ以テ答辨ス而テ是カ裁判所ニ於テ決斷セラレ、ナリ止訴答辨
及之ニ對スル答辨ノ書式ハ左ノ如シ

止訴答辨書式

而テ該甲某ハ云フ上文所陳ノ名列書ノ全体ニ對スル該甲某ノ該忌
避ハ上文所陳ノ名列書ノ全体ヲ廢棄スルニ法律上効アルモノニア
ラス而テ該甲某ノ爲ニ緊要ナル事ナク且又該甲某ハ該忌避ニ對シ
上文ニ辨セラレタル如キ方法及式ヲ以テ答辨スルチ國法ニ由テ強

ヒラレサルナリト故ニ該甲某ハ裁判ヲ請願シ而テ該名列書ノ全体
カ確定サレヘキヲ請願ス云々

答辨書式

而テ該乙某ハ云フ該乙某ハ該名列書ノ全体ヲ廢棄ナル爲ニ上文所
陳ノ名列書ノ全体ニ對シテ該乙某ヨリ上文ニ爲サレタル該忌避中
ニ法律上有効ノ事件ナリ上文ニ辨シタリキ是ヲ該乙某ハ證スルヲ豫
備ス此事件ヲ該甲某ハ拒マス且之ニ對シテ何レノ方法ヲ以テ答ヘ
スト故ニ該乙某ハ最前ノ如ク裁判ヲ請願シ而テ該名列書ノ全体カ
廢棄サレヘキヲ請願ス云々

忌避カ棄却サレタル場合ニ於テハ其裁判ハ原記録ニ記入サレサル可
ラス又ハナイサイプリユスニ於テハポステア(ナイサイ、プリユス、レコ
ルナイ、前文ニ出ツ)ニ判事
ノ審判ニスタル手續等ヲ裏書スルヲ即チ判事ノ回報ナリニ記入サレサル
イ、プリユス裁判所ニ於テ密判セルヲ判事ノ回報ナリニ記入サレサル

可ラス若シ忌避カ止訴答辨ナクシテ棄却サレタレハ其命令(棄却)ハ故
障カフ、エツセフシユン書(其裁判ニ於テ法律ノ點ニ付テ錯誤ノ裁判ヲ爲シタル時)ノ主旨
ト爲サル、ヲ得ト云ハレタリキ忌避ハ其偏頗忌避タリシ場合ニ於
テハ記録ノ部分トシテ移サル、ヲ得

若シ訴訟關係人カ忌避ニ對シ答辨セハ二名ノ審査員カ裁判所ヨリ命
セラレ事實カ是認サレ又ハ明白ナルニアラサレハ少クモ恩惠忌避ノ
場合ニ於テ及ヒ偏頗忌避ノ(恐ラクハ)場合ニ於テモ亦而シテ宣誓シ而
テ名列書ハ公平ナル又ハ恩惠ノモノナルヤ否ヲ訊問スルヲ委任セラ
ル、ナリ此等ノ審査員ハ一般ニ回報サレタル陪審員中ノ二名ナリ然
レモ裁判所ハ其裁量ヲ以テ此訊問ヲ二名ノ検屍官又ハ二名ノ代言人
又ハ何レノ他ノ二名ノ公平ナル人ニ委託スルヲ得若シ審査員カ忌
避ヲ可決セハ更ニ陪審官徵集令狀カ検屍官ニ向テ發セラレ或ハ若シ

該官カ利害ノ關係ヲ有セハ選舉人ニ向ケ發セラレ、トチ得、ドルビ一
 (名)ノ事件ニ於テ其被告人ハ煽惑スル譏謗ノ罪ヲ以テ告訴サレタルモ
 ノニシテ其告訴ハコンスタチエーシヨナル、アツシエーシユント稱セ
 ラレタル一會社ヨリ起サレ而テ陪審官ヲ回報セシ郡長ノ一人ハ該會
 社々員ナリトノ理由ヲ以テ全体ヲ忌避シタリキ之ニ由テ告訴代言人
 ハ爭論點ヲ取レリ其時判事長ハ之ヲ訊問スル爲メ二名ノ審査員ヲ命
 シタリ其審査員ハ隨テ宣誓セリ被告代言人ハ先第一ニ此等ノ審査員
 ニ向テ演述シ而テ證人ヲ呼ヘリ其證人ハ指名サレタル郡長ハ該會社
 ノ寄附者ノ一人ナルヲ証シタリキ其時告訴代言人ハ審査員ニ向テ
 演述シ而テ該郡長ハ陪審官令狀ノ回報前ニ該會社ノ寄附者又ハ社員
 タルヲ止メタリシヲ証スル爲ニ証人ヲ呼ヘリ然ルニ該郡長カ自ラ
 該會社ヲ退キシ時ノ書翰ノ缺乏ノ爲ニ之ヲ証スルヲ仕損シタリキ

其時該審査員ハ被告代言人ヨリ答ヲ以テ演述セラレタリ判事長ハ此
 事件ヲ演説(証據等ノ審問)濟ミタル後告訴被告何レフセリ該審査員ハ
 忌避ヲ可決セリ而テ此訴訟ハ延期サレタリキ若シ審査員カ忌避ヲ可
 決セサレハ訊問ハ斯ノ如キ忌避ノ嘗テアラサリシカ如クニ前進ス忌
 避ノ不適當ナル拒絕ハ新訊問ノ理由ニアラス但シ再徵集令狀(陪審官)ノ
 理由タルナリ

然レモ假令ハ全体ニ對スル忌避カ之ヲ爲シタル關係人ニ反シテ決斷
 セラレタリト雖モ後ニ至テ各員ニ對スル忌避ヲ尙爲スヲ得詳言ス
 レハ各陪審員ノ將ニ宣誓セントスル時之ニ對シテ別々ニ故障スル
 ヲ得ルナリ此等ノ忌避ハ假令ハ精密ニ論スレハ若シ斯ノ如キ忌避ノ
 効力コ付テ何レノ問題ノ起リタレハ之カ正當ノ書式ヲ以テ記録ニ記
 入サレサルヘカラスト雖モ一般ニ口演ヲ以テ爲サル、ナリ而テ反逆

又ハ重罪ニ於テハ被告人ハ三十五人又ハ二十人ノ其理由ヲ示サ、ル
 忌避ヲ盡シタル後チ示シタル理由ヲ以テ總テ又ハ何レノ呼上ラレタ
 ル陪審員ニ對シ故障スルコトヲ得各員ニ對スル此等ノ理由ニ付テノ忌
 避ハ全体ニ對スル忌避ノ如ク偏頗又ハ恩惠ノ二種ナリ其偏頗忌避ノ
 理由ハ左ノ如シ第一、貴族又ハ國會ノ上院議員カ平民ノ訊問ノ爲ノ陪
 審官ニテ宣誓シタル場合ノプロプテル、オノリス、レスベシチユム(位階
 ニ對スル尊敬ヨリ)第二、プロプテル、デフェシチユム(或缺乏ノ理由ニ
 依テト云フ義ナリ)詳言
 スレハ外國人タル事、幼稚、老年、又ハ不合格ノ如キ或ル一身上ノ故障ノ
 理由ニ依テ(是ニ付テハ前文陪審官部ノ第四世ヨリ)帝即位第六年
 ノ條例法第五十章第一條及第四世ウヰリヤム帝即位第五年及第六年
 ノ條例法第七十六章第二百一一條ヲ見ルヘシナリ而テ陪審員ハ自ラ
 其不合格ナルヲ陳述シテ己チ忌避スルコトヲ得而テ其陪審員ハ宣誓ノ

上吟味セラル、コトヲ得第三、プロプテル、アッフエクチユム(偏頗ノ理由ニ
 依テト云フ義ナリ)詳言スレハ陪審員ニ於テ或ル想像サレタル又ハ實ナル偏頗ノ理由
 ニ依テナリ即チ若シ陪審員カ何レノ一方ノ親戚ノモノ又ハ傭役ノモ
 ノ又ハ事件ニ利害ノ關係アルモノ等ノ時ノ如シ約言スレハ何レノ斯
 ノ如キ想像サレタル偏頗ハ郡長ノ場合ニ於テハ全體ニ對スル偏頗忌
 避ノ善良ナル理由タルヘキカ如クニ亦各陪審員ニ對スル偏頗忌避ノ
 理由タルヘシ、實ノ偏頗カ成立スルト示サレタル場合ニ於テ或ハ若シ
 陪審員カ訊問ノ結果ニ付テ希望スル處ヲ吐露シ又ハ被告人ノ有罪又
 ハ無罪ニ付テ説ヲ述ヘタリセハ亦同シ、曾テ反逆ノ爲ニオーコイ、グレ
 ー(人名)其他ノ訊問上一陪審員カ黜ケラレタリ如何トナレハ其陪審員ハ
 被告人ヲ見テダムノド、ラスカル(刑ニ處セラレタル義)ナル言語ヲ放シカ故
 ナリ告訴狀ノ發見上大陪審官トシテ職務ヲ行ヒタリシ人モ亦若シ其

告訴狀ノ訊問又ハ同罪ニ對スル何レノ他ノ告訴狀ノ訊問上小陪審官
 ナ勤ムル爲ニ回報サレタレハ故障セラル、トテ得然レモ最前同一ノ
 告訴狀ニ付テ他ノ被告人ヲ決罪セシ小陪審官ニ從事シタリシ人ハ之
 カ爲ニ忌避サレヘキ者ニアラサルナリ第四、プロポテル、デリクナム
(罪ノ理由ニ依テ)詳言スレハ醜名ノ理由ニ依テナリ即チ陪審員カ反
ト云フ義ナリ逆、重罪、偽誓、陰謀、又ハ何レノ他ノ耻ツヘキ罪ニ付テ決罪サレ又ハ處置
 サレタリシ場合ノ如シ是等ハ其決罪ノ記録ヲ以テ証セラレヘキナリ
 而テ赦免ト雖モ此故障ヲ除却セサルヘシ
 陪審官ノ各員ニ對スル理由ニ付テノ忌避ハ假令ハ陪審員ハ之ヲシテ
 理由ヲ示サ、ル忌避ヲ受ケシムルカ如ク著明ニ偏頗ナルモノニアラ
 スト雖モ然レモ其陪審員ハ或ル偏見又ハ不正當ノ感覺ヲ以テ職務ヲ
 行フヘシトノ嫌疑ノ正當ナル理由アル場合ニアリ即チ其陪審員ハ訴

訟關係人ノ家ニ於テ饗應サレタリ又ハ同事件ニ於テ仲際人タリシ場
 合或ハ其陪審員ト關係人ト雇人仲間タル場合又ハ郡長ノ場合ニ於テ
 全員ニ對スル恩惠忌避ノ理由トナルヘキカ如キ何レノ他ノ理由ノ成
 立スル場合ノ如シ
 各員ニ對スル理由ヲ示サ、ル忌避ノ場合ニ於テハ若シ偏頗カ裁判所
 ノ満足スル如ク明瞭ト爲サルレハ忌避ハ直チニ許可サレ而テ陪審員
 ハ黜ケラル、ナリ然レモ恩惠ニ對スル忌避ノ場合ニ於テハ其忌避ハ
 宣誓シ而テ忌避サレタル陪審員ハ關係人ノ双方ノ間ニ公平ニ存在ス
 ルヤ否ヲ訊問スルヲ命セラレタル二名ノ審査員ノ裁量ニ委任セラレ
 、ナリ陪審員ハ公平ニ存在スルヤ否ヲ訊問スヘキ審査員ニ施行サレ
 へキ宣誓ノ式ハ左ノ如シ
 汝ハ陪審員ノ一人ナル何某カ訟廷ニ於テ被告人ヲ訊問スル爲ニ公

平ニ存在スルヤ否ヲ宜ク及ヒ正實ニ訊問シ而テ證據ニ從テ正實ノ
斷定ヲ下スヘシ故ニ汝ヲ助ケヨ上帝ヨ

審査員ノ忌避ハ許可スヘキモノニアラサル事ハ茲ニ記スヘキナリ。審
査員ノ目前ニ於テ證據ヲ呈スル爲ニ宣誓シタル證人ニ施行サレヘキ
宣誓ノ式ハ左ノ如シ

汝カ此審問上裁判所及審査員ニ呈スル証據ハ正實、全正實タルヘシ
而テ正實外ノ何事ニモアラサルヘシ故ニ汝ヲ助ケヨ上帝ヨ

若シ忌避カ呼上ケラレタル第一ノ陪審員ニ對スルモノナレハ裁判所
ハ審査員トシテ何レノ二名ノ公平ナル人ヲ選ムコトヲ得若シ此二名カ
忌避ヲ可決セサレハ其陪審員(忌避サレタル)ハ宣誓シ而テ次ノ忌避ヲ決斷ス
ル審査員ニ加ヘラルヘシ然レモ二名ノ陪審員カ公平ト見出サレ而テ
宣誓シタルハ即時各ノ次ノ忌避ハ其二名ノ決斷ニ委託サルヘシ斯ノ

如ク指令サレタル訊問ハ忌避ヲ維持シ又ハ敗ル爲ニ呼レタル証人ヨ
リ手續ヲ爲スナリ忌避サレタル陪審員ハ亦其合格又ハ愛憎ノ偏向ニ
付テゾオアール、ジール(正實ヲ返答スヘキ宣誓ヲナシテ審問セラレ、コトヲ云フ)ヲ以テ吟味セラレ
、コトヲ得然レモ其陪審員ハ重罪ヲ以テ決罪サレタリシヤ又ハ否ラサ
ルヤ等ノ如キ其自己ノ不信用トナラントスル事件ニ付テ又ハ被告人
ノ罪ニ付テ敵對スル說ヲ述ヘシヤ又ハ否ラサルヤニ關シテ質問セラ
レ能ハサルナリ曾テ千八百四十八年ノ九月中央刑事裁判所ニ於テゾ
井クトリヤ女帝即位第十一年ノ條例法第十二章中ノ反逆罪ノ爲ニカ
ツフエー(人名)其他ノ訊問ニ於テ恩惠ノ爲ニ忌避サレタル陪審員ノ二三
名カ上文ノ最後ノ問ヲ受ケタリキ當時檢事長ハ國帝ノ一方ニ在テ之
ヲ故障セサリキゾオアールジール上ノ宣誓ノ式ハ左ノ如シ

汝ハ裁判所カ汝ニ請求スル如キ總テノ問題ニ應シ正實ノ答ヲ爲ス

ヘシ故ヨ汝ヲ助ヨ上帝ヨ
 若シ名列書カ全陪審官ノ一人モ餘サ、ルカ如クニ忌避ヲ以テ盡サレ
 タレハ更ニ名列書カ回報セラルヘシ而テ之ニ付テ被告人ハ最前宣誓
 シタリシ陪審員カ若シ今再ヒ回報サレタレハ其何レチ理由ヲ示ス
 ナクシテ忌避スルコトヲ得然レモ原宣誓後ニ發生シタル事件ニ對スル
 ノ外ハ之ヲ理由ニ付テ忌避スルヲ得サルナリ
 陪審員ノ不足又ハ闕席ノ場合ニ於テ刑事裁判所ハ檢事長ヨリ令狀ヲ
 クシテ補欠ヲ裁定スル權ヲ有スルヤ又ハ否ラサルヤハ一定シタル點
 ニアラサルナリ良說ニ據レハ該裁判所ハ此權ヲ有セサルカ如シホ
 キンス云ク然レモ斯ノ如キ補欠ハ告訴狀又ハ告發書上ニ在テハ檢事
 長ヨリノ令狀又ハ審問ノ爲サレタル裁判所ヨリ明白ナル指示ナクシ
 テハ國帝ヨリ請求サレ能ハサルナリト然ルニブラックストーン云ク若

シ忌避ノ理由又ハ陪審員ノ闕席ニ依テ原名列書ニテハ充分ノ數カ得
 ラレ能ハサレハ補欠ハ民事々件ニ於ルカ如ク十二名ノ數カ宣誓シタ
 ルマテハ裁定セラル、コトヲ得ト
 然リト雖モ名列書カ盡サレ而テ補欠カ請求サレサリシ場合ニ於テハ
 判事ハ郡長ニ再度ノ命令書ヲクシテ即時名列書ヲ回報スルヲ命スル
 コトヲ得而テ治安裁判期ニ於ル治安判事ハ陪審員ノ充分ナル數ヲ直チ
 ニ回報スヘキヲ郡長ニ命令スル特別命令書ヲ發スルコトヲ得而テ之ヲ
 以テ其裁判期ニ於テ進ンテ訊問スルコトヲ得(第四世シヨード帝即位第
 六年ノ條例法第五十章第二十條ヲ見ルヘシ)
 名列書カ被告人及國帝ノ忌避又ハ其各ノ忌避ニ由テ全數ノ陪審官ノ
 成立スル前ニ盡サレタル場合ニ於テ普通一般ノ適當ナル手續ハ只被
 告人ヨリ理由ヲ示サスシテ忌避サレタル陪審員ノミチ省キ最前ト同

一ノ順序ヲ以テ全名列書ヲ再ヒ呼上ルニアリ而テ後各陪審員ノ出席シタル時ハ何レノ一方ヨリ之ヲ忌避スト雖モ其理由ヲ示カ、ル可ラス陪審官ニ對スル忌避ノ理由ハ全体ニ對シ又ハ各員ニ對スルニ拘ハラス陪審官ノ宣誓シタル後ハ裁判停止又ハ其他ノ爲ニ爲サレ能ハサルナリ被告人カ最前ノ決罪ノ答辨ニ付テ陪審官ニ引渡サレタル時ハ少キクトリヤ女帝即位第十四年及第十五年ノ條例法第十九章第九條ニ從ヒ忌避ハ爲サレ能ハス且陪審官ハ再宣誓ヲ爲スヲ要セラレサルナリ

裁判所ハ若シ名列書中ノ一陪審員カ明瞭ニ身体又ハ精神ノ薄弱ニ由リ又ハ恐ラクハ顯著ナル不公平ニ由リ其職ヲ盡ス能ハサルモノナレハ其呼上ラレタル時假令ヘ忌避サレスト雖モ之ヲ罷免スルヲ得及罷免セサル可ラスト茲ニ記載スルヲ得

陪審官ニ被告人ヲ委托スル事、——反逆及重罪ノ事件ニ於テ全陪審官カ宣誓シタル時ハクライヤル（判事ノ命ニ從ヒ種々ノ官吏）巡回裁判所ニ於テハ左ノ式ヲ以テ公告ヲ爲ス

若シ何人ニテモ我國君女帝陛下ト訟廷ニアル被告人トノ間ニ此審問カ爲サル、以前ニ我女帝陛下ノ判事、女帝陛下ノ檢事長又ハ女帝陛下ノサーシエ（裁判所ノ一官吏）ニ該被告人又ハ其何レノ犯シタル又ハ爲シタル何レノ反逆、謀殺、重罪又ハ輕罪ニ付テ告發スルヲ能セハ其人ハ來ルヘシ而テ其人ハ審問セラレヘシ如何トナレハ被告人ハ釋放ニ付テ訟廷ニ在レハナリ

其後告訴書記ハ被告人ヲ訟廷ニ呼ヒ而テ左ノ如ク云フ

陪審官ノ諸君ヨ

此被告人ハ何某ノ姓名ヲ以テ告訴サレタリ如何トナレハ其被告人

ハ云々(告訴狀)於ルカ如ク最終マテ陳ルナレハナリ此告訴狀ニ由テ其被告人ハ呼出サレタリ而テ其呼出ノ上其被告人ハ罪アル者ニアラスト答辨シタリキ是故ニ汝ノ委任ハ其被告人ハ罪アル者ナルヤ又ハ罪アル者ニアラサルヤヲ審問シ而テ證據ヲ聽クニアルナリ無罪ノ答辨カ其人ノ爲ニ記入サレタルヘキ場合ニ於テ何レノ後ノ罪ニ付テ入ノ訊問上陪審官カ斯ノ如キ後ノ罪ニ付テ審問シ而テ斯ノ如キ人ヲ該罪ノ罪アル者ト發見シタルヘキニ至ルマテハ何レノ最前ノ決罪ニ付テ訊問スルチ該官ニ委任スルハ不正ナリ而テ何レノ告訴狀ニ何レノ最前ノ決罪カ記載サレタルヘキ時ハ毎ニ斯ノ如キ記載ノ朗讀ハ上文所陳ノ如キ發見ノ後ニ至ルマテ猶豫セラルヘシ(少キトリヤ女帝即位第十四年及第十五ノ條例法第十九章第九條)輕罪ノ事件ニ於テハ陪審官ハ委托サレサルナリ但シ告訴代理人カ直

チニ進ンテ訴訟ヲ開始シ而テ告訴狀維持ノ爲メ證人ヲ呼出スナリ告訴ノ爲ノ訴訟——被告人カ陪審官ニ委托サレタル時ハ告訴代理人ハ或ハ若シ一人ヨリ以上ノ代理人アラハ上席ノ代理人ハ陪審官ニ向テ告訴ノ基ク所ノ重ナル事實ヲ陳述シテ訴訟ヲ開始ス斯ク爲スニハ代理人ハ陪審官カ代理人ノ開始ノ陳述ト後ニ之ヲ維持スル爲ニ舉ラレタル證據ト撞着スル所アルヤ否ラサルヤヲ知ルヲ得ルカ爲ニ事實并被告人ノ告示ヲ證明スヘク企テラレタル總テノ事ヲ陳述セサル可ラス但シ斯ノ如キ告示カ白狀トナルヘキ時ハ此限ニアラス其場合ニ於テハ陪審官ニ對シテ之ヲ開陳スルハ代理人ニ於テ不當ナルヘシ此規則ノ理由ハ白狀ノ依テ爲サレタリシ狀況カ其白狀ヲ證據上是認スヘカラサルモノト爲ステ得ル事ニアリ是故ニ只被告人ニ於テ爲サレタリト云ハレタル何レノ白狀ノ大概ノ結果ノミカ告訴代理人ノ開始演

說中ニ陳述サレサル可ラス、代言人ノ開始演說中ニ陳述サレサル何レノ附加ノ證據カ訊問中ニ發見サレタル時ハ其代言人ハ之ヲ陪審官ニ對スル第二ノ演說ヲ以テ陳述スルヲ許サレサルナリ、尙其他茲ニ記載スヘキハ謀殺ノ訴訟ヲ開始スルニ告訴代言人ハ臆測ヲ以テ國帝ノ爲ノ何レノ特別ノ證人ノ性質ニ對スル攻撃ノ事件ヲ加ヘ而テ若シ斯ノ如キ攻撃カ爲サルヘケレハ其代言人ハ之ニ應スル豫備ヲ爲シタルヘシト述ルヲ得ル是ナリ、其代言人ハ亦従前ノ一訴訟ニ於ル狀況ノ證據ノ性質及効力ニ關スル一判事ノ考說ヲ若シ其代言人カ此考說ヲ自家ノ說トシテ採用シ而テ陪審官ニ對スル演說ノ一部ト爲サハ陪審官ニ向テ朗讀スルヲ得博識ナル判事チンドール及バークノ之ヲ命令シタリシカ如ク曾テ千八百四十八年中中央刑事裁判所ニ於テダオリング(名)ノ事件ニ於テ檢事長ハ陪審官ニ對スル其開始演說中ニ愛蘭國

ノ騷擾ヲ引援シタリシヲ他ヨリ故障サレタル時判事オールハ凡ソ引說ハ裁判所ニ於テ同時代ノ歴史中ノ著明ナル事件ニ付テ爲サル、ヲ得ルトノ事カ證據ヲ論スル書中ニ定メラレタルヲ以テ該引援ノ如キハ不正ナルモノニアラスト認メタリキ
 證明ノ順序、証人ヲ訊問スルノ方法、及告訴ノ爲ノ訴訟ヲ維持スルニ緊要ナル證據ニ付テハ第二編ノ證據ノ部ヲ見ルヘシ
 辨護——被告人カ辨護サレヌコアル場合ニ於テハ其被告人ハ若シ至當ト思量スレハ告訴ノ爲ノ證人ト對質ヲ爲シ又ハ判事カ之ニ代リテ對質ヲ爲スナリ又爰ニ記載スヘキハ被告人カ自ラ陪審官ニ向テ演說シ及證人ヲ訊問シ及之ト對質センヲ請願スル場合ニ於テハ之ヲ許可セラルヘシ而テ其辨護人モ亦訊問中ニ出來スヘキ法律ノ點ヲ論議シ且證人ト對質ノ爲ノ問題ヲ被告人ニ告知スルヲ許可セラルヘシ然

レモ被告人ハ證人ヲ訊問シ及之ト對質スル爲ニ辨護人ヲ有シ而テ陪審官ニ向テ演說スルノ權利ヲ自己ニ保存スル能ハサルナリ(證人ノ對質ニ付テハ第三編第四節ヲ見ルヘシ)

二人ノ被告人カ連帶シテ告訴サレ而テ別々ノ辨護人ヲ以テ辨護サレタル場合ニ於テハ各辨護人ハ其訟廷上ノ新舊ノ席順ニ從テ其依頼人ノ爲ニ對質シ及陪審官ニ向テ演說ス然レモ判事ハ若シ好マシク思ハ、辨護人ヲシテ其新舊ノ席順ニ據ラズシテ告訴狀上ニ其姓名ノ記サレタル順序ニ從テ對質シ及陪審官ニ向テ演說セシムヘシ即チ判事クレスウエルハ斯ノ如ク爲サシメタリキ、被告人ハ其辨護人ニ辨護サレシル場合ニ於テハ陪審官ニ向テ其辨護人カ演說スル以前ハ最モ特別ノ狀況アルニアラサレハ其陳述ヲ爲スヲ許サレサルヘシ二人ノ被告人カ共ニ告訴サレ而テ其一人ノカ辨護人ニ辨護サレタル場合ニ於テ

ハ辨護サレサル被告人ヲシテ辨護人ノ演說ノ前又ハ後ニ陪審官ニ向テ其陳述ヲ爲サシムヘキヤ否ハ判事ノ裁量ニアルカ如シ茲ニ甲乙丙三人カ連帶シテ告訴サレ而テ各別々ニ辨護サレ而テ告訴ノ訴訟ノ終ニ於テ丙ハ放免サレ而テ後チ甲ノ爲ノ證人トシテ呼レ而テ其證據ハ乙ヲ罪ニ陷レントセシ場合ニ於テハ乙ノ辨護人ハ丙ト對質シ而テ答辨スル權利ヲ有スト認メテラタリキ

答辨——若シ被告人カ書記シタル又ハ口演ノモノニ拘ハラズ證據ヲ呈サハ告訴代言人ハ答辨スル權利ヲ有ス若シ被告人ノ爲ノ證據ハ只其被告人ノ性質ニ涉ルノミノ時ト雖モ精密ニ論スレハ其證據ハ答辨ノ權利ヲ生ス尤モ此權利ハ斯ノ如キ場合ニ於テハ罕ニ行ハル、モノナリ而テ若シ被告人ノ辨護人カ陪審官ニ向テ演說スルニ證據ヲ以テ維持スルチ企ルコトナク新事件(被告人ノ自己ノ所爲ニ關スル事ナリ

トモ又ハ否ラストモ之ニ拘ハラス)ヲ陳述スル時ト雖モ告訴人ハ答辨
 スル權利アルモノタルヘシ若シ二名ノ被告人ガ同一ノ罪ノ爲ニ連帶
 シテ告訴サレ而テ其一名カ證人ヲ呼出サハ告訴代理人ハ一般ニ答辨
 スル權利アルモノナルカ如シ然レモ若シ罪カ別ニシテ而テ別々ニ告
 訴サレ得タリセハ告訴代理人ハ只證人ヲ呼タリシ者ノ場合ニ於テ答
 辨シ能フノミナリ被告人カ國帝(告訴人ヲ云フ)ノ先見シ能ハサリシ新事件ヲ
 辨護ノ爲ニ證明スヘキ證據ヲ呈スル時ハ毎ニ告訴代理人ハ答辨ニ於
 テ之ヲ拒ム爲ニ證據ヲ呈スル權利アルモノナリ檢事長ニ於テ答辨ヲ
 爲ス權利ニ付テハ第二章第一節告發書ノ部ヲ見ル可シ
 故障書(ビル、ガフ、エグゼフシユン)——故障書ハ何レノ刑事々件ニ於テハアラサルヘシトノ事ハ
 明亮ナル法律ト暫ラク思量サレタリキ然ルニ是ハ輕罪ノ事件ニ於テ
 ハ提出セラル、フヲ得タリシトノ說ナリシカ如クニ後ニ至テ思量サ

レタリ千八百五十一年十二月一日クインズベント裁判所ニ於テ詐欺
 取財及哄騙ノ陰謀ノ爲ニ告訴サレシアレイン(人名)ノ事件ニ於テ證據ト
 シテ或ル書類ノ是認セラレンカ爲ニ故障書カ提出サレタリキ當時判
 事長ロルド、カムベルハ故障書ハ刑事々件ニ於テハ氏ノ嘗テ知ラサル
 所ニシテ今始テ是ヲ知レリト云ヘリ然レモ氏ハ判事ノ私局ニ於テ論
 議ヲ聽キシ後該書ハ誤審裁判所ニ於テ討議サレヘキモノタルヘキヤ
 否ヤノ問題ヲ存シテ之ニ押印シタリキ然ルニ其後同氏ハ尙是ヲ熟慮
 シ而テ他ノ判事ト商議シテ故障書ハ何レノ刑事々件ニ於テハ輕罪ノ
 場合ト雖モ是レアラサルナリトノ說ヲ定メタリト氏ハ陳述シタリキ
 若シ忌避カ全体ニ對シ又ハ各員ニ對スルモノニ拘ハラス止訴答辨ナ
 シシテ棄却サレタレハ其判事ノ命令ハ故障書ノ主旨ト爲サル、フヲ
 得ルハ既ニ前文ニ記載サレタリキ

反逆及重罪ノ場合ニ於テハ故障書ハ決シテ許サレサリキ千八百四十六年中ル、ヘーンズ及テイス(名)ノ重罪ノ事件ニ於テ愛蘭國ノ司法尙書スル、イー、サグデンハ左ノ如ク陳述シテ故障書ノ爲メ令狀ヲ拒ミタリキ即チ第一世エドワード帝即位第十三年ノ條例法及第三世ジョージ帝即位第二十八年ノ愛蘭國條例第三十一章ノ款條及故障書ハ此事件ノ如キ事件特ニスル、ハーレー、グエーン(名)ノ事件及オードンチル(名)ノ事件ニ於テ取ラレ能ハストノ説ヲ觀察シ且該エドワード帝第十三年ノ條例法ノ此事件ノ如キ刑事々件ニ適用ヲ可トスルノ説アラサルノ事情ヲ熟考シ尙總テノ狀況(此事)ヲ檢査シテ此請願ハ許與サレ可ラストノ説ヲ定メタリト

訊問ノ延期——若シ訊問カ其始メラレタル同日ニ終ラサレハ判事ハ之ヲ被告人ノ承了ナクシテ日々延期スル權ヲ有ス斯ノ如キ場合ニ於

テハ反逆及重罪ノ訊問上ノ陪審官ハ裁判所ノ官吏ノ管理内ニ在テ夜間皆共ニ一所ニ留置セラル、ナリ(總テ刑事々件ニ於テハ一所ニ留置スルコトヲ得)然レモ輕罪ニ於テハ通例陪審官ハ訊問ノ趣意ニ付テ何レノ人ト談話セサルヲ命セラレテ夜間各其家ニ歸ルヲ許サル、ナリ告訴ノ爲メ証人カ悉ク訊問サレタリシ場合ニ於テハ裁判所ハ事件ノ延期ヲ命令シ且證據ノ爲メ要用ニシテ遠隔ノ地ニアル物件ノ提出ノ爲メ時間ヲ與フルカ爲メ再ヒ訊問ノ爲サレヘキヲ指令スルコトヲ得千八百四十八年十二月ヨルク府ニ於テ判事モールノ前ニ於テ謀殺罪ノ訊問ノ時代言人ノ開始演説ノ後告訴ノ爲メ証人カ瀛車ノ抑留ノ爲メ未ダ本府ニ到着セサル事カ發見サレタリシ場合ニ於テ其訊問ハ延期サレ陪審官ハ一室ニ鎖錮サレ而テ新陪審官カ陪審官席ニ呼出サレ而テ他ノ事件カ着手セラレタリキ同巡回裁判期ニ於テ陪審官カ不正ノ名

キ以テ宣誓シ而テ斷定前ニ故障カ爲サレタリシ場合ニ於テ該判事ハ適當ノ手續ハ陪審官ヲ解キ而テ被告人ヲ再ヒ訊問スルニアリト雖モ此場合ニ於テハ被告人ニ對スル第二ノ告訴アルヲ以テ斯ノ如キ手續ハ緊要ニアラスト諭告シタリキ假令ハ陪審員ノ一名カ訊問上ノ被告人ノ親屬ナル事カ手續中ニ發見サレタリト雖モ其事實ハ忌避ノ一理由ナルカ故ニ訊問ハ前進セサル可ラスト倣サレタリキ重罪ノ爲ニ告訴サレ而テ陪審官ニ委托サレタル被告人カ急病ニ依テ訟廷ニ留マル能ハサルモノト爲サレタル場合ニ於テ陪審官ハ解カレタリキ而テ其被告人ハ全快ノ上他ノ陪審官ノ前ニ訊問サレタリキ輕罪ノ事件ニ於テ被告人病ニ罹リ而テ裁判所ヨリ搬出サレシ場合ニ於テ判事ハ訴訟カ被告人ノ不在中前進スヘシトノ其辨護人ノ同意ハ斯ノ如キ事情ニ在テハ効力アルモノニアラストノ説ヲ作シテ陪審官ヲ解キタリキ而

テ若シ斯ク病ニ罹リタル被告人カ巡回裁判期中ニ全快セハ再ヒ其訊問ヲ爲サル、トテ得其手續ノ更ニ爲サル、ハ勿論ナリ〔陪審官カ其斷定ニ付テ同意一致シ能ハサル時其解罷ニ付テハ次ノ第二節ヲ見ルヘシ〕〔ゾットリヤ女帝即位第十八年及第十九年ノ刑事裁判條例第百二十六章ニ從テノ訊問ニ付テハ第二編第一部第一章第一節ヲ見ルヘシ〕

第二節 斷定及ヒ裁判

ヴァーシクト 斷定——陪審官ノ斷定ハ反逆罪及重罪ノ事件ニ於テハ總テ公開セル法廷ニ於テ被告人ノ面前ニ於テ宣告サレサル可ラス輕罪ノ事件ニ於テハ訊問中被告人ノ在廷ハ緊要ニアラサルナリ斷定ハ首席陪審員ヨリ宣告サル、ナリ而テ該陪審員ヨリ餘ノ陪審員ノ面前及聽ク所ニ於テ宣告サレタル斷定ニ總陪審員ノ同意ナル事ハ其明白ナル不同意ナクハ必ラス認定サレヘキナリ刑事事件ニ於ル斷定ハ全体ノ罪狀上

ノ一般ノ断定(陪審官ハ總テノ場合ニ於テ事件ノ法律及ヒ事實ノ二ニ付テ自由ニ之ヲ下ス)ヲ得(第三世シヨリシ帝即位第三十二年ノ條例法第六十章)或ハ罪狀ノ一部分ニ係ル一部ノ断定即チ陪審官カ告訴狀ノ一告示又ハ以上ニ付テ被告人ヲ決罪シ而テ其餘ノ告示ニ付テハ之ヲ放免シ又ハ分ツヘキ告示ノ一部分ニ付テ之ヲ決罪シ而テ其餘ノ部分ニ付テハ之ヲ放免スル場合ノ如キ或ハ陪審官ニ於テ只事件ノ事實ノミカ見出サレ其事實ヨリ引出サレヘキ法律上ノ推定ハ裁判所ニ委任スル場合ノ特別ノ断定ノ三種ナリ、數名ノ被告人カ同一ノ告訴狀中ニ包括サレタル場合ニ於テハ陪審官ハ其一人ヲ有罪ト見出シ而テ他ヲ放免シ及此反對ヲ爲ス)ヲ得而テ現今ヅククトリヤ女帝即位第二十四年及第二十五年ノ條例法第九十六章第九十四條ニ從ヒ陪審官ハ被告人カ惡意ノ收受ヲ以テ連帶シテ告訴サレタル場合ト雖モ斯ク爲

ス)ヲ得(第一章第四節ヲ見ルヘシ)然レモ若シ數人カ暴動ノ爲ニ告訴サレ而テ陪審官ハ二人ノ外總テノ者ヲ放免セハ此二人ハ告訴狀ヲ以テ告訴サレ而テ其告訴狀ニ由テ訊問サレサル他ノ人ト共ニ暴動ヲ爲セシ)ヲ證明サル、ニアラサル以上ハ此二人ヲモ亦放免セサル可ラズ且若シ隱謀ノ告訴狀上陪審官ハ一人ノ外總テノ被告人ヲ放免セハ其一人ハ告訴狀ヲ以テ告訴サレ而テ其告訴狀ニ由テ訊問サレサル他ノ人ト共ニ陰謀ヲ企テシ)ヲ證明サル、ニアラサル以上ハ此一人ヲモ亦陪審官ハ放免セサル可ラス

陪審官ハ總テノ刑事々件ニ於テ特別ノ断定ヲ下ス權利ヲ有ス斯ノ如キ断定ハ事實ノミチ的切ニ陳述セサル可ラス而テ事實ヲ證スル爲ニ舉ラレタル證據ノミチ陳述ス可ラス且總テ裁判所ヲシテ裁判ヲ下ス)ヲ得セシムル爲ニ緊要ナル事實カ見出サレサル可ラス如何トナレ

ハ裁判所ハ陳述中ノ何レノ缺乏ヲ趣意又ハ意味ヲ以テ補ヒ能ハサレ
 ハナリ故ニ被告人カ死者ニ對シテ小銃ヲ發放シ而テ之ニ由テ之ニ重
 傷ヲ負ハセリト告訴狀ハ辨シ而テ特別ノ斷定ハ當ニ被告人カ小銃ヲ
 發放セリ而テ之ニ由テ死者ヲ殺害セリトノ陳述シテ小銃カ之ニ對
 シテ發放サレシトノ言語ヲ以テ之ヲ陳述セサリシ場合ニ於テハ裁判
 所ハ被告人ニ對シ何レノ裁判ヲモ下シ能ハスト認メラレタリキ又告
 訴狀ハ人ヨリノ強奪ヲ告訴シ而テ證據ハ告訴人ノ金ヲ其面前ニ於テ
 地上ヨリ拾取ルコナリシ場合ニ於テ特別ノ斷定ハ假令ハ被告人カ告
 訴人ノ掌中ノ金ヲ打落シ而テ直ニ之ヲ拾取リシコトヲ陳述セリト雖モ
 無効トナサレタリキ如何トナレハ其斷定ハ被告人カ拾取ルコト現ニ其
 場ニ在リシコトヲ明白ニ見出サ、リシカ故ナリ然レモ若シ陪審官カ總
 テ罪狀ノ實質上ノ緊要事ヲ見出サハ告訴狀中ノ術語ヲ以テ悉ク陳述

スヘク束縛サレサルナリ故ニ被告人カ銀行紙幣ノ偽造罪ヲ以テ告訴
 サレ而テ特別ノ斷定ハ被告人カ之ヲ削リ而テニナル語ヲ五ニ變シテ
 變更シタリト陳述セシ場合ニ於テ是ハ有効ト認ラレタリキ又謀殺ノ
 告訴狀カ三個ノ創傷ヲ掲載シ而テ特別ノ斷定ハ只一個ヲ記載セシ場
 合ニ於テ是ハ有害ノ相違ニアラスト爲サレタリキ又證據カ告訴狀中
 ノ陳述ト精密ニ符合スルヲ要セサル場合ニ於テ(第二部第一章ヲ見ル
 ヘシ)特別ノ斷定ハ假令ハ同一ノ目的ニ於テ告訴狀中ノ陳述ト異ナリ
 ト雖モ可ナルヘシ即チ經過スル性質ノ事件ニ於テ事實カ裁判所ノ管
 轄内ノ異ナル場所ニ於テ出來シタリト見出サレタル場合又ハ時カ緊
 切ニアラサル場合ニ於テ告訴狀ニ陳述サレタルヨリ異ナル日ニ於テ
 出來シタリト見出サレタル場合ノ如シ若シ斷定カ事實ノ出來セシ時
 テ陳述セサレハ裁判所ハ其事實ヲ陪審官カ之ヲ陳述セシ順序ヲ以テ

出來シタリシモノト思意スヘキカ如シ陪審官ハ事實ヲ陳述シタル後ニ何レノ法律上ノ推定ヲ爲スヲ要セス且實ニ之ヲ爲スヘカラハ如何トナレハ是ハ裁判所ノ職分ナレハナリ而テ若シ陪審官カ斯ク爲シ而テ其爲シタル推定ハ不正ノモノナレハ裁判所ハ贅物トシテ之ヲ棄却スヘシ而テ陳述サレタル事實ニ依テ證セラレタル裁判ヲ之ニ拘ハラス下スヘシ特別ノ斷定ハ事實ノ事ニ付テハ修正スヘキモノニアラス然レモ只書式ノ誤謬ハ陪審官ノ明瞭ナル趣意ヲ補フ爲ニ死刑ニ該ル事件ニ於ルモ據テ修正ヲ爲スヘキ書類又ハ草案アル場合ニ於テハ恐ラクハ修正セラレ、^一ヲ得若シ三種ノ罪カ告訴狀中ニ告訴サレ而テ特別ノ斷定ハ只其罪ノ二種ニシテ適用スル證據ヲ陳述セハ裁判所ハ被告人ヲ此二種ノ罪アルモノト裁判シ而テ餘ノ一種ニ付テハ放免ヲ記入スル^一ヲ得然レモ裁判所ハ重罪ノ告訴狀ニ付テ被告人ヲ輕罪ノ

罪アル者ト裁判スル^一ヲ得ス但シ被告人ハ告訴狀中ニ之ニ對シテ告訴サレタル度^(輕重)ノ罪ニアラスト雖モ罪ヲ免レサルモノタル^一カ特別ノ斷定中ニ陳述サレタル事實ヨリ明白ニ顯ハレタル場合ニ於テハ裁判所ハ之ヲ放免セサルヘシ但シ更ニ告訴狀ノ提出サレヘキヲ指令スヘシ斷定カ之ニ付テ裁判ノ下サレ能ハサル如クニ不完全ナル場合ニ於テ輕罪ノ事件ニ於テハ新陪審官徵集令狀カ裁定セラレ、^一ヲ得然レモ重罪ニ於テハ是カ疑ハレタリキ畢竟裁判所ハ見出サレタル事實カ被告人ニ對スル裁判ヲ保證セサル場合ニ於テハ放免ノ裁判ヲ記入スル^一ヲ得ルナリ然レモ是ハ同一ノ重罪ニ對スル他ノ告訴ノ障礙タラサルヘシ斷定ハ贅物アルカ爲ニ敗ラレサルモノナリ陪審官カ誤解又ハ明亮ナル偏頗ニ由テ不適當ナル又ハ矛盾スル斷定ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判所ハ之カ記錄サル、前ニ之ヲ再考スル

テ該官ニ希望シ而テ變更ヲ吹薦スル權ヲ有ス而テ陪審官自ラ其斷定
 ナ手續ノ此楷梯ニ於テ(或ハ斷定カ記錄サレタル後ト雖モ直チニ)改正
 スルコトヲ得而テ其斷定ハ最終ニ脩正サレタルモノトシテ成立スヘシ
 是ハ被告人カ訟廷ヨリ放免(假定ノ放免斷定ニ從テ)サレタリシ後ト雖
 モ若シ陪審官カ其席ヲ退キシ以前ナレハ爲サル、コトヲ得刑事々件カ
 ナイサイ、プリユス(前文ニ)ニ於テ訊問サレタリシ場合ニ於テポステア
(前文ニ)ハ其不正ナルコトヲ示セル判事ノ記錄又ハ他ノ有効ノ書類アル
 場合ニ於テハ示サレタル充分ノ理由ヲ以テ修正セラル、コトヲ得
 斷定ノ宣告ノ上ハ若シ被告人カ訴訟ノ實質上之ニ由テ放免サレタレ
 ハ其被告人ハ其拘留ノ爲ニ他ノ法律上ノ理由アルニアラサレハ限り
 ナク自由ニシテ而テ其告訴ヨリ放免セラル、ナリ若シ被告人カ同罪
 ニ對スル他ノ告訴狀ノ障礙ノ爲ニ放免ヲ答辨シ能ハサリシ(第四章第

五節ノ最前ノ放免部ヲ見ルヘシ)カ如クニ手續中ノ缺乏ノ爲ニ放免サ
 レタレハ其被告人ハ更ニ告訴サル、爲ニ拘留サル、コトヲ得、狂氣ノ理
 由ヲ以テ放免サレタル人ニ付テハ第一章第二節狂人ノ部ヲ見ルヘシ
 若シ被告人カ決罪サレタレハ其被告人ハ叛逆及重罪ノ場合ニ於テハ
 其決罪ニ關シ何故ニ裁判所ハ此被告人ニ對シテ裁判スル手續ヲ爲ス
 ヘカラサル乎コト付テ如何ノ事ヲ其被告人カ陳言スヘキヲ裁判所ヨリ
 請求セラル、ナリ而テ若シ此請求(アルロキユーチユス)(演述ナリト云)ト稱
 ス)カ記錄ノ調製サレタル時之ニ見ヘサレハ不正ニシテ誤審令狀ノ旨
 意タルヘシ被告人ニ向テ何故ニ裁判所ハ之ニ對シテ裁判及執行ノ手
 續ヲ爲ス可ラサル乎ヲ請求スルハ緊要ニアラサルナリ輕罪ニ於テハ
 裁判前ニ被告人ニ向テ斯ク請求スルハ通例ニアラサルナリ告訴狀カ
 クインスベンチ裁判所ニ於テ見出サレ或ハ審査令狀ヲ以テ之ニ移サ

レシ場合ニ於テハ第四世ジョージ帝即位第十一年及第四世ウヰリヤム帝即位第一年ノ條例法第七十章頒布前ハ總テノ事件ニ於テ判事ヲシテ刑ノ言渡ヲ爲スヲ得セシムル爲ニ裁判ノ命令ヲポステア(前文ニ出ツ)上ニ記入シ而テ之ヲ裁判所ニ携帯スルハ告訴人ノ爲ニ緊要ニアラサリキ然レモ同條例法同章第九條ニ依テ左ノ如ク制定サレタリ即チキングスベンチ裁判所(即チクイーンズベントウチ裁判所)ノ何レノ記録上ノ重罪又ハ輕罪ノ總テノ訊問上裁判ハ斷定カ其前ニ於テ爲サレヘキ判事ヨリ被告人コシテ缺席又ハ白狀ニ依テ同一ノ記録ニ付テ裁判ヲ受タルヘキ者並ニ訊問サレ及決罪サレヘキ者ニ對シ其者カ裁判所ニ出席シタル又ハセサルニ拘ハラズ開庭又ハ巡回裁判期中言渡サル、コヲ得但シ告訴カキングスベンチ裁判所ノ許可ヲ以テ提出サレタル告發書ニ依テ爲サレヘキ場合或ハ陛下ノ檢事長ヨリ提出サレタル告發書ニシテ其中ニ

裁判カ延期サル、コヲ得ルヲ檢事長ノ請求スヘキ場合ノミハ此限ニアラズ而テ斯ク言渡サレタル裁判ハナイサイ、プリユス、レコルド(前文ニ出ツ)ニ裏書サレ而テ其後裁判所ノ記録ニ記入セラルヘシ而テ裁判所カ次ノ裁判期ノ開始後六日內ニ何故ニ新訊問カ爲サレ可ラサル乎又ハ裁判カ修正サレ可ラサル乎ノ理由ヲ示スヘキ命令ヲ許與スヘキニアラサレハ裁判所ノ裁判ノ如ク同一ノ効力ヲ有スルモノタルヘシ而テ訊問カ其前ニ爲サレヘキ判事ニ於テ被告人ニ裁判ヲ執行スルノ命令又ハ令狀ヲ直チニ發シ又ハ裁判ノ執行ヲ其至當ト思料スヘキ期限ヲ以テ次回ノ裁判期ノ第六日マテ猶豫スルハ正當ナルヘシ而テ禁獄カ刑ノ言渡ノ一部分タルヘキ場合ニ於テハ禁獄ノ期限ヲ被告人カ實際監獄ニ送付サレ而テ之ニ幽閉サレヘキ日ニ開始スルヲ命令スルハ正當ナルヘシト

斷定ノ後裁判ヲ受クル爲ニ被告人ヲ引致スル手續ニ付テハ後文ノ斷
 定後及裁判前ノ手續ヲ見ルヘシ若シ陪審官カ其席ヲ退クナクシテ
 ハ其斷定上同意一致スルヲ得サレハ該官ハ爲ニ設ケラレタル便利ノ
 場所ニ退去ス其時裁判所ノ一官吏ハ該陪審官ヲ食物、飲料又ハ火ナシ
 ニ(蠟燭ノ光ノミハ此限ニアラス)爲シ置キ裁判所ノ許可ナケレハ何人
 ト雖モ該官ニ談話スルヲ許サス亦自身ト雖モ該官ニ其同意セシヤ否
 ヤヲ問フノミノ外談話セサルヲ宣誓ス而テ陪審官ハ其同意シタル
 ニ至ルマテハ裁判所ノ特許ナクシテハ離散シ又ハ其熟慮ノ爲ニ設ラ
 レタル場所ヲ退ク可ラス若シ陪審官カ其斷定ヲ下ス前ニ飲食セハ假
 令ハ是カ爲ニ其陪審官ハ罰金ヲ課セラル、ヲ得ルト雖モ其斷定ヲ
 無効トナサ、ルナリ而テ判事ノ承認ヲ以テ必要ノ場合ニ於テハ陪審
 官ハ正當ノ清涼物(飲料ヲ)チ有スルヲ得

記録上ニ斷定ノ記入ノ書式ハ左ノ如シ

(シミリテール)第四章第六節ノ末文ヲ見ルヘシ)ノ次ニ陪審官徵集ノ
 裁定ヲ記ス左ノ如シ)是故ニ之ニ由テ事件ノ事實カ尙善ク知ラル、
 一ヲ得ル者ニシテ其宣誓ノ上該何某カ上文ニ詳記サレタル告訴狀
 中ノ重罪ニ付テ罪アル者ナル乎又ハ罪アル者ニアラサル乎ヲ認メ
 ンカ爲ニ該何某ノ親族ニアラサル該何々郡ノ自由ナル且正當ナル
 人ナル陪審官ヲシテ上文ニ記載サレタル我女帝陛下ノ該判事及上
 文所陳ノ他ノ該判事ノ同僚ノ前ニ直チニ此處ニ來ラシメヨ如何ノ
 ナレハ我女帝陛下ノ爲ニ此資格ヲ以テ告訴スル該何某(書記)并ニ該
 何某(被告)カ自ラ該陪審官ノ上ニ選ミタリシカ故ナリ而テ此目的ノ
 爲ニ郡長ヨリ徵集サレ然テ回報サレタル該陪審官ノ陪審員即チ何
 某(悉ク之ヲ指名ス)カ呼上ラレテ來リ説示部ノ及之ニ關スル正實ヲ

陳述スル爲ニ選マレ訊問サレ及宣誓シタルヲ以テ其宣誓ノ上云フ該何某ハ上文所陳ノ方法及式ヲ以テ之ニ對シテ上文ニ告訴サレタル上文所陳ノ重罪ニ付テ上文ニ之ニ對シテ該告訴狀ニ由テ假定サレタル如ク罪アル者（又ハ罪ナキ者）ナリト之ニ次テアルロキユート（前文ニ）テ記ス左ノ如シ

而テ之ニ付テ該何某（被告）ハ何故ニ該判事カ爰ニ上文所陳ノ説示部及斷定ニ由テ之ニ對シテ裁判スルノ手續ヲ爲ス可ラサル乎ニ付テ陳述スヘキ何レノ事ヲ有シ又ハ知ル乎カ即時該何某ニ請求サレタリ該何某ハ最前陳述シタリシ如キノ外ニ尙其他何事モ陳述セサルナリ是故ニ云々（後文ノ裁判ノ部ニ記セル如キ裁判ヲ續テ記ス）

陪審官ノ解放——巡回裁判期ニ於テ訊問ノ場合ニ於テ陪審官カ若シ判事ノ郡ヲ出發スル前ニ同意セサレハ之ト共ニ郡ノ境界マテ同伴セ

シメラル、（一）ヲ得ルト云フ或ハ或ル人ノ云フ如ク其同意一致スルマテ巡回區中ノ所々ニ同伴セシメラル、（一）ヲ得ト而テ生命又ハ四肢ノ事件ニ於テ宣誓シ而テ委托サレタル陪審官ハ裁判所又ハ何レノ他ノモノヨリ解カレ能ハス但シ該官ハ斷定ヲ下サ、ル可ラストノ事ハ法律ノ一般ノ規則ナリト云ハレタリキ然レモ此規則ハロルドコーク氏ニ於テ余リ廣濶ニ陳述セラレタリ而テフェルラー（人）ノ事件（偽造罪ノ告訴）ニ於テ法律ニアラスト拒マレタリシ其時假令ハ陪審官ハ刑事々件ニ於テ委托サレ而テ宣誓シタリト雖モ然レモ數多ノ學者ノ法律ト認メタリシ普通ノ傳説コ反シテ陪審員カ黜ケラレ又ハ陪審官カ解放セラル、（一）ヲ得ルトノ事カ總テノ判事ニ於テ決定サレタリトシテ定メラレタリドクトル、エンド、スチューデント（書）書中ニ若シ陪審官カ如何シテモ其斷定ニ同意一致スル能ハス而テ此事カ吟味ニ由テ判事

ニ顯著ナレハ判事ハ此場合ニ於テハ其同意スルヤ否ヲ見ル爲ニ暫ク食物及飲料ヲ用ユルヲ之ニ許可スルヲ得而テ若シ該官カ如何シテモ同意セサレハ判事ハ若シ陪審官中ノ一員カ斷定前ニ死去セハ或ハ若シ之ニ均シキ何レノ他ノ事故カ偶然陪審官中ニ生セハ判事カ裁定スルヲ得ルト同様ニ新審問ヲ裁定スルヲ以テ或ハ否ラスシテ判事ニハ其裁量ニ依リ理由及條理アリト見ユルカ如キ命令ヲ此事件ニ付テ下スヲ得ト云ハレタリ而テ現今ハ是カ假令ニ確乎タル緊要ノ場合カ判事ニ於テ斯ク爲スカ爲ニ顯明ナルニアラサレハ陪審官ヲ解放スルヲ以テ行ハレサルヘシト雖モ訊問ニ於ル判事ノ裁量中ニアル事件ナル事ハ定法トシテ思考セラル、ヲ得巡回裁判期ニ於テ謀殺ノ訊問ニ於ル陪審官カ日ノ正午ヨリ翌朝マテ一室ニ鎖錮サレ而テ後法廷ニ呼迎ヘラレタル上其陪審官カ同意一致スルヲ成リ難ク

且其日ハ次ノ巡回裁判市ニ於テ職務ヲ行フ初日ナルヲ陳述シ之ニ由テ判事ハ該官ヲ解放セシ場合ニ於テハ判事ハ斯ク爲スヲ法律上保證サレタルモノト認メラレタリキ然レモ長キ時ノ間陪審官カ同意一致セスシテ只時ノ經過ノミニテハ死刑ニ該ル事件ニ於テ判事ノ陪審官ヲ解放スルヲ假令ニ陪審官カ其同意一致ノ成リ難キヲ陳述スルト雖モ保證セサルヘシトノ事カ一事件ニ於テ認メラレタリシカ如シ

若シ陪審官中ノ一員カ斷定ノ宣告前ニ死去セハ殘ル十一員ハ解放セラルヘシ而テ新陪審官カ直チニ宣誓スルヲ得或ハ新陪審員一名カ十一名ニ加ヘラル、ヲ得而テ之ニ依テ被告人カ訊問サレ或ハ(若シ緊要ナレハ)次回ノ巡回裁判期ニ至ルマテ拘留セラル、ヲ得若シ陪審員ノ一名カ訊問ヲ進メテ爲シ能ハサル如クニ病ニ罹リタル時モ亦

同シ他ノ陪審員カ十一名ニ加ヘラレタル場合ニ於テハ皆更ニ宣誓セサル可ラス而テ被告人ハ再ヒ忌避ヲ爲サ、ル可ラス
 被告人カ陪審官ヲ解クコアラサレハ爲シ能ハサリシ辨護ノ理由ヲ被
 告人ニ吐露セシムル爲ニ裁判所ハ其承認ニ由テ陪審官ヲ解クコヲ得
 而テ斯ク爲ス事カ何レノ其他ノ手續ヲ妨サルヘシトノ事カ亦認メラ
 レタリキ陪審官ハ亦刑事々件ニ於テ證人ノ急病ノ故ヲ以テ解カレ又
 ハ一陪審員カ黜ケラレタリキ而テ緊切ナル證人カ詭計ヲ以テ出廷ヲ
 妨ケラレ又ハ偶然ノ事故ニ由テ缺席シタリシ場合ニ於テモ亦解カレ
 又ハ黜ケラレタリキ

告訴ノ爲ニ大切ナル且緊用ナル證人カ其問ハレタル問ニ答フルヲ拒
 ミ而テ假令ヘ判事カ之ニ問ニ答フヘキハ其義務タルコトヲ告知セリト
 雖モ尙固ク執テ之ヲ拒ミ而テ是カ爲ニ裁判所侮辱ノ罪アル者ト裁判

サレ而テ罰金ヲ課セラレ而テ禁獄ニ處セラレシ場合ニ於テ判事ハ告
 訴代言人ノ請願ニ依リ而テ被告人ノ意想ニ反シテ陪審官ヲ解放セリ
 而ルニ斯ノ如キ解放ハ被告人ノ放免ニハ及ホサス而テ其被告人ハ再
 ヒ訊問サレヘキ責アル者タリト認メラレタリキ
 陪審官ノ不正ノ解放ニ基キタル辨護ハ無罪ノ答辨カ記録上ニ存スル
 ナ以テ答辨ニ依テ之ヲ爲ス能ハサルナリ而テ此目的ニ於テ判事ニ於
 テ行ハレタル裁量ハ何レノ方法ヲ以テ改正サレ能フヤ否ハ疑ハシキ
 事ナリ

裁判停止——被告人ハ決罪ト刑ノ言渡トノ間何時ニテモ裁判所ニ向
 テ裁判停止ノ請願ヲ爲スコトヲ得但シ刑ノ言渡ノ後ハ得ス(第三世ヨ
 一ヨ帝即位第三十二年ノ條例法第六十章第四條)此請願ハ只記録面上
 ニ發生スル故障ノミニ基テ爲サレ能フモノニシテ證據上ノ缺乏又ハ

訊問ニ於ル不正ハ手續ノ此楷梯ニ於テ強テ迫ラレ能ハサルナリ然レ
 凡告訴狀中例ヘハ時又ハ場所(其緊切ナル場合ニ於テ)ノ陳述、罪カ對シ
 テ犯サレタリシ人ノ陳述又ハ罪ヲ成ス事實及狀況ノ陳述又ハ其他ノ
 陳述ニ於ルカ如ク充分ナル確實ノ缺乏アリテ而テ訊問中修正サレス
 且斷定ヲ以テ補ハレサリシモノ(第一章第三節起文部ノ末段以下ヲ見
 ルヘシ)ハ裁判ヲ停止スル爲ノ理由タルヘシ、書式ノ如何ノ缺乏カ斷定
 ヲ以テ補ハル、平且第四世ジョーシ帝即位第七年ノ條例法第六十四
 章第二十條第二十一條及ヅヰクトリヤ女帝即位第十四年及第十五
 年ノ條例法第百章ニ由テ全ク不緊要トナリタリシ平ハ既ニ論述セリ(第
 一章第三節)假令ヘ被告人自ラ裁判停止ノ請願ヲ爲スヲ怠ルト雖モ若
 シ事件ノ檢査ノ上被告人ハ法律上何レノ罪ノ罪アル者ト見出サレサ
 リシ事カ満足ニ知了サレタレハ裁判所ハ自ラ裁判ヲ停止スヘシ若シ

裁判カ停止サレタレハ總テノ手續ハ廢棄サレ而テ放免ノ裁判カ下サ
 ル、ナリ然レモ是ハ新ナル告訴狀ノ障礙ヲラサルヘシ
 告訴カ基テ爲サレタル條例法カ告訴狀ノ發見ノ後但シ答辨ノ答辨サ
 レタル前ニ廢止サレタル場合ニ於テハ裁判所ハ裁判ヲ停止セリ
 斷定後及裁判前ノ令狀、——陪審官ノ斷定ニ由テ有罪ト見出サレタル
 被告人カ裁判ノ言渡サル、時裁判所ニ出頭セサル可ラサル事ノ緊要タ
 ル場合ニ於テハ毎ニ若シ其被告人カ拘留サレスニアリテ隨意ニ裁判
 所ニ出席セサルヘケレハ被告人ニ對シテ見出サレタル告訴狀又ハ提
 出サレタル告發書ニ答辨スル爲ニ之ヲ裁判所ニ拘引スル目的ノ爲ニ
 令狀カ發セラレ、トテ得ルト同様ニ被告人ヲ裁判ヲ受クル爲ニ拘引
 スル目的ヲ以テ令狀カ發セラレ、トテ得而テ其被告人ハ此令狀ニ依
 テ法外刑ニ處セラレヘキ責アルモノナリ(第一章第八節ヲ見ルヘシ)若

シ被告人カクインスベシテ裁判所ニ出頭シ而テ裁判ヲ受クヘキ承諾
 ナ記入シタルモノナレハ特示サレタル日ニ於テ裁判ノ爲メ之ヲ拘引
 スル旨ノ通達書カ該被告人及其保證人ニ執行サル、ナリ而テ斯ノ如
 キ通達書カ執行サレ而テ出頭カ裁判所ノ手續及習行ニ從テ要セラレ
 タル後闕席シタル場合ニ於テハ承諾書ハ裁判所ノ裁量ヲ以テ没収セ
 ラルヘシ而テ其出頭ノ爲メ令狀カ發セラレ或ハ法外刑ノ手續ノ爲ニ
 拘引狀カ發セラレヘシ

裁判——告訴ノ主旨タル各種ノ罪ニ對シ我法律ニ由テ定ラレタル裁
 判即チ刑ノ言渡ハ本書ノ後編ノ其各別ノ部類中ニ見出サルヘシ爰ニ
 記載スヘキハ大反逆及謀殺罪ノ外總テ死刑ニ該ル事件ニ於テハ第四
 世ヨリシ帝即位第四年ノ條例法第四十八章第一條ニ由テ而テ謀殺
 罪ノ事件ニ於テモ亦恐ラシハ該條例法ト共ニ第四世ウヰリヤム帝即

位第六年及第七年ノ條例法第三十章第二條ニ由テ其前ニ被告人ノ決
 罪サレタル裁判所カ被告人ハ事件ノ特別ノ狀況ニ由テ國帝ノ仁慈ヲ
 仰ク爲ニ保薦サルヘキ至當ノ者ナリトノ意見タルヘキ時ハ毎ニ其裁
 判所ハ死刑ノ裁判ヲ言渡スヲ差扣ヘ而テ斯ノ如キ裁判ヲ言渡ス代リ
 ニ之ヲ同言語ヲ以テ記録ニ記入サレヘキヲ命令スルヲ許可サレタリ
 既ニ他人ノ罪ノ爲ニ禁獄又ハ懲役ノ刑期中ノ人ニ對シテ重罪ノ爲ニ刑
 ノ言渡カ爲サル、場合ニ於テハ裁判所ハ後ノ罪ノ爲ニ最前ノ禁獄又
 ハ懲役ノ滿期ニ於テ開始スヘキ禁獄又ハ懲役ノ刑ノ言渡ヲ裁定スル
 一ヲ得尤モ禁獄又ハ懲役ノ前後通算ノ期限ハ此等ノ刑ノ各カ否ラス
 シテ裁定サレ得タリシ期限ニ超過スルヲ得(第四世ヨリシ帝即位
 第七年及第八年ノ條例法第二十八章第十條)又被告人カ同時ニ同種ノ
 數罪ヲ以テ告訴サレタル場合ニ於テハ其被告人ハ禁獄又ハ懲役ノ各

別ノ期限ニ相續チ處セラレ、^一チ得輕罪ニ對スル告訴狀カ四個ノ告示ヲ含有シ而テ其第三ノ告示ハ錯誤ヲ以テ實質上不正ノモノトナサレ而テ被告人カ全体ノ告訴狀ニ由テ決罪サレテ禁獄ノ四個ノ繼續スル同期限(一告示ニ付一個ツ)ニ處セラレタル場合ニ於テ第四ノ告示ニ付テノ刑ノ言渡ハ第三ノ告示ノ無効ナルニ因テ無効トナサレサリシ而テ之ニ付テノ禁獄ハ第二ノ告示ニ付テノ禁獄ノ終ヨリ起算サレヘキモノタリシト認メラレタリキ

決罪ノ上ノ裁判ノ書式ハ左ノ如シ

故ニ總テノ及ヒ單ナル説示部カ此裁判所ニ於テ視ラレ而テ充分ニ了解サレタルヲ以テ該何某ハ其該罪ノ爲ニ云々(事件ニ隨テ)禁獄サル、事カ此裁判所ニ於テ熟議サレ而テ裁判サル、モノナリ

放免又ハ放免ノ答辨ノ許容ノ場合ニ於ル書式ハ左ノ如シ

之ニ由テ總テノ及ヒ單ナル説示部カ此裁判所ニ於テ視ラレ而テ充分ニ了解サレタルヲ以テ該何某ハ説示部ニ付テ放免サレ而テ此所ヨリ遲滯ナク之カ爲ニ退去スル事カ此裁判所ニ於テ熟議サレ而テ裁判サル、モノナリ

被告人カ「上文所陳ノ重罪」ノ爲ニ十年間徒刑ニ處セラレヘシトノ裁判ニシテ而テ告訴狀ニハ二個ノ告示ヲ含有シ第一ノ告示中ニ告訴サレタル罪ハ十年間徒刑ノ刑ノ言渡ヲ保証シ然ルニ他ノ告示ハ之ヲ保証セサリシ場合ニ於テ是ハ錯誤ニ付テ不正ト認メラレタリキ如何トナレハ重罪ナル語ハ單數聚合實名詞ニアラサルヲ以テナリ然レ輕罪ナル語ハ單數聚合實名詞ナリ是故ニ輕罪ノ告訴狀カ數告示ヲ含有シ而テ皆法律上不正ノモノニアラスシテ悉ク證明サレヘキモノト陪審官ニ於テ見出サレタレハ「上文所陳ノ輕罪」ノ爲ニ徒刑又ハ禁獄ノ裁

判ハ不正ノモノコアラサルナリ然レモ若シ何レノ一告示カ不正ノモノ
ノタラハ被告人ニ對シテ「上文所陳ノ其數罪ノ爲ニ」一般ノ裁判モ亦不
正ナルモノナリ(第一章第五節ヲ見ルヘシ)

同一ノ治安裁判期又ハ巡回裁判期或ハ其何レノ延期中ハ何時ニテモ
裁判所ハ被告人ニ下サレタル裁判ヲ之カ記録ノ事件トナリタリシ前
ハ取消スヲ得而テ他ノ寛ナル又ハ嚴ナル裁判ヲ下スヲ得然レモ
裁判カ一度正式ヲ以テ記録上ニ記入サレタル時ハ何レノ裁判所ト雖
モ何レノ變更ヲ爲スヲ得ス但シ若シ何レノ緊切ナル缺乏カ其面上
ニ顯明ナレハ是ハ尙誤審令狀ヲ以テ廢滅サレ能フモノナリ、誤審令狀
ノ手續ハ後節ニ論スヘシ

重罪ノ爲ニ告訴サレタル人ハ之ニ對スル告訴狀ノ謄本ヲ陪審官ノ斷
定ヲ以テ放免ノ後又ハ告訴狀カ大陪審官ニ於テ却下サレタル上當然

得ル權利アル者ナルヤ否ヤハ諸説相矛盾撞着スル一問題ナリブラ
ン(名)事件ニ於テハ其被告人ハ當然ノ事トシテ謄本ヲ得ル權利アル
者ニアラスト定メラレタリ其他ノ事件等ニ於テハ反對ノ説カ維持サ
レタリ

裁判執行中止——裁判執行中止ハ某時間刑ノ言渡ノ取戻ナリ之ニ由
テ刑ノ言渡ノ執行カ停止サル、ナリ是ハ女帝ヨリ又ハ執行ヲ裁定ス
ル權アル裁判所ヨリ許與サ、ルヲ得裁判執行中止ハ國帝ノ裁量ノ
ミチ以テ許與サレ及裁判所ノ裁量ヲ以テ確實ノ公直上之ヲ要スル
時ハ許與サレヘキモノナリ、左ノ二個ノ場合ニ於テハ裁判所ハ之ヲ許
與セサル可ラス第一、刑ノ言渡ヲ受タル被告人カ婦女ニシテ妊身ナル
場合、第二、被告人カ裁判ノ對シテ言渡サレタル後狂人トナリシ場合ナ
リ、死刑ニ該ル決罪上婦女カ其妊身ナルヲ辨シ又ハ裁判所カ別ニ斯

ノ想像スル理由アル場合ニ於テハ法律ハ十二名ノ婦女(人ノ母)ノ陪審官カ徵集サレ而テ其婦女ハ姪身ナルヤ否ヲ訊問スル爲ニ宣誓スヘシト云フコアリ而テ該陪審官カ其姪身ナルヲ見出ス場合ニ於テハ裁判所ハ該被告人カ分娩シタルヘキニ至ルマテ或ハ斯ク分娩スヘキ事カ自然ノ理ニ由テ最早成リ難キニ至ルマテ之ヲ猶豫スヘキナリ斯ノ如キ婦女陪審官ニ施行サレヘキ宣誓ノ式ハ左ノ如シ

汝ハ此陪審官ノ首席婦女トシテ汝ハ訟廷ニ在ル被告人ヲ其姪身ナルヤ否ヤニ付テ搜索シ及訊問シ而テ之ニ付テ汝ノ熟練及了解ニ隨テ正實ノ斷定ヲ下スヘキ事ヲ宣誓スヘシ、故ニ汝ヲ助ヨ上帝ヨ

其後該官ノ他ノ婦女ニ對シテ宣誓カ施行サル、左ノ如シ
汝ノ首席婦女カ自分ノ爲ニ爲シタリシト同一ノ宣誓ヲ汝ハ汝ノ分ノ爲ニ宜シク且正實ニ遵奉シ且保守スヘシ、故ニ汝ヲ助ヨ上帝ヨ

巡回裁判期ノ判事ハ其委任ノ終リタル後執行中止ノ權ヲ有ス尤モ博識ナル委員(即チ巡回判事)ハ此權ノ繼續ハ嚴重ナル權利タルヨリモ寧ロ普通ノ習慣ナリト云ハレタリトノ事ヲ知レリ

被告人ノ放免——英國又ハウエールス内ニ刑事ノ管轄權ヲ有スル何レノ裁判所ノ前ニ何レノ重罪又ハ何レノ他ノ罪ヲ以テ又ハ之ニ從犯トシテ告訴サレタル各被告人ニシテ大陪審官ニ於テ告訴狀ノ見出サレサルヘキ者又ハ其訊問ノ上放免サレヘキ者又ハ告訴ノ缺乏ノ爲ニ放免サレヘキ者ハ直チニ公廷ニ於テ郡長又ハ其斯ク放免サレヘキ監獄ノ典獄又ハ看守人ニ斯ノ如キ放免ノ爲メ又ハ之ニ關シテ何レノ謝金又ハ金員ヲ拂フコトナクシテ放免セラルヘシトノ事カ第三世ヨシ帝即位第十四年ノ條例法第二十章ニ由テ定メラレタリ

告訴狀カクインスベシテ裁判所ニ提出サレ又ハ審査令狀ヲ以テ其裁判所ニ移サレタリシ場合ニ於テハ新訊問ハ告訴人ハ訊問ノ正當ナル通知書ヲ送ルヲ怠リタリトノ理由又ハ斷定カ證據ニ反シタルモノナリントノ理由ヲ以テ或ハ證據ノ不當ナル受納又ハ拒絕或ハ判事ノ他ノ過誤又ハ不正ノ指令ノ爲ニ或ハ陪審官中ニ何レノ重大ナル不正ノ舉動アル爲ニ或ハサルプライズ(一方ヨリ呈シタル證據ヲ他ノ一方ニ答辨シ得タリシト信ス)ノ爲ニ又ハ新訊問カ公直ノ目的ヲ達スヘシトノ事カ裁判所ニ顯明ナルヘキ何レノ他ノ理由ヲ以テ決罪ノ後請願セラルハコト得然レモ受納サレ得タリシ何レノ不當ナル證據ヲ棄却シタル後告訴狀ヲ維持スルコ足レル證據アルコトノ顯明ナル場合ニ於テハ新訊問ノ爲ノ命令ハ拒マルヘシ反逆又ハ重罪ノ事件ニ於テ手續カ正當ナリシ場合ニ於テハ新訊問ハ許與サレ能ハスト從前ハ云ハレタ

リキ然レモ現今クインスベシテ裁判所ハ記錄カ其裁判所ニアル時ハ其裁量ヲ以テ重罪ノ事件ニシテ證據カ不當ニ是認サレタリシ場合又ハ陪審官カ過テ指令サレタリシ場合ニ於テ新訊問ヲ命令スヘシ下等裁判所ハ民事々件ニ於ルモ刑事々件ニ於ルモ其實質ニ付テ新訊問ヲ許與スル能ハスト雖モ手續ニ不正ノアリタリシ場合ニ於テハ之ヲ許與シ能フモノナリ四季裁判期裁判所カ二名ノ被告人ニ對スル有罪ノ斷定後新訊問ヲ陪審官カ退席シタリシ後其一人カ同僚ト分離シ而テ其斷定ニ付テ他人ト談話シタリシ而テ此故ニ斷定ハ不正ノモノナリトノ理由ヲ以テ許與セシ場合ニ於テ新訊問カ適當ニ命令サレタリト認メラレタリキ

陪審官令狀カ過テ裁定サレタリシ場合ニ於テハ誤審裁判所ハ新陪審官徵集令狀ヲ四季裁判期裁判所ニ指向ケルヘシ(次ノ第五節ヲ見ルヘ

シ

左ニ記載スルハ斯ノ如キ場合ニ於テ裁判ノ請願ノ後ニ加ヘラレヘキ書式ナリ

而テ如何トナレハ上文所陳ノ如ク何某ニ對シテ斯ク下サレタル斷定ハ不正當ニ下サレタリシ事カ此裁判所ニ顯著ナルカ故ニ是故ニ該斷定ハ此裁判所ニ於テ取消サレ而テ無効ト爲サレ而テ總テ他ノ手續カ最前徵集サレタル陪審官ニ對シテ止息スルヲ以テ何々ノ郡長ハ事件ノ事實カ尙善ク知ラル、トヲ得ル云々ノ陪審官ヲシテ之ニ由テ更ニ云々ノ爲ニ來ラシム可ク該郡長カ命令サル、云々
被告人ノ放免ノ後ハ一般ニ新聞問ハ輕罪ノ事件ニ於ルモ又ハ重罪ノ事件ニ於ルモ許與サレサルヘシ然レモ輕罪ノ事件ニ於テ斷定カ被告人ノ詭計ニ由テ又ハ告訴ノ爲ノ証人ヲ妨ケ又ハ訊問ノ正當ナル通知

ヲ爲スヲ怠ルヲ以テノ如キ被告人ノ手續ノ不正ノ故ヲ以テ得ラレタリシ場合ニ於テハ新聞問カ許與サルヘシ道路又ハ橋ヲ修繕セサルカ爲ノ告訴狀ノ場合ニ於ルカ如ク手續ノ目的ハ實質上權利ヲ訊問スルニアリテ而テ斷定ハ權利ヲ束縛スヘキ場合ニ於テモ亦若シ證據カ不當ニ受納サレタリセハ又ハ過誤ノ指令アリタリセハ又ハ斷定カ證據ニ反シタルモノナリセハ新聞問カ被告人ノ利益ノ斷定ノ後ニ得ラ
ル、トヲ得航路又ハ道路ヲ妨礙シタル罪ノ告訴狀ハ此最後ノ規則内ニアルモノト認メラレサリキ斯ノ如キ場合ニ於テハ被告人ハ決罪ノ上罰金及禁獄ヲ受クヘキ責アルモノニシテ而テ放免ノ斷定ハ何レノ權利ヲ束縛セサルナリ
重罪ノ事件ニ於テ被告人ノ利益ノ斷定ハ假令ヘ是カ證據及判事ノ指令ニ反シタルモノト雖モ廢棄サレ能ハサルナリ

新訊問ハ一般ノ断定アリシ場合ニ於テノニ許サル、ナリ特別ノ断定
 カ回報サレタリシ場合ニ於テハ新陪審官徵集令狀カ裁定サル、ナリ、
 断定カ之ニ由テ裁判ヲ下ス能ハサルカ如ク不完全ニ見ヘ或ハ陪審官
 カ見出シタリシモノヨリ異ナル特別ノ事實ヲ見出サ、ル可ラサル事
 カ記録面上顯著ナル場合ニ於テハ裁判所ハ新陪審官徵集令狀ヲ許與
 セサル可ラサルナリ若シ陪審官カ不確實ナル計算ニ從テ或ル金額ノ
 爲ニ断定ヲ下サハ是ハ新訊問ノ理由ナリ而テ反逆及重罪并輕罪ノ事
 件ニ於テ錯誤ノ訊問アリタリシ場合ニ於テハ新陪審官徵集令狀カ裁
 定サレ而テ之ニ由テ新訊問カ爲サルヘシ即チ陪審官カ不當ニ選舉サ
 レ又ハ不法ニ回報サレタリシ場合或ハ忌避カ不當ニ拒絕サレ又ハ陪
 審官ニ於テ不正ノ舉動アリタリシ場合ノ如シ新訊問ノ請願カ許可サ
 レ又ハ新陪審官徵集令狀カ裁定サレタル時ハ訴訟關係人ハ恰モ最初

ノ訊問前ノ位地ト異ルコトナシ而テ全体ノ事實カ再審サレヘキナリ
 刑事々件ニ於テ新訊問又ハ新陪審官徵集令狀ノ請願ハ裁判停止ノ請
 願後ニ爲サレ可ラサルハ一般ノ規則ナリト云ハレタリ然レモ現今シ
 インスペンチ裁判所ハ其裁量ヲ以テ新訊問ノ請願前ニ裁判停止ノ請
 願チ審問ス新訊問ノ請願ハ決罪サレタル被告人或ハ一人ヨリ以上ナ
 レハ其數名ノ被告人カ請願ノ爲サル、時裁判所ニ出頭シタルニアラ
 サレハ許可サレサルナリ然レモ此規則ハ被告人ノ決罪サレタル罪カ
 只罰金ノミチ以テ罰セラレヘキモノタル場合或ハ被告人カ刑事上ノ
 令狀ヲ以テ拘留中ニアル場合ニ於テハ之ヲ適用セサルナリ數名ノ被
 告人ノ中一名又ハ以上カ決罪サレ而テ他ノ一名又ハ數名ハ放免サレ
 タリシ場合ニ於テハ新訊問ハ只決罪サレタリシ被告人ノミニ關シテ
 許可セラル、コトヲ得陪審員ノ誓言書ハ其断定ヲ説明スル爲ニ是認ス

へキモノニアラサルナリ然レモ是ハ陪審官ニ於テ不正ノ舉動アリト
ノ告訴ヲ滅却スル爲ニ朗讀セラル、トテ得而テ斷定ヲ宣告スルノ時
ニ於テ實際經過セシ事ニ渉ル判事ノ報告上ニ疑義アル場合ニ於テハ
陪審員又ハ斷定ノ宣告サレタル時其現場ニ在リシ何レノ人ヨリ告知
書カ領収セラル、トテ得

新訊問ノ請願ハ只告訴狀カクインスベシテ裁判所ニ提出サレ又ハ審
查令狀ヲ以テ此裁判所ニ移サレタル場合ニ於テノミ爲サレ能フモノ
ナリ是故ニ何レノ府又ハ郡ノ巡回裁判所ニ於テ重罪又ハ輕罪ノ事件
ニ拘ハラス告訴狀カ見出サレ而テ訊問カ爲サレタル場合ニ於テハ錯
誤ノ訊問アリシ時ノ外ハ新訊問ヲ得ルノ手術アヲサルナリクインス
ベシテ裁判所ハ巡回裁判所ニ於ル告訴狀及之ニ關スル手續ヲ斷定カ
證據及判事ノ指令ニ反シタルモノナリトノ理由ニ基キ證據ニ係ル判

事ノ報告ニ由テ新訊問ノ請願ヲ爲サンカ爲ニ斷定後ニシテ裁判前移
ス爲ノ審査令狀ヲ許與セサルヘシ然レモ特別ノ斷定カ巡回裁判所ニ
於テ下サレタリシ時ハクインスベシテ裁判所ニ於テ論議決裁セラル
、爲ニ審査令狀ヲ以テ移サル、トテ得ルカ如シ新訊問ノ請願ハ通例
訊問後ノ次回ノ裁判期ノ初ノ四日内ニ裁判所ニ爲サレサル可ラス然
レモ恩惠ニ依テ之ヨリ後ニモ亦爲サル、トテ得若シ不公直カ斷定ニ
由テ爲サレタリシ事カ裁判前何レノ時ニ於テ裁判所ニ顯著ナレハ其
裁判所ハ之ニ關涉シ而テ新訊問ヲ許與スヘシ然レモ請願ハ訊問後ノ
次回ノ裁判期ノ初ノ四日内ニ爲サレサル可ラス又ハ關係人カ之ヲ爲
スヲ企ル事ノ告知カ爲サレサル可ラサルハ今一定サレタルカ如シ(少
クモ告發書ノ場合ニ於テ)新訊問ノ請願ハ判事ノ訊問記ヲ以テ又ハ
誓言書ヲ以テ爲サル、ナリ判事ノ訊問記ハ民事々件ニ於ルカ如ク判

事ノ書記トシテ表明サル、モノナリ、若シナイサイ命令(前文ニ出ツ)カ許與
 サルレハ其命令ハ何レノ他ノ請願ニ由テノ如ク書記サレ而テ告訴代
 言人ニ對シテ執行サル、ナリ或ハ若シ是カ告訴人ノ請願ニ由テ新訊
 問ノ許與サレ能フ場合ナレハ被告代言人ニ對シ及訴訟カ訊問サレタ
 リシ巡回裁判區ノ陪席判事ニ對シ其判事カポステア(前文ニ出ツ)ヲ保存ス
 ヘキカ爲ニ執行サル、ナリ其後是カ新訊問簿ニ他ノ新訊問ト共ニ登
 記サレ而テ順序ヲ追フテ呼出サル、ナリ若シ請願カ誓言書ニ由テ爲
 サレタレハ其誓言書ハ呈出サレ而テ對手ノ一方ハ之ヲ寫取り而テ其
 謄書ニ相當官吏ノ証印ヲ受クルナリ、新訊問事件カ討論ノ爲ニ呼出サ
 レタル時ハ裁判ノ訊問記及誓言書カ朗讀サル、ナリ而テ訊問書ノ印
 刷セル謄本又ハ略書記者ノ畧記アリテ其正確ナル事ヲ双方ノ代言人
 ヨリ具申スル場合ニ於テハ判事ノ訊問記カ朗讀サル、間ニ便利ノ爲

メ報告書ノ謄本カ比照セラル、コヲ得各判事ニ謄本一個ツ、ヲ供ヘ
 ラレタリシ場合ノロトテ(各人)事件ヲ見ルヘシ其後裁判所ハ該命令
 ヲ費用ヲ以テ又ハ無シニ完全ノモノト爲スカ或ハ之ヲ解クナリ左ニ
 記載スルハ重罪ノ事件ニ於テ新訊問ノ爲ニ完全ナル命令ノ書式ナリ

六月二日月曜日、ヨルクシャーヤ郡

女帝ヨリ何某及何某ニ對ス(重罪ノ爲)

此告訴ニ於テヨルク郡ニ於テ及爲ニ開カレタル去ル春期巡回裁判
 期ニ於テ國帝ノ爲ニ得ラレタル有罪ノ斷定ハ廢棄サレ而テ新訊問
 カ得ラル、事カ双方ノ代言人ヲ審問シタル上命令サル、モノナリ

告訴ノ爲ニ

何某氏

被告人ノ爲ニ

何某氏

被告人ノ請求ニ依テ審査令狀ヲ以テクインスベンチ裁判所ニ移サレ

タル告訴狀ニ付テ新訊問カ命令サレタル場合ニ於テハ裁判所ハ其裁
 量ヲ以テ費用ハ新訊問ノ成果ヲ待ツヘキヲ命令スルヲ得
 命令カ完全ノモノト爲サレタリシ時ハ更ニ訊問ノ通知カ爲サレサル
 可ラス而テ延期(即チ訊問ノ延期ナリ)カ陪審官徵集令狀及財産差押令狀ノ裁定
 ニ由テ記録上ニ記入サレサル可ラス而テ訴訟ハ曾テ訊問アラサリシ
 カ如クニ前進ス左ニ記載スルハ四季裁判期ニ於テ重罪ノ事件ニ於テ
 錯誤ノ訊問アリタリシ場合ノ新陪審官徵集令狀ノ書式ナリ
 是故ニ新陪審官ヲシテ被告人又ハ其各カ之ニ對シテ告訴サレタル
 告訴狀中ノ説示部ニ付テ罪アル者ナル乎又ハ否ラサル乎ヲ訊問ス
 ル爲ニ該郡ニ於テ及爲ニチチエストルニ開カレヘキ次回ノ治安一
 般四季裁判期ノ判事ノ前ニ來ラシメヨ如何トナレハ我女帝陛下ノ
 爲ニ告訴スル何某并該被告人ハ自ラ陪審官ノ上ニ選ミタレハナリ

上文所陳ノチチエストルニ於テ云々ノ日ニ開カレタル其最後ニ記
 載サレタル一般四季裁判期ニ於テ云々ノ同日ニ於テ該郡ニ於テ治
 安ヲ保持シ且亦該郡内ニ犯サレタル種々ノ重罪等ヲ審問斷定スル
 ヲ委任サレタル我女帝陛下ノ判事何某ノ前ニ我女帝陛下ノ爲ニ告
 訴スル該何某並ニ被告人カ其適當ナル資格ヲ以テ來ル云々

第四節 刑事留置事件審理裁判所

何レノ巡回裁判所ニ於テ反逆罪又ハ重罪ノ訊問上被告人ニ於テ告訴
 狀又ハ證據ニ對シ何レノ故障カ爲サレ而テ判事ハ之ヲ尙一層熟議ス
 ルニ足レルモノト思量セシ場合ニ於テハ証明サレタル事實ニ付テ陪
 審官ノ意見ヲ聽キ而テ訊問ノ時上席セシ判事ヨリ陳述シタル事件ニ
 由テ總判事ノ熟議ノ爲ニ該故障ヲ留置スル手續カ久シク成立シタリ
 キ而テ若シ總判事又ハ其多數カ該故障ハ條理アルモノナリトノ意見

タリセハ其被告人ハ赦免ノ爲ニ國帝ニ保薦セラレタリキ斯ノ如キ刑
 事留置事件ノ判事ノ判決ハ報告書中ニ掲載セラル、ナリ斯ノ如キ留
 置事件ニ付テハ判事ハ假令ヘ其目前ニ於テ故障ヲ討論スル爲ニ代言
 人ヲ僱使スルヲ至當ト思量セシ時ハ毎ニ被告人ノ爲ニ代言人ヲ審問
 シ且其場合ニ於テ告訴ノ爲ノ代言人モ亦審問セリト雖モ精密ニ論ス
 レハ一法廷トシテ着席セズ寧ロ事件ヲ訊問セシ判事ノ輔翼判事トシ
 テ着席シタリキ而テ終ニ言渡サレタル裁判ハ法律上該判事（訊問セ）ノ
 裁判トシテ思量サレタリキ其裁判ノ基ク所ノ理由ハ總判事ヨリ公告
 サレサルナリ、四季裁判期裁判所ハ總判事ノ意見ヲ得ル爲ニ事件ヲ留
 置スル權ヲ有セサリキ斯ノ如キ事情ハ不便不法ト考量サレタルヲ以
 テ其救助法カゾ（キクトリヤ）女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第
 七十八章ヲ以テ設ラレタリ其第一條ニ制定シテ曰ク何レノ人カ何レ

ノ巡回裁判所又ハ四季裁判期裁判所ニ於テ何レノ反逆罪、重罪又ハ輕
 罪ニ付テ決罪サレタルヘキ時ハ其事件カ其前ニ於テ訊問サレタルヘ
 キ判事即チ委員又ハ治安判事（治安判事中ニ市區ノ裁判官（レユルダ）ヲ含有ス）ハ
 其裁量ヲ以テ裁判上發生シタルヘキ何レノ法律ノ問題ヲ各ベンチ裁
 判所（クインモンベンチ）ノ判事及エシスチエツカル裁判所ノ判事ノ熟議
 ニ附スル爲メ留置スルヲ得而テ之ニ由テ其至當ト思フ所ニ隨テ斯
 ノ如キ決罪上ノ裁判ノ執行ヲ猶豫シ或ハ斯ノ如キ問題カ熟議サレ而
 テ裁決サレタルヘキニ至ルマテ裁判ヲ延期スル權ヲ有スヘシ而テ各
 ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其裁量ヲ以テ決罪サレタル人ヲ監獄ニ収監
 スヘシ或ハ裁判所カ指令スヘキ時ニ出廷シ而テ裁判ヲ受ケ又ハ執行
 ヲ受ク（場合ニ隨テ）ヘキ條件ヲ以テ一名又ハ以上ノ保証人ト共ニ裁判
 所カ至當ト思量スル如キ金額ヲ以テ保釋ノ承諾書ヲ取ルヘシト

其第二條ニ制定シテ曰ク判事委員又ハ四季裁判期裁判所ハ之ニ由テ
 今通例ノ方法ヲ以テ記サレタル事件ニ於テ斯ク留置サレタルヘキ法
 律ノ問題ヲ其問題ノ發生シタルヘキ特別ノ狀況ト共ニ陳述スヘシ而
 テ斯ノ如キ事件ハ該判事及判事（ベ）ニ送達セラレ
 ンテ之ニ由テ該問題ヲ審問シ而テ最終ノ裁判
 ヲ爲シ而テ之ニ由テ斯ノ如キ問題ノ發生シタリシ訊問ニ係ル告訴狀
 又ハ告發書ニ對シテ下サレタルヘキ何レノ裁判ヲ翻覆シ又ハ確定シ
 又ハ修正シ或ハ斯ノ如キ裁判ヲ廢棄シ而テ該判事及判事（全）ノ裁判ニ
 於テハ既ニ決罪サレタル被告人ハ決罪サレ可ヲサリシトノ事ヲ記録
 ニ記入スヘキヲ命令シ或ハ裁判ヲ停止シ又ハ指令サレタルヘキカ如
 キ裁判ヲ他ノ巡回裁判期又ハ治安裁判期ニ於テ若シ何レノ裁判カ之
 ヨリ前ニ下サレサリセハ下サレヘキヲ命令シ又ハ判事ノ要スヘキガ

如キ他ノ命令ヲ爲スヘキ完全ナル權及許可ヲ有スヘシ而テ該判事及
 判事ノ斯ノ如キ裁判及命令ハ（若シア）判事長又ハ判事長（ベ）ノ裁
 決所（エ）ノ署名ヲ以テ巡回裁判所ノ書記又ハ場合ニ依リ其代理
 人ニ向テ保証セラルヘシ其書記又ハ代理人ハ之ヲ正當ノ書式ヲ以テ
 原記録ニ記入スヘシ而テ斯ノ如キ記入ノ證書カ巡回裁判所ノ書記又
 ハ其代理人或ハ場合ニ依テ治安書記又ハ其代理人ノ署名ヲ以テ此條
 例法ノ附録中ニ記載サレタル書式ト可成的相近キ及其効力アル書式
 ニシテ此證書ヲシテ事件ノ狀況ニ適當セシムル爲ニ緊要ナル變更ヲ
 以テ該書記又ハ代理人ヨリ該決罪サレタル人ヲ監守スル郡長又ハ典
 獄ニ交付サレ又ハ送達セラルヘシ而テ此證書ハ該郡長又ハ典獄又ハ
 總テ他ノ人ニ向テ裁判カスク確定サレ又ハ修正サレタリト証セラル
 ヘキニ從テ裁判ノ執行ノ爲ノ効力アル證書タルヘシ而テ執行カ之ニ

由テ該裁判ヲ以テ爲サルヘシ而テ若シ裁判カ翻覆サレ廢棄サレ又ハ
停止サルヘケレハ決罪サレタル人ヲ此上ノ收監ヨリ放免ノ爲ノ効力
アル証書タルヘシ而テ此場合ニ於テハ該郡長又ハ典獄ハ即時之ヲ放
免スヘシ且亦次回ノ巡回裁判所又ハ治安裁判期裁判所ハ保釋ノ承諾
書ヲ(若シアラハ)廢滅スヘシ而テ若シ治安裁判期裁判所カ裁判ヲ下ス
ヲ指令サルヘケレハ該裁判所ハ次回ノ裁判期ニ於テ裁判ヲ下ス
着手スヘシ

前文ニ記載サレタル証書ノ書式ハ左ノ如シ

何々所ニ於テ開カレタル何々郡ノ爲ノ治安裁判期ニ於テ何某及其
同僚ナル他ノ人ノ前ニ(或ハ何々所ニ於テ何々郡ノ爲ニ開カレタル
巡回裁判期ニ於テ)就中何々裁判所ノ判事ノ一人ナルスル何某ナ
ト(名)及何某此所ニ巡回判事ナル定員ノ委員ノ姓名ヲ掲クノ前ニ何

某カ重罪ノ罪アル者ト見出サレ而テ之ニ由テ云々(實質ヲ陳述ス)ノ
裁判カ下サレタルヲ以テ該何某カ其前ニ訊問サレタリシ裁判所ハ
或ル法律ノ問題ヲ各ヘンテ裁判所ノ判事及エクスエツカル裁判
所ノ判事ノ熟議ニ附スル爲ニ留置セリ而テ之ニ由テ執行ハ其間猶
豫サレタリシカ故ニ

是ハ該判事及判事カ何月何日ウエストミンストル(又ハ場合ニ依リ
テダブリン府)ニ於ルエクスエツカル、テエムバル(即チ上訴裁)ニ於
テ集會シタルヲ以テ該判事及判事ニ於テ上文所陳ノ裁判カ廢棄サ
レサル可ラス而テ該何某ハ該判事及判事ノ裁判ニ於テハ上文所陳
ノ重罪ニ付テ決罪セラレタル可ラストノ事カ熟議サレタリ而テ是
故ニ汝ハ即時汝ノ監守ヨリ該何某ヲ放免スヘキヲ之ニ依テ要セラ
レタル事ヲ証スルニアリ

何々ノ典獄及何々ノ郡長及之ニ關係アル總テ他ノ人ニマテ

何々郡ノ治安書記(場合ニ依リ何々ノ巡回裁判所書記)

何某署名捺印)

其第三條ニ制定シテ曰ク此條例法ニ依テ各ベンチ裁判所ノ判事及エ
クステエツカル裁判所ノ判事ニ附與サレタル管轄權及許可ハエクス
チエツカル、チエムバル(前文ニ)又ハ他ノ便利ノ場所ニ於テ集會シタル
該判事又ハ判事或ハ少クモ其五名ニ於テ行ハルヘシ及行ハル、コテ
得而テクインスペンチ裁判所判事長、コムモンプリース裁判所判事長
及エクスチエツカル裁判所判事長或ハ該判事長ノ少クモ一名カ該判
事及判事又ハ其五名ノ一部分タルヘシ而テ該判事及判事ノ裁判ハ告
訴人又ハ被告人カ訴訟ノ討論サレサル可ラサルコト至當ト思料スヘ
キ場合ニ於テハ双方(被告訴)ノ代言人ヲ審問スル後ウエストミンストル又

ハ場合ニ依リダブリン府ニ於ル上等習慣法裁判所ニ於テ裁判カ今言
渡サル、ト同様ニ公開セル法廷ニ於テ言渡サルヘシト
其第四條ニ制定シテ曰ク事件カ其意見ニ附スル爲ニ留置サレタル場
合ニ於テ該判事及判事ハ若シ至當ト思料セハ事件又ハ証書ヲ修正ノ
爲ニ還付セシムル權ヲ有スヘシ而テ之ニ由テ是カ隨テ修正セラルヘ
シ而テ是カ修正サレタルヘキ後ニ裁判カ下サルヘシ、事件ハ不完全ニ
其陳述サレタル事カ裁判所ニ顯著ナル場合ノミノ外ハ只代言人ノ請
願ノミニニ依テ送付サレサルヘシト而テ其第六條ヲ以テ何レノ人ヲシ
テ監守ヨリ放免サレシムル爲メ及別ニ正當ナル裁判ノ手續ヲ妨碍ス
ル爲ノ企ヲ以テ前條ニ記載サレタル書類ノ何レノ偽造又ハ偽述ハ十
年ニ超過セサル何レノ期限ノ徒刑又ハ三年ニ超過セサル何レノ期限
ノ苦役及獨囚(ソリタリー・コンファインメント)アル又ハナキ禁獄ヲ以テ罰セラレヘキ重罪ナリト布告

サレタリ

此條例法ニ從テ判事ハ證據ヨリ發生シタル法律ノ問題ノミナラス尙亦裁判停止ニ於テ又ハ告訴狀ノ有効無効ニ付テ起ル法律ノ問題ヲ留置スル許可ヲ有シ而テ裁判所ハ之ヲ受理スル許可ヲ有ス然レモ止訴答辨上起ル問題ニ付テハ許可ヲ有セサルナリ如何トナレハ此裁判所ハ審問シ而テ終審ノ判決ヲ爲ス權アルヲ以テ止訴答辨ノ問題ヲ受理スルハクインズベンチ裁判所ノ判決ヲエクスチエツカルチエムハルニ於テ及終ニ國會ニ於テ再審スヘキ被告人ノ權利ヲ奪フ可ケレハナリ事件ヲ訊問セシ陪審員ノ一人カ呼上ラレタル時過テ名列書上ノ他ノ陪審員ノ姓名ニ應答シ而テ妨ケナク斯ク陪審官ヲ勤メタリシ事カ被告人ノ重罪ノ爲ニ決罪ノ翌日ニ至テ發見サレ之ニ由テ錯誤ノ訊問アリタリシ事カ告知サレタリシ場合ニ於テ是ハ第一條中ノ訊問上起

リシ法律ノ問題ニアラスト判事ノ多數ニ於テ認メラレタリキ而テ是故ニ刑事留置事件審理裁判所ハ斷定及裁判ヲ廢棄シ又ハ新陪審官徵集令狀ヲ裁定スル管轄權ヲ有セサリキ而テ此裁判所ハ何レノ場合ニ於テモ新陪審官徵集令狀ヲ裁定シ又ハ新訊問ヲ命令スル許可ヲ有セサルカ如シ又此裁判所ハ事件カ共犯人ノ不確定ノ證據ヲ以テ適當ニ陪審官ニ委任サレタリシヤ否ヤニ係ル眞ノ手續ノ問題ヲ受理シ能ハサルナリ、代言人ハ事件ヲ討論スルニ裁判所ニ向テ陳述サレタル事件上顯著ナルカ如キ事實ノミチ自ラ論セサル可ラス、被告代言人ハ訴訟ヲ開始シ而テ返答ノ權ヲ有ス然レモ裁判所ハ被告代言人又ハ告訴代言人ヲ假令ヘ他ノ一方ニ於テ代言人出廷セスト雖モ審問スヘシ代言人カ出廷セサル場合ニ於テハ上席シタル判事長又ハ判事長ハ事件ヲ朗讀ス而テ後裁判カ他ノ事件ニ於ルカ如ク言渡サル、ナリ

告訴狀カ修正ナシシテハ不正ノモノタル時ノ修正カ訊問上斷定ノ後不當ニ加ヘラレタリシ場合ニ於テハ此裁判所ハ記録ヲ其原來ノ有様ニ戻スヘキヲ命令シ而テ無罪ノ斷定ヲ記入スヘキヲ命令シタリキ事件ノ準備及討論ニ關スル裁判所ノ命令——千八百五十年六月一日ニ於テ總テノ判事ノ署名セシ裁判所規則ヲ以テ左ノ事項カ命令サレタリ即チ

此裁判所ノ熟議ニ附スル爲ニ何レノ事件カ巡回裁判所又ハ四季裁判所期裁判所ヨリ送達サレヘキ時ハ法律ノ問題ヲ留置シタル判事又ハ委員又ハ治安裁判期ノ判事長ニ於テ署名サレタル原事件書及其副本十七通(各判事ニ一通ツ、及各一方ニ一通ツ、ノ爲ニ)カ此裁判所ノ開廳ノ爲メ定メラレタル日ノ少クモ四日前ニウエストミンストルノエクスチエツカル、チエムバルニ於ル此裁判所ノ書記ニ交付サレヘキ事

此裁判所ノ熟議ノ爲ニ送達サレタル各事件ハ留置サレタル法律ノ問題及熟議ニ附セラレタル問題ヲ起ス如キ事實ノミヲ簡單ニ陳述スヘシ若シ問題カ告訴狀又ハ其何レノ告示ニ係ラハ然ル時ハ事件ハ告訴狀又ハ特別ノ告示ヲ記載セサル可ラサル事

事件ハ辨論ニ對スル何レノ止訴答辨ニ付テハ審問サレサル事
各事件ハ決罪ノ上裁判カ下サレシ乎又ハ延期サレシ乎或ハ裁判ノ執行カ猶豫サレシ乎又ハ否ラサリシ乎及決罪サレタル人ハ監獄内ニ在ル乎又ハ出廷シ而テ裁判ヲ受クル爲メ又ハ自ラ執行ヲ受クル爲メ保釋ノ承諾ヲ以テ放釋サレタリシ乎又ハ否ラサリシ乎ヲ陳述スヘキ事
何レノ事件カ代言人ニ於テ又ハ訴訟關係人ニ於テ討論サレヘク企テレタル時ハ其事ノ告知書カ此裁判所ノ開廳ノ少クモ二日以前ニ此裁判所ノ書記ニ送致サレヘキ事

此裁判所ノ判事ニ交付サレタル各事件(該判事ニ於テ留置サレヘキカ
 如キ事件ヲ除キ)ヲ以テ該判事ノ書記ニ拂ハレヘキ謝金ハグイクトリ
 ヤ女帝即位第一年ノ條例法第三十章ニ從ヒ判事ニ於テ許可サレ及承
 認サレタル謝金表中ニ包含サレタル如キ止訴答辨書其他ノ事件書ニ
 付テ拂フヘキ謝金ニ超過セサルヘキ事

討論ノ費用——第四世ジョーシ帝即位第七年ノ條例法第六十四章第
 二十二條ニ從ヒ此裁判所ノ熟議ノ爲ニ法律ノ問題ヲ留置スル判事ハ
 告訴人ニ於テ討論ノ費用ヲ拂フヘキノ命令ヲ爲ス權ヲ有ス

此裁判所ハ假令ヘ費用ニ關シテハ判事カ訊問上正當ニ行ヒ得タリシ
 ト同一ノ權ヲ有スヘキ事カ明白ニ留置事件ヲ以テ約定サレタリト雖
 其管轄權内ニアラサル費用ノ問題ヲ受理セサルヘシ且此裁判所ニハ
 収税官吏アラサルカ故ニ此裁判所ニ於ル手續ノ費用ハ精密ニ論スレ

ハ下等裁判所ニ於テ徴収サレサル可ラサルナリ

第五節 誤審令狀

誤審令狀リット、オフ、エルロルノ解釋及場合——誤審令狀ハチヤンセリイ裁判所ノ習慣法
 部又ハベチー、バグ局(檢事又ハ裁判所ノ官吏ニ對スル訴訟等ヲ取扱フ局(チヤンセ
 所)ニ對シテ)ヨリ發スル原令狀ニシテ下等裁判所ノ判事ニ向テ裁判ノ言
 渡サレタル而テ錯誤アリト辨セラレタル告訴狀、審問書又ハ告發書ヲ
 審査スルヲ許可サレタル裁判所ニ此等ヲ送付スヘキヲ要スルモノナ
 リ且該令狀ハ女帝ヨリ上等裁判所ノ判事ニ下サレタル委任ノ性質ヲ
 有ス此委任ニ由テ其判事ハ下等裁判所ニ於テ裁判ノ下サレシ記録ヲ
 檢査スルヲ許可サレ而テ斯ノ如キ檢査及指示サレタル錯誤ノ熟議ノ
 上法律ニ從テ裁判ヲ確定シ又ハ翻覆スルヲ許可セラル、ナリ

誤審令狀ハ記録面ニ顯ハレタル各ノ實質上ノ缺乏ニシテ之カ爲ニ告

訴狀カ廢滅セラレ得タリシモノ又ハ止訴答辨又ハ裁判停止ノ爲ニ有
 害タルヘカリシモノニ對スルナリ、第四世シヨリ帝即位第七年ノ條
 例法第六十四章第二十條第二十一條頒布前ハ誤審令狀カ屢々些細ノ
 且眞ニ書式ノ錯誤ノ爲ニ提出サレタリキ然ルニ該條例法ハ種々ノ術
 語上ノ缺乏ハ斷定ヲ以テ補ハレサル可ラストノ事ヲ定メタリ現今ハ
 少キトリヤ女帝即位第十四年及第十五年ノ條例法第百章第二十五
 條ニ依テ告訴狀面ニ顯著ナル何レノ書式上ノ缺乏ニ對スル各故障ハ
 陪審官ノ宣誓シタル前ニ爲サルヘシ而テ其後ニ爲サル可ラス而テ裁
 判所ハ即時之ヲ修正サレヘキヲ命令スルヲ得然レモ法律ノ問題カ
 刑事留置事件裁判所ノ判事ノ爲ニ留置サレサリシ場合ニ於テ告訴狀
 中實質ニ於ル何レノ缺乏、陪審官令狀ヲ斷定スルニ於ル不正、冒頭文
 告_訴狀_ノ中何レノ緊切ナル缺乏、斷定又ハ裁判ニ於ル不正、又ハ記録面上ノ

何レノ著明ナル錯誤ノ爲ニハ誤審令狀カ適當ナル救助法ナリ而テ若
 シ法律ノ問題カ止訴答辨ニ由テ起サレタレハ只誤審令狀ノ一救助法
 アル而已如何トナレハ斯ノ如キ場合ニ於テハ刑事留置事件裁判所ハ
 管轄權ヲ有セサレハナリ

故ニ若シ裁判カ下サレタリシ偽誓罪ノ告訴狀中偽誓罪カ指示サレタ
 ル宣誓ハ裁判上ノ手續ニ於テ爲サレタリトハ見ヘヌ或ハ裁判所カ宣
 誓ヲ施行スヘキ適當ノ權ヲ有セシ事カ見ヘヌ或ハ被告人カ偽テ宣誓
 セシ事カ見ヘサレハ誤審令狀カ提出サル、ヲ得若シ告訴狀カ譏謗
 ノ言語ニ對シテ呈セラレ而テ其言語ハ告訴スヘキモノコラス而ル
 ニ裁判カ之ニ對シテ下サレタル時モ亦同シ詐欺ヲ以テ金ヲ得タルヲ
 以テ被告人ヲ告訴シ而テ如何ナル詐欺術ナリシ乎ヲ示サ、ル告訴狀
 ハ無効ナリ而テ斯ノ如キ缺乏ハ裁判ヲ翻覆スル爲ノ理由タルヘシ若

シ斯ノ如キ告訴狀カ詐欺ノ手術ヲ以テ得ラレタル金員又ハ物品ハ何人ノモノナリシ乎ヲ示サ、ル時モ亦同シ若シ夜盜罪ノ告訴狀中ニ被告人カ損害罪又ハ輕罪ヲ犯シ而テ重罪ヲ犯サ、ル意ヲ以テ住居家屋ヲ破リ而テ之ニ入リシ事カ顯ハレタリセハ錯誤アルヘシ又家資分散人ニ於テ十磅又ハ以上ノ價額ノ押領罪(ゾ)トリヤ女帝即位第十二年及第十三年ノ條例法第百六章第二百五十一條ニ於ルカ如ク價額カ罪ノ成分タル場合ニ於テ價額ノ記載ノ脫漏ハ告訴狀ヲ錯誤ニ付不正ノモノトナスヘシ之ト同シク土地ノ記載カ緊要タル場合ニ於テ其脫漏ハ有害タルヘシ(ゾ)トリヤ女帝即位第十四年及十五年ノ條例法第百章第二十三條ヲ見ルヘシ即チ道路ノ妨害、不體裁ノ家ヲ保持スル事、放火、夜盜、家屋内ニ闖入、住居家屋内ノ竊盜、獵鳥獸ヲ殺ス目的ヲ以テ夜間武器ヲ携帯シテ其地ニ在ル事、及ゾ(ゾ)トリヤ女帝即位第十四

年及第十五年ノ條例法第十九章第八條中ノ罪等ニ於ルカ如シ「夜盜罪ニ於ルカ如ク時カ罪ノ成分タル場合ニ於テモ亦全シ、商人ノ物品及資産ノ多量ヲ騙取セントスル陰謀ヲ告訴スル告訴狀ハ錯誤ニ付テ無効トナサレタリ如何トナレハ欺カレントシタル人ノ姓名等級ヲ記載セサルヲ以テナリ被告人カ陪審員ヲ理由ヲ示サスシテ忌避シ而テ國帝ハ之ニ對シテ止訴答辨シ而テ訊問カ被告人ノ理由ヲ示サ、ル忌避ノ權利ニ反シテ爲サレタル裁判所ニ於テ裁判カ不正ニ下サレタル場合ニ於テハ誤審裁判所ハ全手續ヲ翻覆スヘシ然レモ誤審令狀ヲ設ル爲ニハ法律又ハ事實ニ於テ聯結シタル爭論點ニ付テ相當ノ裁判ナキヲ得サルカ如シ而テ國帝ヨリ忌避サレタル陪審員ハ傍ニ立ツヘシトノ裁判所ヨリノ命令ノミニテハ假令是カ不正ナリト雖モ錯誤ノ理由ニアラサルナリ全体ノ陪審官ニ對スル忌避カ不當ニ棄却サレタル場合

モ亦錯誤ナリ若シ陪審官ノ斷定カ陪審員一名ノ不在中ニ回報サレタリセハ是ハ錯誤タルヘシ陪審員カ善良正當ノ人ナリシ事カ記録上ニ顯ハレサル場合モ亦同シ然レモ記録カ郡ノ善良正當ナル人ノ陪審官ヲ徵集シ而テ回報スルヲ郡長ニ要セシ陪審官徵集令狀ノ裁定ヲ記載シ而テ後進シテ郡長カ上文ノ目的ノ爲ニ指名サレタル或ル人ヲ徵集シ而テ回報シ而テ之ヲ一名列書中ニ組織セシヲ陳述セシ場合ニ於テハ正當ノ解意ニ由テ該記録ハ名列書中ニ指名サレタル人ハ郡ノ善良正當ナル人ナリシヲ示セシ事カ認メラレタリキ、錯誤ハ亦裁判カ被告人ニ下サレシ場合ニ於テハ特別ノ斷定ニ付テ指示セラル、トテ得且アルロキユーチユス即チ何故ニ裁判カ被告人ニ對シテ下サレ可ラサル乎ニ付テ何チ被告人ハ云フ乎ヲ被告人ニ請求スル事ノ脱漏ニ付テ指示セラル、トテ得若シ裁判所ニ出席セサル被告人ニ對シテ死

刑ノ言渡カ爲サレタル時モ亦同シ若シ一般ノ裁判カ數個ノ告示ヲ含有スル告訴狀ノ全体ニ對シテ下サレ而テ其告示ノ何レノ一告示カ實質上不正ナレハ裁判ハ錯誤ニ付テ翻覆セラルヘシ若シ治安判事ニ於テ受理スヘカラサル罪ニ對シ四季裁判期ニ告訴狀カ提出サレ而テ其被告人カ決罪サレ而テ裁判カ下サレタレハ手續ハ錯誤ニ付テ翻覆セラルヘシ即チ管轄權カ治安裁判所ニ附與サレサル場合ニ於テ刑事條例法上ノ告訴狀又ハ全ク無効タルヘキ偽誓罪ノ告訴狀又ハ偽造罪ノ告訴狀又ハウヰクトリヤ女帝即位第五年及第六年ノ條例法第三十八章第一條ノ例外中ニアラサル陰謀ノ告訴狀ノ如シ、誤審令狀ハ亦法外刑ヲ翻覆スルニアリ然レモ審式決罪ニ對シテハアラサルナリ誤審令狀ハ只習慣法ノ手續ニ從テ職務ヲ行フ記録裁判所ノ裁判上ニ存スル而已

檢事長ノ命令——アン女帝ノ治世ニ至ルマテハ誤審令狀ハ國帝ノ法
 官カ錯誤ノ理由アリト保證スル上ハ何レノ刑事々件ニ於ルモ只國帝
 ノ恩惠ニ依テノミ許與サレヘキモノタリキ然ルニ千七百四年中パツ
 テー(名)ノ事件ニ於テ判事十名ハ其意見ヲ陳述シテ總テ反逆及重罪ノ
 事件ニ於テハ誤審令狀ハ管ニ恩惠ニ依テ許與サル、ノミナラス尙亦
 法律上ノ權利ニ由テ許與サレサル可ラスト云ヘリ蓋シ其意ノ存スル
 所ハ該令狀ハ當然ノモノニアラスト雖モ錯誤ノ或ハアルヘキ場合ニ
 於テハ之ヲ許與スルヲ拒ム可ラスト云フコアリ然レモ法律上精密ニ
 論スレハ反逆又ハ重罪ノ事件ニ於テ該令狀カ許與サレヘキヤ又ハ拒
 マルヘキヤハ完ク國帝ノ胸中ニ今尙存スルナリ輕罪ノ事件ニ於テモ
 亦該令狀ハ當然ノモノトシテ發セス但シ檢事長ノ命令ニ由テ發スル
 モノナリト雖モ此等ノ事件ニ於テ錯誤ノ或ハアルヘキ理由ノ示サレ

タル時ハ毎ニ檢事長ハ命令ヲ許與セサル可ラスト而テ假令ヘ檢事長ハ
 拒ムト雖モクインスバンヲ裁判所ハ之ヲ許與スヘキヲ檢事長ニ命令
 スヘシト云ハレタリ然レモ是ハ誤解ニシテ檢事長カ其裁量ヲ以テ之
 ヲ拒ミシ後ハ該裁判所ハ關涉ス可ラスト近來ハ認定サレタリ是故ニ
 重罪又ハ輕罪ノ事件ニ於テ誤審令狀ヲ請願シテ得ンヲ企ル場合ニ
 於テハ第一ノ手段ハ檢事長ニ其命令ヲ請願スルコアリ此目的ノ爲ニ
 ハ若シ錯誤カ實際辨セラルレハ被告人ノ代言人ノ署名セシ保證書ニ
 誓言書ヲ添ヘテ檢事長ニ呈セサル可ラスト

誤審令狀カ發セラレ能フ以前ニ檢事長ノ命令書ト共ニプレーシ(令)
ノ詳細ノ事ノ記載サカベナリ、バグ局ニ出サレサル可ラスト、左ニ記載ス
レタル紙片ヲ云フルハ該局ノ綴込書中ニ見出サレタル書式(事長ノ命令書並檢)ナリ
 ミツドルセクス郡——甲何某及乙何某ノ告訴サレタル或ル輕罪ノ

爲ニ該被告人ニ對シ丙何某ノ告訴ニ付テ女帝ノ間ニ審査令狀ヲ以テクインスベシテ裁判所ニ移サレタル中央刑事裁判所ニ於ル告訴狀ニ付テノ誤審令狀、來年一月十一日ニエクスチエツカル、チエムハルニ於テ回報スヘキモノナリ

此令狀ヲシテ發セシメヨ

ダブリユー、アサートン(長檢事)

テムプルニ於テ千八百六十一年十一月二十六日

被告人ノ爲ニ

何某及何某(代言人)

(住所何々)

千八百六十一年十月二十八日

クインスベシテ裁判所ニ於テ

女帝ヨリ何某ニ對ス

ミツドルセクス郡——ウエストミンストル裁判期ニ於テ輕罪ノ爲ノ告訴狀及決罪及裁判ニ付テ現今コールドハスフヒールヅニ於ル矯正院ニアル囚人何某ノ爲ノ千八百六十一年一月十二日ニ回報サレヘキ誤審令狀、何處ヲ論セス云々

此令狀ヲシテ發セシメヨ

ダブリユー、アサートン

テムプルニ於テ千八百六十一年十一月十二日

何某代言人

何某

テムプル、デヴエローコート

千八百六十一年十一月十一日

クインズベント裁判所、偽誓罪ノ爲ノ告訴狀ニ付テ女帝ノ起訴ニ於ル何某ノ爲ノ四月十五日ニエクスチエツカル、サエムバル、ニ於テ回報サレヘキ誤審令狀

何某(代言)

(住所并月日)

女帝ヨリ何某ニ對ス(法律上ノ錯誤ヲ指定スル爲ニクインズベント裁判所ヨリエクスチエツカル、チエムバル)該被告人ノ爲ニ誤審令狀ヲ發セシメヨ

ダブリユー、アサートン

千八百六十一年十二月二十四日

ウオアウヰツクシーヤ郡——ウオアウヰツク郡内ニ犯サレタル種々ノ重罪、損害罪及輕罪ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル我國君女帝陛下ノ治安ノ保持者及判事ニ向ケ何某カ該郡ノコーヴエントレニ於テノ延期ニ由テ一千八百六十一年十月何日何々所ニ於テ開カレタル該郡ニ於ル及爲ノ治安裁判期ニ於テ告訴サレ而テ陳述サレタル如クニ該郡ノ陪審官ニ依テ決罪サレ而テ之ニ由テ徒刑ノ裁判カ該何某ニ對シテ下サレタリシ或ル重罪ノ爲ニ該何某ニ對スル或ル告訴狀ニ付テクインズベント裁判所ニ於テ回報サレヘキ誤審令狀ヲシテ發セシメヨ、此千八百六十一年十一月十八日

此令狀ヲシテ發セシメヨ

ダブリユー、アサートン

テムプルニ於テ千八百六十一年十一月十八日

プレーシプ及命令ハ時トシテ羊皮ニ書記スルト雖モ尋常ノ紙ニ事記
スルハ尙屢々ナリ

訴訟關係人ヲシテ告訴ノ私和ヲ成就シ得サシメンカ爲ニ共謀シテク
インスベノテ裁判所ノ裁判ニ對シテ誤審令狀カ請願シテ得ラレシ場
合ニ於テハ該裁判所ハザキクトリヤ女帝即位第十二年及第十三年ノ
條例法第百九章第三十九條中ニ含有サレタル權ニ從ヒ該令狀ヲ棄却
ス而テ之ニ付テユクスエツカル裁判所ハ錯誤ノ原告人ニ於テ署名
サレタリシクインスベノテ裁判所ノ裁判ヲ判事ノ命令ヲ以テ錯誤ノ
被告人ノ抗辨ノ缺乏ノ爲ニ棄却ス
誤審令狀ヲ發スル事及誤審令狀ノ書式——プレーシプ及檢事長ノ命
令書ノ提出ノ上ハ代言人ニ於テ羊皮ニ書記シ(ザキクトリヤ女帝即位

第十二年及第十三年ノ條例法第百九章第三十八條)ニテ記載スルハ四季
印紙ヲ貼附セサルヘカテサル誤審令狀ハペチーハグ局ノ官吏ヨリ發
セラレ、ナリ其官吏ノ謝金ハ十シルリノグナリ、左ニ記載スルハ四季
裁判期ノ判事ニ向ケラレタル誤審令狀ノ書式ナリ

上帝ノ恩惠ニ因テ大貌列顛及愛蘭合衆帝國ノ女帝コシテ宗教ノ保
護者ナルザキクトリヤハウオアウヰツク郡内ニ犯サレタル種々ノ
重罪、損害罪及他ノ輕罪ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル我治安ノ保
持者及判事及其各ニ宣ス、如何トナレハ延期ニ由テコーザエント
レニ於テ水曜日即チ我治世ノ第何年ノ一月何日ニ開カレタル該
郡ニ於ル及爲ノ治安裁判期ニ於テ甲何某ニ對シテ當時該郡内ノ治
安ヲ保持シ且亦該郡内ニ犯サレタル種々ノ重罪、損害罪及他ノ輕罪
ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル我判事ナル何某エスクハイヤ及書

記レザルソド何某及其同僚ナル他ノ人ノ前ニ於テ上文所陳ノコト
 ヲエントレノ監獄内ニアル四人ナル乙何某ノ斯ノ如キ場合ノ爲
 ニ夫々爲サレ及設ケラレタル條例法ノ制定ニ反シテ該監獄ヨリ逃
 走セント企テ及企テントスルヲ加功幫助シ爲ニ上文所陳ノ我判事
 ナル該何某エヌクハイヤ及書記レザルソド何某ノ前ニ告訴サレ而
 テ之ニ由テ陳述サレタル如ク予輩及該甲某ノ間ニ設ラレタル郡ノ
 或ル陪審官ニ依テ決罪サレタリシ或ル重罪ノ爲ニ提出サレタル或
 ル犯罪報告狀ニ於ル記錄及手續ニ於テ且亦裁判ノ言渡ニ於テ著明
 ナル錯誤カ該甲某ノ詞訟ニ由テ予輩カ告知セラレタルカ如ク該甲
 某ノ大損害ニマテ出來シタルカ故ニ予輩ハ錯誤(若シ錯誤アラハ)カ
 正當ノ方法ヲ以テ正サレ而テ完全ナル且迅速ナル裁判カ該甲何某
 ニ爲サレサル可ラサルヲ欲スルヲ以テ予輩ハ汝ニ命令ス若シ裁判

カ下サレタレハ然ル時ハ汝ハ予輩カ上文所陳ノ記錄及手續ヲ檢査
 シテ之ニ付テ尙此上其錯誤ヲ正スカ爲ニ正當ニ且我英國ノ法律及
 慣習ニ從テ爲サレサル可ラサル事ヲ爲サシムルヲ得ルガ爲メ來ル
 四月十五日ニ於テ予輩ノ前ニ其時予輩ハ英國内ノ何レノ所ニアル
 ヘキニ拘ハラヌ上文所陳ノ記錄及手續ヲ有スルヲ得ルガ爲ニ該
 記錄及手續ヲ之ニ關係スル總テノ物ト此令狀トヲ添ヘ汝ノ捺印ヲ
 以テ又ハ汝ノ一人ノ捺印ヲ以テ明白ニ及公ニ予輩ニ送致スル事ヲ
 我治世ノ第二十五年ノ十月二十九日ウエストミンストルニ於テ
 予輩自ラ證ス

ロミリー

アボット

我女帝陛下ノ檢事長

スル、ウヰリヤム、アサートン、ナイトニ依テ

若シ辨セラレタル錯誤カ何レノ府又ハ市區ノ四季裁判期ニ於ル告訴
狀上ニアラハ誤審令狀ハ左ノ如ク宛ラレサル可ラス

何々ヰヰクトリヤ云々——我リ一ツ市區内ニ云々(前ノ書式ニ於ル
カ如ク)審問斷定スルヲ委任サレタル我判事ナルヨルク郡内ノ該リ
一ツ市區ノ判事何某ニ宣ス

若シ巡回裁判期ニ於ル告訴狀ニ付テノ時ハ該令狀ハ左ノ如ク宛ラ
ル、ナリ

我何々郡ノ監獄内ニアル囚人ヲ處分シ且亦同郡内ニ犯サレタル總
テノ重罪、損害罪及他ノ惡事ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル該郡ノ
爲ノ我巡回判事ニ宣ス

而テ錯誤カ中央刑事裁判所ニ於テ訊問サレタル告訴狀上ノ手續ニ於

テ起リタル場合ニ於テハ該令狀ハ左ノ如ク宛ラル、ヲテ得

我中央刑事裁判所ノ管轄内ニ犯サレタル種々ノ反逆、謀殺、重罪及輕
罪ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル我判事及其各ニ宣ス云々

下等裁判所ノ裁判カクインスベシテ裁判所ニ於テ確定サレタル何レ
ノ郡ノ爲ノ巡回裁判期ニ於テ訊問サレタル告訴狀ニ付テ第四世ウヰ
リヤム帝即位第一年ノ條例法第七十章第八條ニ從テモクステエツカ
ル、チエムバルニ錯誤カ提出サレタル時ハ誤審令狀ハクインスベシテ
裁判所ノ判事長ニ宛ラル、ナリ其令狀ニハ被告人カ詳記サレタル或
ル罪ノ告訴狀ニ付テ或ル巡回判事ノ前ニ陪審官ニ依テ決罪サレタリ
シ事及辨セラレタル錯誤ノ理由ヲ以テ手續カ誤審令狀ニ由テクイン
スベシテ裁判所ニ移サレ其裁判所ニ於テ裁判カ確定サレシ事ヲ陳述
シ而テ後上文ノ如クニ記ス、錯誤カクインスベシテ裁判所ニ於テ訊問

サレタル告訴狀上ニ指定サレヘキ時ハ該令狀ハ殆ント同一ノ書式タルヘシ、或ル書式ニハ第四世ウヰリヤム帝即位第一年ノ條例法第七十章ナル裁判ノ尙一層有効ノ執行條例中ノクインズベント裁判所ヨリノ錯誤ニ關スル條カ陳述サレタリ然レモ是ハ緊要ニアラサルカ如シ左ニ記載スルハクインズベント裁判所ニ於テ法外刑ニ付テノ誤審令狀ノ書式ナリ

上帝ノ恩惠ニ由テ大貌列顛及愛蘭合衆帝國ノ女帝ニシテ宗教ノ保護者ナルゾヰクトリヤハ予輩ノ前ニ答辨ヲ開クヲ命セラレタル我判事ニ宣ス、何々ト稱セラレタル或ル讒謗書即チ著述書ヲ出版シ而テ發行シタル爲ニ何某ニ對シテ而テ之ニ由テ該何某カ糾彈サレ而テ之ニ由テ陳述サレタル如ク郡ノ陪審官ニ依テ決罪サレタル(或ハ若シ被告人カ告訴狀ニ付テ決罪サレタリセハ其實質ヲ陳述スヘシ)

或ル告發書ニ付テ該何某ニ對シテ公布サレタル法外刑ノ公告ニ於ルカ如クニ記録及手續ニ於テモ亦著明ナル錯誤カ該何某ノ詞訟ニ由テ予輩カ告知サレタル如ク該何某ノ大損害ニマテ出來シタルカ故ニ予輩ハ該錯誤(若シ錯誤アラハ)カ正當ニ修正サレ而テ完全ナル且迅速ナル裁判カ該何某ニ爲サル、事ヲ欲スルヲ以テ汝ニ命令ス若シ該法外刑カ陳述サレタル如ク予輩ノ前ニ回報サレタレハ然ル時ハ該記録及手續ヲ檢査シテ汝カ正當ニ且英國ノ法律及慣習ニ從テ爲サレヘク至當ナルヘキカ如クニ該法外刑ヲ錯誤ノ爲ニ廢滅スル爲メ尙此上爲サシムルヲ得ル事ヲ、我治世ノ第二十五年ノ此十一月二十日ウヰストミンストルニ於テ予輩自ラ證ス

治安書記又ハ誤審令狀ノ向ケラレタル裁判所ノ他ノ官吏ニ之ヲ交付スル上ハ該書記又ハ官吏ハ記録ヲ作り而テ裁判所ニマテノ回報書ヲ

製出スヘシ、左ニ記載スルハ該令狀カ四季裁判期ノ判事ニ宛ラレタル時ノ回報書ノ書式ナリ是ハ該裁判期ノ判事長ニ於テ署名捺印サル、ナリ

即チ何々郡〔該何々郡内ノ治安ヲ保持シ且亦同郡内ニ犯サレタル種々ノ重罪、損害罪及他ノ輕罪ヲ審問斷定スルヲ委任サレタル我女帝陛下ノ治安ノ保持者及判事ノ一人ナル何某エスクハイヤナル予ハ予ニ交付サレタル此令狀ノ權ニ由テ同令狀中ニ記載ノ爲サレタル何某ニ對シテ爲サレタル或ル犯罪報告狀ニ於ル記録及手續ヲ之ニ關スル總テノ物ト共ニ予ノ捺印ヲ以テ明白ニ及公ニ我女帝陛下ニ送致ス、其證トシテ該何某ナル予ハ上帝ノ恩惠ニ依テ大貌列頓及愛蘭合衆帝國ノ女帝ニシテ宗教ノ保護者ナル我國君ゾキクトリヤ陛下ノ治世ノ第二十五年及我教主紀元千八百六十一年十二月七日予

ノ署名捺印ヲ此等ノ證書ニ爲シタリ

何某 (署名捺印)

左ノ如ク之ニ批書ス

此令狀ノ執行ハ之ニ附添サレタル或ル陳述書(最前ノ手續ノ)中ニ顯著ナリ

何某 (署名)

若シ全記録カ誤審令狀ノ向ケラレタル下等裁判所ニ於テ保證サレヌ又ハ正實ニ保證サレサレハ民事々件ニ於ルカ如ク刑事々件ニ於テモ亦錯誤ノ原告人ハ記録ノ部分カ脱漏サレタリ而テ下等裁判所ニ保證サレヌニ存在スルヲ示シテ記録ノ不完全ヲ辨スルヲ得而テ審査令狀カ裁定セラルヘシ故ニクインスベンチ裁判所ヨリエクスチエツカル、チエムバルニマテノ誤審令狀ノ討論上下等裁判所ニ於ル裁判停止ノ請願ノ記載カ記録面ニ見ヘカリシ事カ故障サレシ場合ニ於テ故

障ヲ爲スハ當時既ニ遲シト認メラレタリ而テ判事パーシクハ其問題ヲ起ス爲ニハ錯誤ノ原告人カ記録不完全ヲ辨セサル可ラサリシト云ヒタリキ

錯誤ノ指定——誤審令狀カ正當ニ回報サレタレハ次ノ手續ハ錯誤ノ指定ナリ、重罪ノ告訴ニ付テハ令狀ヲ請求シタル一方カ錯誤ヲ指定スル爲ニ自身出廷セサル可ラス而テコルナル氏ノ刑事手續書ニハ若シ令狀ヲ請求シタル一方ノ者カ訊問ノアリシ郡又ハ府ノ監獄内ニ監守中ナレハ此法式ノ目的ノ爲ニ保身令狀ヲ以テ引致サレサル可ラス其保身令狀ハ誓言書ヲ以テ請願サレサル可ラスト云ハレタリ此手續ハホルロウエー(人名)事件ニ用ヰラレタリキ然レモ其緊要ニ關スル裁判所ノ意見ハ明白ニ知ラレサリキ又重罪ニ付テ告訴サレタル人カクインスベシテ裁判所ヨリエクスチエツカカル、チエムバルニ錯誤ヲ提出セシ

場合ニ於テハ第四世ウヰリヤム帝即位第二年ノヒラレ一裁判期ノレギユレト、ゼチラールス(一)規則ノ爲時々布告スル規則ヲ云フニ從ヒ及習慣法手續條例ニ從ヒ民事々件ノ錯誤ニ於ル手續ヲ指揮スル一般ノ規則ハ適用セサルナリ但シ被告人ハエクスチエツカカル、チエムバル裁判所ニ引致サレ而テ此所ニ於テ記録ノ審査ヲ請願シ而テ錯誤ヲ指定スル書面ヲ該裁判所ノ官吏ニ交付セサル可ラス而テ討論及裁判言渡中出頭セサル可ラス而テ檢事長ハ斯ク錯誤ノ指定書カ交付サレタル上ハ直チニ口演ヲ以テ錯誤ニ對シテ抗辨スルヲ得、保身令狀ノ費用及獄吏ノ旅費ハ錯誤ノ原告人ニ於テ負擔サル、モノナリ左ニ記載スルハクインスベシテ裁判所ニ於テ一般ノ錯誤ノ指定書ノ書式ナリ

錯誤被告人 何某ヨリ

錯誤被告人 女帝ニ對ス

今即チ此同裁判期中ノ何々日ニ於テウエストミンストルニ於ル我
 女帝陛下ノ前ニ何々ニ收監サレタル該何某カ其適當ナル資格ヲ以
 テ來ル而テ直チニ言フ上文所陳ノ記録及手續ニ於テ且亦該何某ニ
 對シ上文所陳ノ裁判ノ言渡ニ於テ著明ノ錯誤カ之ニアリ即チ上文
 所陳ノ告訴狀及其狀中ニ包含サレタル事件ハ今該何某ニ對シテ言
 渡サレタル裁判ヲ保証スヘキ又ハ上文所陳ノ損害罪、侮辱罪及偽造
 罪(場合ニヨリテ)ニ付テ該何某ヲ決罪スヘキ法律上有効ノモノニア
 ラサル事ニアリ是故ニ之ニ著明ノ錯誤アリト且亦錯誤カ之ニアリ
 上文所陳ノ告訴狀ニ付テ裁判カ上文所陳ノ式ヲ以テ該何某ニ對シ
 テ言渡サレシ事ハ記録ニ由テ顯著ナリ然ルニ此英國ノ法律ニ依レ

ハ該何某ハ是故ニ放免セラレ而テ之ニ由テ日ナシニ行クトノ裁判
 カ該何某ノ爲ニ言渡サレカルヘカラサリシ事ニアリ是故ニ之ニ著
 明ノ錯誤アリト而テ該何某ハ請願ス上文所陳ノ裁判ハ錯誤ノ上文
 所陳ノ記録及手續ニアルカ爲ニ翻覆サレ而テ廢棄サレ而テ完ク無
 効ノモノト爲カル、トチ得而テ該何某カ此帝國ノ習慣法ニ挽回サ
 レ而テ現今ノ場合ニ於テ其損失シタル總テノ事物ニ本復サル、ト
 チ得ルチ

錯誤ニ於ル抗辨——錯誤指定書ノ謄本カ告訴人ニ交付サレ而テ裁判
 所ノ手續及習行ニ從テ命令カ檢事長又ハ女帝ノ檢事兼檢屍官ニ爲サ
 レタル後抗辨ナキ場合ニ於テハ原告人ハ裁判ヲ得ル權利アル者ナリ
 錯誤カ重罪ニ對スル裁判ニ付テ提出サレ而テ國帝ハ之ニ對シテ抗辨
 セサレハ被告人ハ放免セラルヘシ、ホース(人名)ノ事件ニ於テ國帝ハ抗辨

セサリシヲ以テ裁判所ハキ、シグススニテ裁判所ノ檢事兼檢屍官カ告
 訴人及會計部ノ代言人ニ與ヘラレヘキカ爲コ通知後四日內ニ抗辨チ
 爲スヘキコアラサレハ裁判カ被告人ノ利益ノ爲ニ記入サルヘシトノ
 終結命令最前同一ノ効力チ有スル一命令カ爲サレタルヲ以テ)チ爲シ
 タリ而ルニ檢事ハ抗辨チ爲サ、リシヲ以テ裁判カ被告人ノ爲ニ言渡
 サレ而テ被告人ハ放免セラレタリキ
 左ニ記載スルハ錯誤ノ抗辨ノ書式ナリ

我教主紀元千八百六十一年即チダヰトリア女帝ノ治世ノ第二十
 五年ノミカエルマス裁判期ノ十二月十二日ニ於テ、
 而テ我女帝陛下ノ爲ニ此資格チ以テ告訴スル女帝ノ前ノ我女帝陛
 下ノ檢屍官兼檢事ナル何某エスクハイヤハ此裁判所ニ出席シ而テ
 上文所陳ノ方法及式ヲ以テ錯誤ノ爲ニ上文ニ指定サレタル上文所

陳ノ事件ヲ聽スルヲ以テ我女帝陛下ノ爲ニ言フ上文所陳ノ記録及
 手續ニ於テハ何レノ錯誤モアラサルナリト是故ニ我女帝陛下ノ該
 檢屍官兼檢事ハ請願ス此我女帝陛下ノ裁判所ハ今上文所陳ノ記録
 及手續及之ニ由テ上文所陳ノ如ク言渡サレタル裁判并錯誤ノ爲ニ
 上文ニ指定サレ而テ辨セラレタル事件ヲ檢査スルチ得而テ裁判カ
 全ク確定サル、チ得ル事チ

若シ錯誤ノ抗辨カ檢事長ヨリ爲カレレハ書式ハ左ノ如シ
 而テ我國君女帝陛下ノ檢事長ナル該スルウヰリヤム、アサトノナ
 イトハ其適當ナル資格チ以テ此裁判所ニ出席シ錯誤ノ爲ニ上文ニ
 指定サレタル上文所陳ノ事件ヲ聽スルヲ以テ我女帝陛下ノ爲ニ言
 フ云々ノ記録及手續ニ於テ云々

コンシリユム(錯誤ノ討論ノ爲ニ定メ)錯誤ノ抗辨書カ提出サレレハ

速ニ各ノ一方ハ刑事局ヨリコンシリユムノ命令ヲ得ルヲ得此命令
 ハ對手ノ一方ニ執行サレサル可ラス、コンシリユムノ書式ハ左ノ如シ
 ヲ
 少クトリヤ女帝ノ治世ノ第二十五年ノ十一月一日月曜日、
 クインスベッチ裁判所ニ於テ(英國ウオアウサツクシーヤ郡)錯誤原
 告人何某ヨリ錯誤被告人女帝ニ對ス、錯誤被告人ノ請求ニ由テ此告
 訴ニ於テコンシリユムカアル事及此事件カ本年十一月十三日水曜
 日ニ於テ討論ノ爲ニクラオンペーバル(用紙名)ニ書記サル、事カ命令
 サル、モノナリ

何某氏ノ請願ニ由テ

裁判所ニ依テ

コンシリユムノ命令ハ事件カ討論ノ爲ニ用紙ニ記入サレヘキ日ヲ特
 示セサル可ラス而テ倫敦府ノ四十里内ハ斯ノ如キ日ノ少クモ六日前

ニ而テ總テ他ノ場合ニ於テハ八日前ニ調製サレ而テ執行サレサル可
 ラス
 事件ノ明細書——討論ノ爲ニクラオンペーバルニ記入サレタル總テ
 ノ事件ニ於テハ告訴人又ハ其代言人ハ手續ノ明細書ヲ裁判所ノ上席
 ノ判事二名ノ各ニ交付スヘシ而テ被告人又ハ其代言人ハ同様ニ明細
 書ヲ作り而テ事件ノ討論ノ爲ニ用紙ニ記入サレヘキ日ノ二日前ニ之
 ヲ該裁判所ノ第三及第四ノ判事ノ各ニ交付スヘシ而テ斯ノ如キ數種
 ノ明細書ハ總テノ事件(特別ノ事件カ裁判所ノ意見ニ附スル爲ニ留置
 サレタル場合ノ外)ニ於テ手續書ノ寫及廢滅スル爲ノナイサイ命令書
 又ハコンシリユムノ命令書ノ寫ト共ニ其討論サレヘク企テラレタル
 點ヲ其紙端ニ含有シ又ハ之ニ附セラレ而テ共ニ交付サレヘキ別紙中
 ニ含有スヘシ但シ斯ノ如キ討論ノ點ヨリハ何レノ他ノ考説又ハ事件

チ含有セサルヘシ而テ裁判カ若シ裁判所カ欲スレハ明細書ヲ判事ニ
交付スルチ怠リ又ハ討論ノ點ヲ指示スルコトナク之ヲ交付スル一方ノ
不利ニ裁判所ヨリ言渡サルヘシトノ事カ刑事局ノレギユレトセテラ
ールス(前文ニ出ツ)第三十二號ニ由テ命令サレタリ
左ニ記載スルハ明細書ノ書式タルコトヲ得

クインズベーンチ裁判所ニ於テ、上帝ノ恩惠ニ依テ大貌列頓及愛
蘭合衆帝國ノ女帝ニシテ宗教ノ保護者等ナル我國君ゾキクトリヤ
陛下ノ治世ノ第二十五年ノヒラレレ裁判期ノウエストミンストル
ニ於ル我女帝陛下ノ前ノ答辨、
レンカシーヤ郡女帝ノ記録ノ答辨ノ中、我女帝陛下ハランカス
トル郡ニ於テ及ヒ爲ニ其治安ノ保持者及同郡内ニ犯サレタル種々
ノ重罪、損害罪及他ノ輕罪ヲ審問斷定スルモ任セラレタル其判事ニ

此等ノ言語ニ於テ完フサレタル陛下ノ令狀ヲ送付シタリ
此所ニ誤審令狀、記録ノ寫、錯誤指定書ノ寫、錯誤抗辨書ノ寫ヲ記載シ而
テコンシリユムノ命令書ノ寫ヲ附加スヘシ
明細書中錯誤指定書ノ紙端ニ記ルサレヘキ討論點ハ固ヨリ各特別ノ
事件ニ於テ異ナルモノナリ然レモ左ノ先例ハ之ヲ調製スルノ乘タル
コトヲ得

錯誤ノ原告人ハ裁判カ特別ニ指定サレタル錯誤ノ各及總体ノ理由
ニ依テ錯誤アルモノナル事及特ニ告訴狀ハ何某ニ於テ逃走スヘキ
企テ示サス原告人チ其手續ト連接セシメス且記載サレタル數告示
ハ只一罪ノミニ關スルヲ以テ重複ノ爲ニ不正ノモノナリトノ事チ
主張スヘシ亦少クモ一個ノ不正ノ告示アリテ一般ノ裁判ハ總体ニ
對シタルモノナル事チ主張スヘシ且亦ゾキクトリヤ女帝即位第五

年及第六年ノ條例法第百十章ニ由テ創定サレタル如キ管轄カ示サレサル事ヲ主張スヘシ

錯誤ニ於ル保釋——誤審令狀ノ未決中反逆又ハ重罪ノ事件ニ於ル被告人ハ裁判ノ執行中ニアルヲ以テ監守内ニアルナリ然レモ輕罪ノ事件ニ於テハ誤審令狀ノ終審ノ裁決アルマテ執行カ停止セラル、コトヲ得而テ被告人ハ誤審令狀ヲ克ク處辨スヘキ且該令狀ノ回報サレヘキ裁判所ニ該令狀ニ對シテ裁判カ下サレヘキ日ニ親ヲ出頭スヘキ且亦若シ四日前ノ通知書カ被告人又ハ其代理人又ハ保證人ニ親シク送付サレテ或ハ之ヲ該被告人又ハ代理人又ハ保證人ノ最後ノ知ラレタル住所ニ留置スルヲ以テシイニスベシヲ裁判所又ハ其判事ヨリ命令サレタルハ該令狀上ノ何レノ手續ノ爲ニ定メラレタル日及時ニ於テ親ヲ出頭スヘキ而テ日々斯ク出頭シ而テ許可ナクシテハ裁判所ヲ退カ

サルヘキ且裁判ノ確定サレタル場合ニ於テハ裁判ニ從テ被告人ヲ監獄ニ還付スヘキ承諾ヲクイニスベシヲ裁判所ノ判事又ハ上等裁判所ニ於テ審理中ノ訴訟ニ於テ特別ノ保釋ヲ許可スル委員ニ於テ認可サレヘキ充分ナル二人ノ保證人ト共ニ記入スル上ハ誤審令狀ノ未決中禁獄ヨリ放釋サレヘキ而テ裁判ニ由テ徴収サレタル何レノ罰金ノ金額ノ返戻ヲ受クヘキ權利アル者ナリ(ゾ)トリヤ女帝即位第八年及第九年ノ條例法第六十八章第一條、同第十六年及第十七年ノ條例法第三十二章第一條)若シ被告人カ克ク誤審令狀ヲ處辨スルコトヲ怠リ又ハ該令狀上ニ得ラレヘキ何レノ手續ニ付テ誤審裁判所ニ自ラ出廷スルヲ怠レハ該裁判所ハ零式方法ヲ以テ且何レノサイル、フエーシアス令狀(裁判所ニ出頭シテ理由ヲ示サハ、裁判ヲ執行)ヲ發スルコトナク承諾シ承諾ヲ没収スル旨ヲ被告人ニ通達スル令狀)ヲ發スルコトナク承諾書ヲユクサテツカル裁判所ニ没収セラレヘキヲ命令スルコトヲ得且亦

年及第六年ノ條例法第百十章ニ由テ創定サレタル如キ管轄カ示サレサル事ヲ主張スヘシ

錯誤ニ於ル保釋——誤審令狀ノ未決中反逆又ハ重罪ノ事件ニ於ル被告人ハ裁判ノ執行中ニアルヲ以テ監守内ニアルナリ然レモ輕罪ノ事件ニ於テハ誤審令狀ノ終審ノ裁決アルマテ執行カ停止セラル、コトヲ得而テ被告人ハ誤審令狀ヲ克ク處辨スヘキ且該令狀ノ回報サレヘキ裁判所ニ該令狀ニ對シテ裁判カ下サレヘキ日ニ親ラ出頭スヘキ且亦若シ四日前ノ通知書カ被告人又ハ其代理人又ハ保證人ニ親シク送付サレテ或ハ之ヲ該被告人又ハ代理人又ハ保證人ノ最後ノ知ラレタル住所ニ留置スルヲ以テクインスベシテ裁判所又ハ其判事ヨリ命令サレタルハ該令狀上ノ何レノ手續ノ爲ニ定メラレタル日及時ニ於テ親ラ出頭スヘキ而テ日々斯ク出頭シ而テ許可ナクシテハ裁判所ヲ退カ

サルヘキ且裁判ノ確定サレタル場合ニ於テハ裁判ニ從テ被告人ヲ監獄ニ還付スヘキ承諾ヲクインスベシテ裁判所ノ判事又ハ上等裁判所ニ於テ審理中ノ訴訟ニ於テ特別ノ保釋ヲ許可スル委員ニ於テ認可サレヘキ充分ナル二人ノ保證人ト共ニ記入スル上ハ誤審令狀ノ未決中禁獄ヨリ放釋サレヘキ而テ裁判ニ由テ徴収サレタル何レノ罰金ノ金額ノ返戻ヲ受クヘキ權利アリ者ナリシテトリア女帝即位第八年及第九年ノ條例法第六十八章第一條、同第十六年及第十七年ノ條例法第三十二章第一條若シ被告人カ克ク誤審令狀ヲ處辨スルコトヲ怠リ又ハ該令狀上ニ得ラレヘキ何レノ手續ニ付テ誤審裁判所ニ自ラ出廷スルヲ怠レハ該裁判所ハ零式方法ヲ以テ且何レノサイル、フエーシアス令狀(裁判所ニ出頭シテ理由ヲ示サハ、裁判ヲ執行シ承諾ヲ沒收スル旨ヲ被告人ニ通知スル令狀)ヲ發スルコトヲ承諾書ヲユクヌテツカル裁判所ニ沒收セラレヘキヲ命令スルコトヲ得且亦

誤審令狀ヲ討論ナク廢滅セラレヘキヲ命令スルヲ得而テ各ノ斯ノ如キ場合ニ於テハ被告人ハ即時裁判ノ執行ヲ受クヘキ者タルヘシ(少井クトリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第三十二章第二條)被告人カ適當ノ承諾書ヲ提出スルヲナク且條例法ノ指令ニ從テ保証サルハナクシテ監獄ヨリ放釋サレタリセハ其決罪ノ爲サレシ裁判所ハ其逮捕及再収監ノ爲ニ更ニ令狀ヲ發スヘキヲ命令スヘシ確定ノ裁判ニ若シ下等裁判所ノ裁判カ確定サルレハ左ニ記載スルハクインズベシテ裁判所ノ書式ナリ

之ニ由テ上文所陳ノ記録及手續及上文所陳ノ方法及式ヲ以テ言渡サレタル裁判并該何某ニ於テ上文ニ錯誤ノ爲ニ指定サレタル上文所陳ノ事件カ視ラレ而テ今此我女帝陛下自身ノ前ノ我女帝陛下ノ裁判所ニ於テ充分ニ了解サレ而テ之ニ付テ熟議カ爲サレタルヲ以

テ上文所陳ノ記録又ハ手續ニ或ハ上文所陳ノ裁判ノ言渡ニ錯誤アラサル事カ今此我女帝陛下ノ裁判所ニ顯著ナリ是故ニ上文所陳ノ裁判ハ全ク確定サレ而テ充分ナル効力ヲ有スル事カ此裁判所ニ於テ熟議サレ而テ裁判サルハモ少ナリ
被告人カ誤審令狀上ニ得ラレタル何レノ手續ニ付テ裁判所ニ自ラ出頭シ而テ裁判カ之ニ由テ確定サレ又ハ該令狀カ廢滅サレヘキ各ノ場合ニ於テハ誤審裁判所ハ即時女帝ノ監獄ノ看守人ニ被告人ヲ渡スヲ得而テ此被告人カ禁獄セラレヘシ裁判サレタリシ監獄ノ看守人ニ之ヲ引渡スヘキヲ前ノ看守人ニ命令スルヲ得而テ女帝ノ監獄ノ看守人ハ之ニ由テ被告人ヲ裁判ヲ執行シテ安全ナル監守内ニ看守セシムルニシテ監獄ノ看守人ニ之ヲ引渡スヘシ(少井クトリヤ女帝即位第十六年及第十七年ノ條例法第三十二章第四條)此條例法ノ正條ニ從テ出サ

レタル被告人ノ承諾書カ没収サレヘキヲ命令サレタリシ事或ハ誤審令狀上ノ裁判カ確定サレタリシ事或ハ該令狀カ廢滅サレタリシ事及裁判ノ執行ニ於テ被告人ヲ監獄ニ交付スルヲ四日間經過シタル後尙怠ル事カ誤審裁判所ノ相當ノ官吏ノ誓言書又ハ證書ニ由テウエストミンストルコ於ル上等記録裁判所ノ判事ノ一人ニ顯著ト爲サレヘキ時ハ毎ニ其判事ハ其署名捺印ヲ以テ令狀ヲ發シ而テ斯ノ如キ被告人ヲ逮捕セシメ而テ此被告人ニ對シテ言渡サレタル裁判ヲ執行シテ禁獄サレヘク裁判サレタル監獄ニ送付セシムルヲ得(同章第五條)被告人カ之ニ對シテ言渡レタル裁判ヲ執行シテ何レノ誤審裁判所ヨリ収監サレヘキ各ノ場合ニ於テ及被告人カ何レノ令狀ノ權ニ由テ又ハ他ノ方法ヲ以テ該裁判ノ執行ノ爲メ監獄ニ交付サレヘキ各ノ場合ニ於テ斯ノ如キ被告人ノ禁獄(若シ禁獄カ該執行ニ從テ開始サレサルヘ

ケレハ)ノ期限ハ該裁判ニ從テ禁獄サレヘク裁判サレタル監獄ニ實際監守トナリシ日ヨリ起算セラルヘシ而テ若シ被告人カ錯誤ノ保釋ヲ以テ禁獄ヨリ放釋サレタルヘケレハ其被告人ハ該執行ニ由テ既ニ禁獄サレタルヘキ期限ト合算シテ其上文所陳ノ如ク禁獄サレヘク裁判サレタリシ期限ト同シモノトナル如キ増加ノ期限間同監獄ニ禁獄セラルヘシ(同章第六條)輕罪ニ對スル裁判ノ執行ノ爲メ被告人ヲ監獄ニ交付スルニ懈怠カ爲サレ而テ此條例法ノ正條ニ從テ該被告人ノ監獄ニ交付ヲ強迫スル爲ニ之ニ對シテ令狀カ發セラレタルヘケレハ其被告人ハ斯ノ如キ交付ノ費用及雜費ヲ拂フヘキ責アル者タルヘシ而テ若シ告訴人カ被告人ノ禁獄滿期前ニ斯ノ如キ費用及雜費ノ金額ヲシインスベンチ裁判所ノ刑事局ノマストル又ハ其助手ノ一人ニ於テ保證セシメ而テ該マストル又ハ助手ノ署名ヲ以テ斯ク保證サレタル金

額ノ証書ヲ被告人ニ渡シ而テ監獄ノ看守人又ハ其代理人ニ委託シタルヘケレハ然ル時ハ其被告人ハ該費用又ハ雜費カ拂ハレタリシマテ或ハ家資分散シタル負債者又ハ社資分散ノ負債者ノ救助ノ爲ニ裁判所ヨリ放釋ノ命令カ爲サレタリシマテハ放釋サレサルヘシ(同章第七條)

翻覆ノ裁判——若シ下等裁判所ノ裁判カ翻覆サルレハ左ニ記載スルハクイノズベシナ裁判所ノ裁判ノ書式ナリ

之ニ由テ總テ及單ナル說示部カ視ラレ而テ此我女帝陛下自身ノ前ノ我女帝陛下ノ裁判所ニ於テ了解サレ而テ上文所陳ノ記録及手續及該何某ニ於テ上文ニ指定サレタル錯誤及上文所陳ノ記録及手續中ニ見出サレタル他ノ錯誤カ注意シテ檢査サレ而テ之ニ付テ熟議カ爲サレタルヲ以テ上文所陳ノ記録及手續ニ著明ノ錯誤アル事カ

今此我女帝陛下ノ裁判所ニ顯著ナリ是故ニ上文所陳ノ裁判ハ上文所陳ノ錯誤ノ爲ニ及上文所陳ノ記録及手續中ニ見出サレタル他ノ錯誤ノ爲ニ翻覆サレ廢棄サレ而テ全ク無効ト爲サル、事及該何某カ之ニ付テ日ナシニ行クヲ得ル云々ノ事カ此裁判所ニ於テ熟議サレ而テ裁判サル、モノナリ

從前ハ若シ下等裁判所カ錯誤アル裁判ヲ言渡タリセハ誤審裁判所ハ適當ノ裁判ヲ言渡シ或ハ記録ヲ下等裁判所ニ還付スヘキ權ヲ有セス但シ必ラス裁判ヲ翻覆シ而テ被告人ヲ放免セサル可ラサリキ然ルニ現今ハ何レノ誤審令狀カ何レノ刑事々件ニ於ル何レノ告訴狀、告發書、犯罪報告狀又ハ審問書上ノ裁判ニ付テ提出サレ而テ誤審裁判所カ裁判ヲ翻覆スヘキ時ハ毎ニ適當ノ裁判ヲ言渡シ又ハ下等裁判所カ斯ノ如キ告訴狀、告發書、犯罪報告狀又ハ審問書ニ對シ適當ノ裁判ヲ言渡ス

コヲ得ル爲ニ記録ヲ下等裁判所ニ還付スルハ該誤審裁判所ノ爲ニ正當ナルヘシトノ事カダシクトリヤ女帝即位第十一年及第十二年ノ條例法第七十八章第五條ヲ以テ制定サレタリ

何レノ罪ニ付テ決罪サレタル何レノ人ニ對シテ裁判ノ翻覆ノ上ハ裁判及執行及總テ最前ノ手續ハ之ニ由テ完ク無効ノモノトナルナリ、被告人ハ若シ生存ナレハ又ハ若シ死亡セハ場合ニ依リ其相續人又ハ遺書取扱人又ハ管理人ハ斯ノ如キ錯誤アル裁判及手續ニ因テ其損失シタルヘキ總テノ事物ニ挽回サレヘキ權利アル者タルヘシ而テ其被告人ハ裁判ノ對シテ爲ニ言渡サレタリシ罪ヲ以テ決シテ告訴サレサリシト都テ同様タルヘシ然レモ翻覆サレタル裁判ハ再度ノ告訴ニ對スル障礙ニアラサルナリ

第二部 證據總論

第一章 如何ナル告白ハ證明サレサル可ラサル乎ノ事

被告人カ無罪ノ答辨ヲ爲ス場合ニ於テハ告訴人ハ訊問上告訴狀中ニ記載サレ而テ罪ヲ成スニ大切且緊要ナル各ノ事實及狀況ヲ強テ證明セシメラル、ナリ之ニ反シテ告訴ノ一方ノ再答辨又ハ他ノ答辨カ被告人ノ答辨ノ一般ノ拒否ヨリ成立スル場合ニ於テハ被告人ハ斯ク拒否サレ而テ爭論點ト爲サレタル事實ヲ證明セサル可ラサルナリ、斯ク證明サレヘク要セラレタル答辨ノ部分ハ左ノ數項中ニ論述セラルヘシ

時、事實ガ出來シタリト告訴狀中又ハ他ノ答辨中ニ陳述サレタル日及年ハ一般ニ大切ナルモノニアラス而テ事實ハ告訴狀提出以前ノ何レノ他ノ日ニ出來シタリト證明セラル、コヲ得(第一部第一章第三

節第二説文中時及場所ニ關スル確實ノ部及同部中ノウキクトリヤ女
 帝即位第十四年及第十五ノ條例法第百章第二十四條ヲ見ルヘシ然
 レモ此規則ニ左ノ例外アリ即チ第一總テ押印ナキ爲換券、金員拂渡証
 書又ハ他ノ書記シタル證書カ答辨サル、場合ニ於テハ日附カ若シ陳
 述サレタレハ訊問上證據ノ爲證書ノ提出サレタル時其日附ト符合セ
 サル可ラサル事第二券狀ハ之ニ記載ノ日附又ハ其交付サレタル日ニ
 從テ答辨セラル、トテ得ルカ故ニ若シ證據ノ爲提出サレタル券狀カ
 答辨中ニ陳述サレタル日附ニ異ナル日附ヲ有セハ之ヲ提出シタル一
 方ハ其券狀カ答辨中ニ辨セラレタル日ニ於テ實際交付サレタリシコ
 チ証明セサル可ラサル事第三若シ答辨中ニ陳述サレタル何レノ時カ
 記録ノ事項ヲ以テ証明サレサル可ラザリセハ時ハ正實ニ陳述サレサ
 ル可ラサル事此等ノ數種ノ目的ニ於テ斯ク陳述サレタル時ト提出サ

レタル當時證書又ハ記録ヨリ顯著ナル時トノ何レノ相違ハ之カ判事
 ノ裁量ヲ以テ修正サル、ニアラサレハ有害タルヘシ(第四世シヨイシ
 帝即位第九年ノ條例法第十五章、第四世ウキリヤム帝即位第十一年及
 第十二年ノ條例法第四十六章第四條、ウキクトリヤ女帝即位第十四年
 及第十五ノ條例法第百章第一條)第四何レノ事實ノ精密ノ日附カ告
 訴サレタル罪或ハ申開又ハ辨解ノ爲ニ辨セラレタル事項ヲ精密ニ確
 定決斷スルニ必要ナル時此點ニ於テ答辨ト證據トノ相違ハ修正サル
 、ニアラサレハ有害タルヘキ事第五、夜盜罪等ニ於ルカ如ク時カ犯罪
 ノ本質タル場合ニ於テハ其罪ハ假令ヘ其犯サレタリト告訴サレタル
 日ハ不緊要ニシテ告訴狀提出以前ノ何レノ他ノ日ニ犯サレタリト証
 明セラル、トテ得ルト雖モ夜間犯サレタリト証明サレサル可ラサル
 事是ナリ謀殺罪ニ於テモ亦死亡カ打撃ノ爲サレタリト證明サレタル

時ヨリ一年及一日内ニ出来シタリト証明サレサル可ラサルナリ
 場所——告訴狀又ハ後ノ答辨中ニ陳述サレタル事實カ其中ニ辨セラ
 レタル寺院區又ハ場所若シ何レカ辨セラレタリト雖モ是ハ現今一般
 ニ緊要コアラサルナリ)ニ於テ出来セリト証明スルハ一般ニ緊要コア
 ラサルナリ是ハ郡内又ハ裁判所ノ管轄ノ他ノ區域内ニ出来セリト証
 明スルヲ以テ足レリトス(第一部第一章第三節第二說文中時及場所ニ
 關スル確實ノ部ヲ見ルヘシ)然レモ是ハ郡内又ハ裁判所ノ管轄ノ他ノ
 區域内ニ出来セリト証明サレサル可ラス然ラサレハ被告人ハ放免サ
 レサル可ラス(第一部第一章第三節第二說文中時及場所ニ關スル確實
 ノ部ヲ見ルヘシ)ウヰルトシーヤ郡ニ於テ証券偽造罪ノ告訴狀ニ付テ
 偽造ノ爲換券カ曾テウヰルトシーヤ郡ニ住シ而テ偽名ヲ以テ大概一
 年間住居セシジエー、エスナル者ノ所爲ト見出サレ然ルニ其偽造券ハ

其者ノ所爲ト見出サレタルヨリ二ケ年餘以前ニシテ其者ノツイマー
 セットシーヤ郡ニ住居セシ時ノ日附チ有セシ場合ニ於テ是ハ罪カウ
 ヰルトシーヤ郡ニ於テ犯サレタリトノ効力アル證據ト認ラレサリキ
 然レモ假令ヘ罪ハ被告人ノ訊問サル、郡ニ於テ犯サレタリト証明サ
 レサル可ラスト雖モ斯ノ如キ証明ノ後ハ被告人ニ對スル告訴ヲ固定
 セントスル被告人ノ何レノ他ノ郡ニ於テ爲シタル所爲ハ適當ニ證據
 トシテ是認スヘキモノナリ若シ告訴狀中ニ記サレタル場所ノ如キハ
 決シテアラサル場所ナリト雖モ是ハ緊切ニアラサルナリ斯ノ如キ場
 合ニ於テハ告訴狀ハ無効ナリト布告セシ第五世ヘンリー帝即位第九
 年ノ條例法第一章第三條ハ現今ハ廢止サレタリ而テ此他ノ故障ノ理
 由ハ刑事々件ニ於テハ陪審官ノ現今郡ノ總体中ヨリ回報セラル、
 以テ除却サレタリ(第四世ジョージ帝即位第六年ノ條例法第五十章

第二十三條(一)告訴狀カ街道ノ強盜(即チ追剝ヲセゾト、トーマス、ペンス
 フォルダ寺院區ニ於テ犯サレタリト辨セリ然ルニ證人ハ之ヲベンス
 フォルダ寺院區ト稱セリ之ニ由テ告訴狀ニ記サレタル如キ何レノ寺院
 區カ郡内ニアリトノ證明アラサル事カ故障サレタリキ當時其前ニ於
 テ告訴狀ノ訊問サレタル判事リトルデールハ此故障ハ効力アルモノ
 コアラスト云ヘリ而テ同氏ハ此點ニ關シ諸判事ノ意見ヲ聽ク爲ニ一
 回事件ヲ留置セリ而ルニ判事ノ多數ハ郡内ニ告訴狀ニ記サレタル寺
 院區ノ成立ヲ確實ニ證明スルハ告訴人ニ於テ免レサル事ニアラスト
 認メ且斯ノ如キ寺院區ノ成立セサル事カ被告人ノ爲ニ確實ニ證明サ
 レシ場合ト雖モ如何ニ之ヲ認ムヘキ乎ノ疑アルコトヲ明言セリ
 然レモ寺院區及場所ノ緊切ナラサル事ニ關スル上文ノ規則ニ左ノ例
 外アリ即チ第一、若シ告訴狀ノ據テ製セラレタル條例法カ罰金ヲ罪ノ

犯サレタリシ寺院區ノ貧民ニ給與スルモノナレハ罪ハ告訴狀ニ記サ
 レタル寺院區ニ於テ犯サレタリト證明サレサル可ラサル事第二、道路
 チ修繕セサルカ爲ニ寺院區ニ對スル告訴狀ニ付テハ修繕ナキ道路ノ
 部分ハ該寺院區内ニアリト證明サレサル可ラサル事及事實ノ出來セ
 シ場所カ罪ノ緊要ナル成分タル總テ他ノ場合ニ於テモ亦同様ナル事
 第三、若シ答辨中ニ記載サレタル場所カ書記シタル證書ノ記載ノ部分
 トシテ陳述サレ又ハ記錄ノ事項ニ依テ證明サレサル可ラサレハ陳述
 サレタル場所ト提出サレタル書記シタル證書又ハ記錄ヨリ顯著ナル
 場所トノ何レノ相違ハ訊問上之カ修正サル、コアラサレハ有害タル
 ヘキ事第四、場所カ土地ノ記載ノ事トシテ陳述サレ而テ只ヴエコニ
 トシテノニ陳述サレサル場合ニ於テハ告訴狀中ノ記載ト證據トノ何
 レノ相違ハ假令ハ損害ハ一部分ハ一土地ニ止マルモノニシテ一部分

ハ移轉スルモノナリト雖モ全部カ一個ノ全キ事實タルヲ以テ土地ノ記載ハ移轉スル損害ニ付テ記載スルモノト成ルカ故ニ修正サル、コアラサレハ有害タルヘキ事はナリ故ニ例ヘハ住居家屋内ノ竊盜等ノ爲又ハ夜盜罪ノ爲又ハ闖入等ノ爲ノ告訴狀ニ付テ若シ告訴狀ト証據トニ家屋ノ存在スル寺院區又ハ場所ノ名或ハ之ニ付テ爲サレタル何レノ他ノ記載ニ相違アラハ被告人ハ判事カ告訴狀ヲ修正スルヲ至當ト思量スルニアラサレハ放免サレサル可ラサルカ如シ、此目的ニ於テハ規則ハ民事事件ニ於ルカ如ク刑事事件ニ於テモ同一ナリ而テ不住居^居ニ居^居スヘキ所ニ住居^居ニ居^居サルヲ云フノ訴訟ニ於テ寺院區カ告示中ニハセント、エセルボルグト稱セラレ而テ眞ノ名ハセント、エセルボルガナリト証據中ニ顯著ナリシ場合ニ於テハ是ハ有害ノ相違ト做サレタリキ又水堰ヲ設ケタル妨害ノ訴訟ニ於テ之カ「エッチ」ナル場所ニ設ケラレタリト告示中

ニ記載サレ而テ證據ニ「チー」ト稱スル同水流ノ下流ノ所ニ設ケラレタリト証明サレラレハ相違ハ有害ト做サレタリキ抑寺院區ノ記載ニ關シテハ現ニ相矛盾スル數說アリテ只若シ寺院區ノ記載カ誤解サレ能ハサルカ如キモノタラハ其精密ニ合法ノ名ヲ以テ又ハ其普通ノ名ヲ以テ記載スルモ効力アルモノナリトノ主義ニ於テ諸說一致シ能フ而已是故ニ不動産取戻ノ訴訟ニ於テ土地家屋カ「ファールンハム」ニアリト辨セラレ而テ「ファールンハム、ローヤル」ニアリト証明サレシ場合ニ於テハ是ハ二個ノ「ファールンハム」アル事カ示サレシコアラサレハ有害ノ相違ニアラスト認メラレタリキ、土地家屋ハ「ウエストバレー」ニアリト記サレ而テ其名ノ二個ノ寺院區即チ「ウエストバレー」アポントリム及「ウエストバレー」アポンセヴアルンカ同郡内ニアリト証明サレシ場合ニ於テ相違ノ故障ハ棄却サレタリ如何トナレハ普通ノ

談話ニハ附加名ハ用ラレス而テ記載ハ誤解サレ能ハサリシカ故ナリ
 又土地家屋カ「ラムベス」ノ寺院區ニアリトシテ記載サレ其寺院區ノ眞
 ノ名ハ通例「ラムベス」ト稱スト雖モ「セントメーレーラムベス」タル場合
 ニ於テ相違ハ不緊切ト做サレタリキテ「ロル」(名)ヨリウヰランズ(名)ニ
 係ル訴訟ニ於テ寺院區ハミツドルセクス郡ノ「セントジエームス」寺院
 區トシテ記載サレタリ而ルニ「セントジエームス」ノ寺院區ハ二個アリ
 テ「ハ」セントジエームス、クラーケンウエル」ト云ヒ而テ告示中ニ記載
 サレタル寺院區ナル「ハ」時トシテ「ハ」セントジエームス」ト云ヒ時トシテ
 「ハ」ウエストヨンストルリベルテ」ト於ルセントジエームス」ト稱スル
 事カ國會ノ條例法ヨリ顯著ナリシ此理由ヲ以テ記載ハ効力アルモノ
 ト做サレタリキ又不動産取戻ノ訴訟ニ於テ土地家屋ハミツドルセク
 ス郡内「セントリユート」寺院區ニアリト辨セラレ而ルニ其名ノ寺院區

二個アリテ「ハ」セントリユート」ト云ヒ而テ土地家屋ノア
 ル他ノ「ハ」時トシテ「ハ」セントリユート」ト云ヒ然レ
 モ尙普通ニ「ハ」セントリユート、ミツドルセクス」ト稱スル事カ顯著ナリ
 シ場合ニ於テ記載ハ誤解サレ能ハサルカ故ニ効力アルモノト做サレ
 タリキ一人ノ被告人カ告訴狀中ニ「ウールウイッチ」寺院區ニアリト陳述
 サレタル家屋ニ於テ夜盜罪ノ爲ニ中央刑事裁判所ニ於テ告訴サレタ
 リ其告訴人ハ寺院區ノ正名ハ「セントメーレーウールウイッチ」ナリト
 陳述セリ然ルニ第四世ウヰリヤム帝即位第四年及第五年ノ中央刑事
 裁判所條例第三十六章第二條ニ該寺院區ハ「ウールウイッチ」寺院區ト
 稱セラレタルヲ以テ告訴狀ハ之カ爲ニ有効ト做サレタリキ然レモク
 ラ「クラーケンウエル」寺院区内ノ家屋ヲ毀テ入りタル損害罪ノ訴訟ニ於テ
 「クラーケンウエル」ニ「ハ」セントジエームス」及「セントジヨン」ナル二個ノ